



304号

希望の灯をともしよう

2006

今年こそ平和な世界をつくりたい



希望の灯をともそう 304号

目 次

表紙	2006 今年こそ平和な世界をつくりたい	橋本 勝	
〈希望の灯〉をともし続けよう		編集部	1
Happy New Year !	みなさまのお年賀状から		2
「2006年 私は 私たちは」	近況報告・メッセージ		7
報告 五年ぶりのCSW—そしてニューヨーク		斎藤美栄子	34
報告 「第四回世界女性会議10周年記念会議」に出席して		小俣 光子	56
めじゃーなりすとのめ 女性と科学		元村有希子	62
沖縄から—新たな段階に入った辺野古の闘い—北部の「要塞化」を許さない		浦島 悦子	64
新潟から—中越大地震に関する 農業関係被害状況		星野 邦子	68
〈詩〉加担		堀場 清子	72
笑って怒って9 愛国の 教師ばかりに したい国		橋本 勝	77
〈怒〉歴史認識の共有をめざす日中韓共同編集「未来をひらく歴史」		俵 義文	78
黄土高原の小さな村の性暴力 中国山西省性暴力被害者の訴え5		小俣 光子	84
語りかけたいあなたへ66 笑うということ		大里 知子	92
〈提言〉何からはじめるか！二つの提言		古川ひろし	94
読書室 「レイト・レッスンズ—14の事例から学ぶ予防原則」	「ナガサキの郵便配達」		100
試写室 「ある子供」			102
TOPICS 史上最高女性43人当選…しかし／厚労省、均等法改正原案を提出	ほか		106
会と催し 日本軍はグアム原住民に何をしたか／改憲阻止大集会に1080人	ほか		116
あごらのあごら 親父のための育児休業／思うこと／お久しぶりです	ほか		132

〈希望の灯〉をともし続けよう



希望に満ち満ちている新年なのに、「心が重い」の声を聞く。

大量兵器温存の口実で、イラクに攻め込んだ米軍を支持してイラクに進駐した自衛隊は、二〇〇五年末までの予定を延長。自衛隊の名を「自衛軍」に改めることが発表されている。在日米軍基地も一段と強化された。

多年にわたって友好関係を保ってきた西アジア諸国との積み重ねも、戦後、営々と修復してきた中国・韓国との関係も一転させた、現在の政治のあり方を、深く憂慮している人びとは少なくないだろう。

最近多発する殺傷事件も、この国家のあり方と無縁ではない。そのなかで、子どもたちの通学が危ういとなると、防犯ブザーや衛星利用測位システム（GPS）つき携帯の普及が各地で始まった。

一見、「安全の保障」のように見えるが、それは「親であること」を機械に代わらせること。「安全」とは何か、それを「保障する」とは何か。一つ一つ注意深く点検し、たとえば「政治が悪い」のなら、遠くから批判するのではなく、その「政治」を変えよう。遠く高く見えることでも、接点は必ずある。

「いま自分に何ができるか」を正確に見きわめ、たとえ小さなことでも自分自身実行してはじめて絶望は希望に変わる。

二〇〇六年。私たちの〈希望の灯〉を、決してあきらめずに育て抜こう。

おめでとうございます 2006 元旦

中村道子



新年のごあいさつを申し上げます

2006  元旦

「ふえみん」は今年、創立60周年を迎えます。
逆風のなか、出会いとつながりを大切に
平和で暴力のない世界をつくるために
これからも全力を尽くします。

ふえみん 婦人民主クラブ

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-18-301
TEL 03 (3492) 3244 / 3238 FAX 03 (3401) 3450
eメール femin@jca.apc.org URL http://www.jca.apc.org/femin/



賀春



昨年はいろいろお世話になりました
本年もよろしく願い申し上げます
平成18年 元旦

あつと じきけが 続かて

けいけんいひひせん。

じ健康と お祈りいひひ。

山崎 良代子

あけましておめでとう



2006・1・1

今年 は ふんばり 年 であれ!! 赤澤 ヒロ子

A colorful new year 2006



発想や表現に自由がある様に、
私たちスタッフ一人ひとりが
独自のカラーを大切にしながら、
カラフルな対応を目指して参ります。
新体制になったマルチプルな
美・ファイン研究所を
これからもどうぞ 宜しくお願いいたします。

恭賀新年

2006年1月1日

新しい年を迎え皆様のご健勝と
ご多幸をお祈り申し上げます



昨年まは、じきけが 続かて
けいけんいひひせん。あつと
健康と お祈りいひひ。
山崎 良代子

井上 輝子

昭和新聞

昭和新聞

昭和新聞

瑞々々々々



2006
元旦

あけましておめでとうございます

フェミックスは昨年8月末に新事務所に移転しました。
いくつかのNPOとの共同事務所です。
いろいろな刺激を受けながら、フェミックスの目標である
『くらしと教育をつなぐWe』のリニューアルも計画中！
今後とも『We』とフェミックスを応援してください。
どうぞよろしくお願いたします。

有限会社フェミックス (福島恭子・中村愛子・大沼もも子)

〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-10-3 正和ビル8F Tel/Fax 03-3537-7303
E-mail: info@femix.co.jp http://www.femix.co.jp

あけまして
おめでとうございます
06 ● 元旦



真田ふた子



名古屋市市中村区

イキイキ童謡の会主宰

Sing&talk 戸田順子

吠

二〇〇六年 正月

新年あけまして
ふふいませ

昨年ありがとうございます。
今年は大の遠吠えの年ではありません。
平和憲法を生かす人の真剣な声が全国に
響きわたる犬の年でありますように。
私も元気で吠えております。

〒100 東京都港区赤坂二丁目十六番
五五〇三 電話 〇三(五五七)五五〇三

土井か子



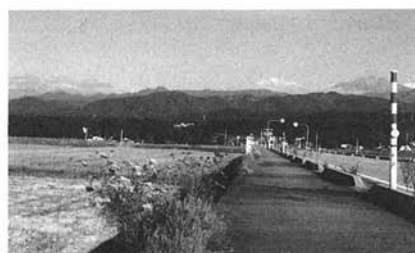
昨年ば色々とお世話になり
ありがとうございました
家族のご多幸を心より
お祈り申し上げます

尾崎 憲子

A HAPPY NEW YEAR

2006. 1. 1

本年もよろしくお願いいたします。



2005. 11. 1 快晴の立山連峰を遠望する

〒939-8141
富山市月岡東緑町
登石知子
☎・FAX 076-429-3299

賀正

幸多き新年を迎えられたことと思います
皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます

平成十八年 元旦



〒594-0003 大阪府都島区

白井孝欣

迎春

今年もご指導をよろしくお願い致します。
2006年 お正月

高橋学習センター 日本向老学会事務局
Tel(052)622-4926 Tel(052)622-4925
Fax(052)624-6950 Fax(052)624-6950
高橋ますみ

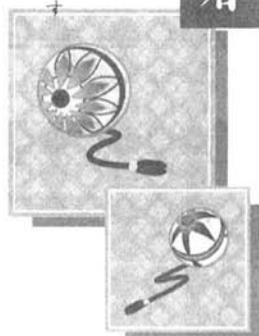
謹賀新春

今年もよろしく

おねがいいたします

ご多年を
祈念いたします

谷内清子
平成十八年 元旦



中国の袁晔さんから年賀状が……



二〇〇六年 私は 私たちは

「平和」への道を切り拓いていくためには、根元が大切であり、そのために

るためのネットワークは、厳しい状態が続いています。

今年の目標——一緒にやりましょう！

何を、どのようにすべきか、希望を失わずに生きたいものです。

宮崎、長崎では「あぐら」や「BOC」の出版物は店頭に並ばず、宝島社のジェンダーフリーバッシングなどは

(1) 党首として二期目。
社民党も一〇周年。パワーアップ!!

ラウンドテーブルについて、問題の核心をとらえ、行動にまとめていく

個人時代にふさわしい、おともおんなも本音で語り、マイノリティでも参加しやすい地域に変わりますように。(宮崎県三股町

(2) 人材を育てる。
若者や女性との意見交換会を。

く開かれた人間関係が、信頼を生み、ものごとを進めていく力になると思います。今年は、そのことに賭けて見たいと思います。

二宮義広・二宮チヌ(三)

(3) 「団塊世代よ、こんにちは」
キャンペーンをしていく。

心ばかりのカンパを贈ります。

(4) 二〇〇七年の統一自治体選挙と参議院選挙。候補者擁立。

(5) 憲法改悪阻止。
「社民党・憲法学校」の成功を。

(東京都調布市 奥平せい子)

*

(6) 在日米軍基地の強化をさせない運動をしていく。

鹿児島県の「まちづくり県民会議」は、新しいスタッフを迎えて再出発。

人と人とのつながり、
「愛と平和の年」になるよう、がんばり

(7) 国民投票法案と教育基本法改悪

平和運動、草の根の民主主義を広げ

法が上程されないように。

- (8) 医療制度改悪をさせず、医療制度の改革を！

- (9) 税金の使い道にメス。

- (10) 共謀罪を成立させない。

未決拘禁者のためのいい法律を。

- (11) 非正規雇用のための均等待遇の立法を。——均等法改正。

- (12) 民法改正の前進。そして実現を。

- (13) 脱原子力。そして水・食・物・

緑への取り組みをする。

- (14) 子どもや若者が生きやすい社会をつくる。

- (15) 戦後六一年目。

アジアで平和を作る外交や政策を。

- (16) 難民・外国人人人権のための立法と取り組み。

- (17) 映画・演劇をもっと見に行き、美術館に足を運ぶ。

- (18) ほとばしるような思いをズバツ

と表現していくー

- (19) 運動を毎日し、よくかんでごはんを食べる。体との対話。

- (20) たくさんの出会いと対話ー

二〇〇六年も全力でがんばりますー

ご声援を、今後ともよろしくお願いいたします。

(東京都千代田区 福島みずほ)

*

爽やかな新年をお迎えでしょうか。

昨年は手足骨折で、ご心配をおかけしました。またリハビリの身ですが、今年

年は国民保護法の市町村マニュアル

策定年ですー 九条を生かし、もっと安心して年を重ね、子どもを育てら

れ、一人ひとりが大事にされる格差のない社会を創るため可能な限り頑張っ

て参ります。今年もどうぞどうぞ、宜しく致しますー

さて新年早々、住民の声が届かず解

体撤去が予定される鹿児島市の潮見橋を渡り、妙行寺で除夜の鐘をついて振

舞い甘酒を頂いて新年を迎えました。

今年は平和が更に危なくなりそうです。力をあわせて平和を創って参りま

しょう。(鹿児島市 小川みさ子)

*

女性が参政権を得て六一年目の新春

を迎え、世界の人のため、世界平和のため、日本国憲法を改悪させない

運動を、強力に進めるために、女性の参政権を生かすことを誓っています。

(横浜市鶴見区 大槻勲子)

*

思いがけず寒さが厳しい新年をいかがお過ごしですか。

昨年何かと心ふさぐ出来事の多い

一年でした。「シェンダー」や「九条」をめぐる誤解や理解不足にエネルギー

を削がれることもありました。

五十路も半ばを越えると、心身ともに限界を感じ、あきらめそうになりながらも、多くの方々に支えられて、何とか持ちこたえて来られた気がします。ありがとうございます。今年もこうして一日一日前向きに歩いていこうと思います。

白髪激増、五百円ハゲ、血圧上昇、動脈硬化、白内障進行、ド忘れ増加、ダンスの振りを忘れ、棒立ち…。

次は何？

「来るんじゃないから来とおーみ!!」

メディアとメディアを読み解く力の衰退に気分が晴れませんが、「あー」に救われます。

お体大切になさって、今年も力を発揮してくださいようお願いいたします。

(香川県丸亀市 日野(酒井)明世)

*

年が明けてはや一週間が経ちました。災い多く不穏であった昨年ゆえ、穏やかな新春の訪れを、誰もが心待ちにしていたように思います。

私自身は、国会議員になって迎える六度目のお正月。年末は七年前に他界した兄の遺品の整理と黒豆作りに集中。ずっとやりたいと思っていたながら手の回らなかつたことを、手がけました。私的なことになかなか時間の取れない議員生活ですが、昨秋、三期目の当選をして、二〇〇六年はますます議員としての仕事に傾注しなくてはならない立場となりましたので、せめて気がかりだった兄のことと、母伝来の黒豆の味に挑戦し、自分なりの年の区切りとしたいと考えてのことです。

大晦日は、自宅のすぐ近くの龍口寺で除夜の鐘をつかせていただき、元日には寒川にある一宮神社に初詣をし

て、この一年の無事を祈願。年明けの三が日はあいにくの曇り空、おまけにとても肌寒いお天気でしたが、とにかく新たな気持ちで迎えた新年です。

今年の最大テーマは、少子化問題。昨年暮れの国勢調査の発表以来、人口減少社会ということが連日のように話題に上っていますが、子どもを「社会の宝」と考えての政策づくりは、まだまだ本格的とは言えません。

折しも一月三日の新聞には、給食費の払えない小中学生が東京都では四人に一人、大阪府では三人に一人に及ぶことが報道されていました。小泉政権の言う景気の回復や株価の上昇、空前の企業利益などが、一方でこうした子どもたちを増やしていることこそ、何よりも重大な社会の崩壊の現れです。三二年間続けてきた小児科医としての立場からも、社民党の政策審議会長

(京都市北区 塚崎美和子)

*

今年も引き続き、仲間と一緒に、戦後新潟の女性史の掘り起こしにじっくり取り組んでいきたいと思っています。

(新潟県新潟市 植木知枝)

*

また、新しい一年が始まりました。お元気で、いらっしやることと存じます。

今年も、自分なりの夢を実現するべく、残り少ないエネルギーを、燃やしていきたいと、考えております。

本年も、よろしく指導くださいますよう、おねがいいたします。

(秋田県鹿角市 大里知子)

*

トリノを目指す選手たち。

若い世代に追いあげられながらも、なおも挑戦する選手たち。可能性を求

成の童謡運動の一助になるよう努力致しております。

(名古屋市中村区 戸田順子)

*

流されない確かな、非戦・平和の歩みを…と、年頭に心に期しております。

(京都市上京区 服部 素)

*

夫と二人三脚、友情に支えられもした昨年一年間でした。

本年も引き続きよろしく願っています。(横浜市青葉区 新美みつ子)

*

昨年は念願の移転も実施でき、医院は敷地・スタッフとも充実してきました。

今年は障害者自立支援法など医療福祉の転換の年になりそうです。

着実な実績を大切に行きたいと思っています。本年もどうぞよろしく

としても、全力を挙げて格差の是正と子育て支援に取り組んでいきたいと考えています。今年もどうかよろしくお願いします。

(東京都千代田区 阿部知子)

*

気が付けば、七年間(99〜)ビルマに通っていました。ビルマ線り人形をテーマとして出かけていたのですが、それは同時に軍事政権下での国の有り様や、人びとの暮らしを見せてもらうことになりました。八年目のビルマに一月十一日から出かけます。

(名古屋市中区 長谷川友子)

*

あけましておめでとございます
今年もたくさんの花が咲きますように。

歌ってしゃべって生かされている日々です。いささかの自負ですが、平

めたいと思う日々です。

(東京都港区 平松昌子)

*

毎日忙しい日々を、「充実した毎日」と勘違いしないよう、何が大事が見極めたいと思います。今年はゆとりを持って過ごしたいものです。

本年もよろしく願います。

(福岡県古賀市 石原豊子)

*

二〇〇六年 春

——未来への瓦礫ではなく、

新しい春へ——

じゅくり、ゆっくり、続ける意味が見える季節です。今年は「反権力のやさしさ」を特集できるといいですね。(東京都葛飾区 しま・ようこ)

*

二〇〇六年が平和な年であるよう祈りたいと思います。

(東京都千代田区 林 陽子)

*

世の中暗いです。ヒラ入れで処罰されるなんて。もう昭和十七、八年当時まで悪くなっているのでしょうか。

「中国のオリンピックまでは」と思っても、日本はかつてのオリンピックを放棄しましたし、この国を子孫に残すのは罪のようです。

(東京都新宿区 杉山次子)

*

A Happy New Year for all the world

「発信する立場に立つことの大切さ」を教えて頂いたことを、いつも感謝しています。好奇心と志を大切に、ささやかですが、パソコンでの発信を続けたいと思っています。

今年もどうぞよろしく。

(神奈川県藤沢市 大浅田敦子)

東京に希望の灯がともった国際マラ

ソン・高橋尚子の快走。苦節二年余、支えた人々への、力強い温かなメッセージもよかった。

ジャジャ馬典子も見ならつて、今日は女性センター、明日はプールと、東へ西へとよく走る。

転ばぬようにと手綱をしめて夫は調教、飼い葉もこねる。農薬を嫌いな虫たちにやられた菊たちも、どうやら赤、白、黄色と大輪を咲かせてくれました。支えてくれた人々たちを喜ばせ、これで健康と満足。今年もこんなペースで歩みたい。

皆様の健康と幸せをお祈り致します。母校東京府立第四高女百年記念誌の原稿にとりこんでおります。特異な卒業年代ゆえ、平和を切望しながらの文を書いております。

(東京都府中市 滝島典子)

またたく間に一年が過ぎました。無

防備地域条例請求運動、改憲問題、総選挙、平和の白いリボン行動、市民白書の勉強会。それぞれの信条や党派を超えて一緒に働く喜びを分かち合えたこと。その一方、人間は信じられないものだ、つくづく骨身に沁みた一年でもありました。とにかく、ここからまた、歩み出さなければなりません。今年の課題です。もう此処まで来たからには神在わしませば、と心をきめて、平和への道をずっと歩き続けたいと願っております。笑われるかも知れませんが、私たちが生きた「あの戦時体制」が進行しているのを肌身に感じればこそ、黙せません。

今年一月一日を期して、アメリカとイラクの女たちが「Women Say No to War」(女は戦争にNOといふ)世界的な署名運動を立ち上げました。

三月八日の「国際婦人デー」に、最低一〇万の署名を集めて、ワシントンで大キャンペーンを計画しています。その他の国では、その国にある米国大使館にその集計を届けることになっています。藤沢では、よびかけをはじめました。

みなさんも一緒にしませんか。

(神奈川県藤沢市 浮田久子)

*

健やかな新年を迎えていらつしやることと存じます。私は静かなお正月ののんびり過ごしております。

二〇〇五年は、酷暑や寒波の自然だけじゃなく、ショッキングな出来事が目まぐるしく舞い込み、降りかかる悲喜こもこものあわただしい一年でした。私事では、その時々にくさんの愛に満ちたご配慮をいただきました。嬉しいことをわかし合い、哀しい

ことを乗り越える…そんな友情を糧に日々を送ることで、さまざま無理不逞に立ち向かえました。皆さんの温い心に支えられた年でした。本当に有難うございます。

二〇〇六年は、心身ともに健全を心がけ、エネルギーな年にしたaimoのです。平穏で平和な日常を目指してはいるんですが…何故たかお騒がせな言動が目に残るかも…。呆れたりなさらず、誉めたり叱ったりしながら、今年も仲良く付き合ってやって下さい。皆さんの二〇〇六年が、溢れるほどのしあわせでいっぱい的一年でありますことを心より願っております。

数々のやさしいお心遣いへの感謝を込めて！(香川県丸亀市 岡本恵子)

*

お目にかかる機会が少なくなりまして、お元気でしょうか。

持病の心臓病とつき合いつつ、まあふつうに暮らせる程度に元氣です。

今年はお目にかかりたいですね。

(東京都渋谷区 駒野陽子)

*

旧年中はたいへんお世話になりました。本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

私の抱負は、「子どもが大きくなっても、平和な世の中であってほしい。仕事にも夢を持ち続けて、一花咲かせたい年——」です。

あこらの皆様のご健康をお祈りします。
(福岡市南区 加藤祐子)

*

この六〇年間、私たちは戦争をしていない。

戦争はひとを殺し、殺されること。若者を戦場には送らない。

自国も他国も戦場にはしない。

さまざまな違いはあっている。

「平和憲法」のもとに手をつなぐ。声に出して読んでみよう。

くり返し、くり返し読んでみよう。

九条は世界の「たから」と、きっと気づく。

前文と九条に曲をつけてうたってみよう。

若いひとはラップもいい。

「平和憲法」の輪をひろげよう。

(千葉県我孫子市 綿津靖子)

*

Happy New Year
教室を開いて満一〇年になりました。

忙しいばかりで余裕がありません。いつもお声を掛けていただき、有難うございます。「あこら」を心より応援しています。

(横浜市港南区 新見麗子)

*

わたしがあなたがたを愛したよう

に、あなたがたも互いに愛し合いなさい。(聖書・ヨハネ福音書一三・一四)

昨秋、映画「マザー・テレサ」を観て

いたとき、カルカッタのマザーハウス

を二〇〇四年二月訪ねた時、その墓碑

に英文で刻まれていた「互いに愛し合

いなさい」の言葉が痛切に胸に迫って

きました。「修道院に私の居場所はない」

「マザーは神の言葉に押されて貧民

街へ向かいます。

年頭にあたって簡素なこの言葉を思

いながら過ごせたらと希っています。

お元氣でお過ごしになられるようお祈

り申し上げます。

〈あこら〉が長年、平和と民主化ひ

とすじに生きていらつしやることに、

心から敬意をささげます。

(東京都武蔵野市 富岡正敏)

*

楽しく美しく健やかに

ボランティアを体験させていただいております。

(鹿児島県鹿児島市 大山郁代)

*

うらの畑でポチがなく

正直いいさん ほったれば、

大判・小判はいりません

平和な世界と健康なからだを！

(滋賀県草津市 辻 昭子)

*

昨年は私の所属する「夕陽丘女性史グループ」が二五周年、「さわの会」が一〇周年を迎え、「あじろ」は三〇〇号を出しました。

私は「大阪市女性国際交流グループ」と「ユニフェム大阪」の活動に参加し、アメリカと中国への旅ができました。

今年も、新しいことに挑戦したいと思います。(大阪市東淀川区澤田和子)

*

「ご無沙汰しております。へ女性と政治を考える会」も、地元で細ぼそながら活動をつづけております。

(横浜市青葉区 国広陽子)

*

真っ白のカレンダーを彩るのに

あなたとの縦系・横系の関係を感じ

して、

新年のごあいさつを申し上げます。

本年もどうぞよろしくおつきあいを

お願いします。

(福岡市中央区 森崎民子)

*

仰ぎ見る冬の銀河を忘れ果て

今年もよろしくお願い申し上げます。

(福岡市中央区 河野信子)

*

日本では今、市場至上主義の、ネオリベラル経済学が勢力をえています。それだけに、「経済学は本来に人間を

幸せにするか？」というA・センの問いに注目しています。

(横浜市戸塚区 久場嬉子)

*

「あじろ」の継続を希っています。

(横浜市港北区 山口美代子)

*

いつもお世話様です。新年度の年会費とカンパ金です。頑張ってください。

(北海道釧路市 藤田卓也)

*

昨年十月より長野市の監査委員となり、三か月が過ぎました。改めて行政の奥深さを実感しているこの頃でございます。この経験を生かし、今年はずらなる飛躍の年にしたいと思います。

「あじろ」の変わらない姿勢に、心より敬意を申し上げます。あらぬ方向へ引っ張られそうな気配に恐怖さえ感じています。男女共同参画もなかなか進

みません。バッシングは余り感じませんが、前へ進まないというジレンマがあります。

(長野県長野市 山田千代子)

*

雪深い信濃の家に蟄居し、雑踏を逃れておりましたが、やむなく先日帰名しました。奈良の女性史の会には日程がとれず、お目にかかれなく、残念でした。(名古屋市中東区 佐々木あき)

*

ここ数年、私がずっと思っていることがあります。

それはこれからの時代、全共闘世代——七〇年安保世代の私たちが、何をなすべき秋がきたのではないかということです。

若い世代からは、いろいろ批判されていますが、私たちの世代は、層の厚さだけではなく、またまた変革の情熱・

パワーがあります。この人びとが再び立ち上がったとき、間違ひなく世の中を変えていくでしょう。

この数年、『検証内ゲバ』『検証党組織論』などの総括を進めてきたなかで私が再認識したのは、「これまでの運動の敗北は、自らの主体の敗北にあった(権力に負けたのではない)」ことの実感でした。

小泉自民党による憲法・安保・派兵・増税などの問題が吹き出すなか、いよいよその秋が近づいていると感じています。(東京都中野区 小西 誠)

*

〈ホームメイドのら〉は、おかげで十周年を迎えます。秋頃には、ささやかな感謝祭をしたいと考えています。この地で、のんびりと楽しい一日を過ごし、そして頂けるように、と思っています。私にできることを、少しずつ、よい

しょ、よいしょ、の毎日です。

(岡山県神郷町 伊東朋子)

*

昨年は愚作掲載して頂いたり、いろいろお世話になりました。感謝申し上げます。

これからは戦争のない穏やかな平和な世界の訪れることを祈りたいものです。(新潟県関川村 小池 寿哉)

*

昨年は終戦六〇年の大きな節目の年であり、夏には広島に鎮魂と平和を願う旅をしました。前代未聞のスマトラ沖地震による大津波、メキシコ湾のハリケーン、インド・パキスタン地震などの自然災害に加えて、いまだ平和とは夢にも言い難いイラクで犠牲になった多くの市民、また悲惨な犯罪により奪い去られたかけがえのない命など、「生命を選ぶ」ことが出来なかった多

くの人たちの思いを受け止めて、日々を大切に生きたいと、思いを新たにしています。

私の四年になるドメスティック・ハイオレンスとの取り組みの中では大きな進展のあった年でした。まさに祈りが天に達して活動の拠点となる家が与えられ、長年の夢であった、生き辛さを抱える女性やその子どもたちのエンパワメントと自立を目指した居場所を開設できるようになりました。

「ひなの家」と名付けた、その小さな古い家は、戦火に飲み込まれることもなく、築八〇年の黒光りする柱には沢山の喜怒哀楽が刻み込まれているでしょう。そこに集まる一人ひとりを静かに受け容れ、力を与え、心を癒してくれるオーラに充ち満ちています。ここでの活動が地道に積み重なって、共に生きる社会に、少しずつ繋がって

いくことを、お祈り下さいますようお願いいたします。

皆様の上に豊かな恵みがありますように心から祈ります。

(東京都港区 大野綾子)

*

いつも背筋を伸ばして果敢にメッセージを発信しつづける〈あこら〉の姿から沢山の勇気を頂いております。

(東京都調布市 外口玉子)

*

大雪の中で、新しい年二〇〇六年を迎えました。

今年は犬年、私と娘の円は犬年の生まれです。犬年だからまたワンちゃん我が家に来てくれるかな、と楽しみです。

居場所に来ていたモエちゃんに拾われ、円が一生懸命育てた箱入りの愛猫ベルが、昨年六月に五匹の子猫を生

みました。みんなスクスク育ち、もういっちょうまへの成猫、一六歳のトラコ、六歳のコハクと、全部で八匹の猫たちと一緒に毎日であります。

夫は、昨年四月から徒歩五分の職場に転勤になり、単身赴任生活から弁当持参で、ときには土曜日も出勤する日々です。世間さまがコームイン・コームインと、目くじら立てるほどの美味しさなど味わうこともなく、真面目に忠実に勤務しております。

私は新聞配達の仕事をクビになってから、すっかり夜型人間になり、遅くまでテレビを見ることが多くなりました。だから、憲法九条を変える方向に誘導するメディアの恐ろしさも見えるようになり、事実や真実をきちんと確認してから、判断していくことの大事さを感じています。

ただ、あまりにも生き苦しい日々

慣れてしまう恐怖も感じつつ、「あきらめない…」と奮い立たせております。知恵を出し合いながら、私たちの手で、安心して暮らせる年にしていきましょう。(新潟県上越市 南雲和子)

*

平成十七年を表す漢字は「愛」でした。

あ・い・う・え・お

「あい」からはじまる四十八文字。

「愛」という字は心が真中にあります。

心をまるくついで、この一年をすこしたく思っています。

どうぞこしもよろしくお導き下さい。私の町にも「九条の会」を立ち上げます。

出会い・ふれあい・認めあい・支えあいながらのすてきな一年になりますように。(長野県佐久市 佐々木 都)

*

今年は、記念すべき年です。

昨冬、シエンダー法学会の理事長をお引き受けすることになり、四月、著書『女性差別撤廃条約の展開』(勁草書房)が、上梓される予定です。

八月、ネパールのボカラの女子学生寮に、いよいよ第一期の奨学生が入寮します。この寮は、セティコラを眼下に、アンナプルナを遠望する景勝の地に、AAF(竹中工務店有志のNGO)のボランティアによる設計・管理の下で、日本大使館の草の根無償・人権の安全保障資金の支援を受け、NPO日本ネパール女性教育協会の仲間たちとつくりました。ここで、遠隔地出身の少女たちが、二年間、故郷の小学校教員になるトレーニングを受けま

す。入寮式には、ボランティアで出演してくれたさる中澤桂さんのリサイクルもあり、ツアーをいたします。

一月二一日、文京学院大学講堂

で、日本・ネパール国交樹立五〇周年記念シンポジウムを開催したいと思います。ネパールと日本のファッションショーもいたします。どちらのイベントにも、ぜひご参加ください。

秋には、四〇回目の結婚記念日を迎えます。無事にここまで来られたことに感謝したいと思います。

みなさまのご多幸を、心からお祈り申し上げます。

(東京都練馬区 山下泰子)

*

昨年は春に議員在職二五年の表彰をいただき、夏には総選挙でまた当選を重ねることができました。その直後に、自民党の党紀委員長に再任され、いろいろ苦労いたしました。何とか役目を果たすことができ、ほっとしております。

本年も新たな気持ちで励みたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(東京都千代田区 森山真弓)

*

いつも充実した紙面の「あごろ」を参考にしています。

今年もよろしく願います。

(東京都武蔵野市 山本ひとみ)

*

新年快樂

「あごろ」のご発展と皆様のご健康、ご活躍をお祈りします。

私は体力が衰えて、日常生活の自立も困難になりましたが、頑張っています。永遠の日中友好を祈って。

(中国武漢市青山区 袁 晞)

*

週一回、地元の小学校一年生に本の読み聞かせや昔話の語りをやっております。

ます。その子らの澄んだ瞳を見ています。どうかこの子らに歪んだ世情の奇禍が及ばないようにと祈る思いです。

(富山県上市町 高木栄子)

*

今年はさらにプライベート時間を増やして遊びますので、皆さまおつきあひ下さい。

(東京都千代田区 榊原富士子)

*

いろいろな国に寄りながら地球をひとまわりのピースポートで、何よりも平和であること、差別をなくすことの大切さを一層感じました。

今年は近くを散歩しながら「9条を声に」と思っています。

(静岡県清水区 栗山満子)

*

お蔭様で〈家族の会〉新潟支部は発足一〇年を迎えることができました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

これからも認知症当事者とその介護家族に寄り添い、足元をしつかり見つめながら、誰もが住みよい地域社会をつくるために努力してまいります。

「あごろ」のますますのご発展をお祈りいたします。

(新潟県糸魚川市 金子裕美子)

*

心臓病のため外出禁止の暮らしですが、やっと本の出版にこぎつけました。『英語と運命―つきあい続けて日が暮れて』お読みいただければ幸いです。

ます。(大阪府大阪狭山市 中津燎子)

*

今年は大の遠吠えの年ではありません。

平和憲法を生かす人の真剣な声が全国に響きわたる犬の年でありますように。

に。

私も元気で吠えております。

(兵庫県西宮市 土井たか子)

*

二〇〇六年は、民主主義の危機と格差社会がますます深刻化していくとおもいます。平和と自由と平等を求める運動のつながりと広がりをお願いつつ、私も歩みたいと思っています。

弁護士事務所も活気に満ちてきました。お近くにお出かけの時はお立ち寄り下さい。(名古屋市中区 大脇雅子)

*

私はあちこちこわれてしまい、どこやらへの一里塚が近くなりましたが、口だけは達者で、「銀行利子は〇・〇％なのに増税だ」とー そんなバカな話アッか」などとわめいています。

(東京都江戸川区 貴島操子)

*

女性会議の職員の一人在、〈あーら〉

のファンであることを知り、うれしく

思いました。(広島市南区 檜山洋子)

*

〈あーら〉をもっと早くから知っていたら……思いを共有できる仲間がいたら、〈あーら〉で、私の人生も変わるのかな。楽しいかな。まわりの人たちにも何か伝えられるのかな……。

昨年は、一昨年〈又エック〉でお会いたした〈あーら〉の会員の方がたのパワーをいただき、市民フォーラムに近づけることができました。

自分が感動したことを、他人に伝え、共に感動できるって、本当に嬉しいですね。

〈あーら〉の会員が一人でも二人でも多くなるよう、宮古でがんばります。

〈あーら〉のみなさまのご健康をお祈り申し上げます。

(岩手県宮古市 伊藤エミ子)

*

大地も 歴史も 言葉も暴奪され
星さえ罔き この闇の深さ

ただ幼き瞳

太古の燐光の如く 瞬けり

(札幌市清田区 松元雅子)

*

ようやく体調も回復し、ハイキングも再開いたしました。ご心配いただき、ありがとうございます。

(名古屋市中区 亀井とも子)

*

昨年は日本婦人有権者同盟創立六〇周年を一月三日に迎え、婦選運動の活発化と記念事業に専念し、大変ご無沙汰を重ねました。

今年は心機一転、政治と婦人参政権を獲得して真に正しくその役割を果たしてきたのが、自らを含め、厳しく問

い直す時間をもちたいと思っております。尚一層のご理解の上、お付き合いください。

あちらのご開運を祈ります。

(東京都狛江市 紀平悌子)

*

年頭にあたり、みなさまのご多幸をお祈り申し上げます。

ところで、皆様は憲法改定についてどうお考えでしょう。私は、九条二項(戦力を保持しない。交戦権を認めない。)の削除に反対です。自衛隊はあっても九条二項はその活動の歯止めになっています。国際貢献は、武力以外ですればよいと思います。

今年は、勇気をもってこの点について皆様のご意見をお尋ねしたいと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

(名古屋市東区 二宮純子)

*

①ぬは

②しのない いぬは

③にねる いぬは

④ぬどない じかんのなか

⑤ういひかりをえさにゆたかにねむる

「あごう」の灯を、九条の灯を、守りたいですね。

(名古屋市天白区 山下智恵子)

*

ちちをかえせ ははをかえせ

としよりをかえせ こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんの

にんげんのよのあるかぎり

くずれぬへいわを

へいわをかえせ

(峠三吉「にんげんをかえせ」)

(東京都国立市 横井久美子)

*

写霊の風吹かせて

尊敬の波動を起こそう

憲法のこころを伝えること、主権者

として国民が成長するしか、未来をひらくことができませんね。私ともに寄

稿の機会を与えて下さったことに感謝

いたします。

(東京都調布市 古川ひろし)

*

先日、大先輩である友人からいただいたお葉書に、「喪中につき…」とはしないので、ご遠慮なく賀状をお送りください…とあり、感銘を受けました。

私たちも、その「ご挨拶」を見習いたく、どうぞ賀状はご遠慮なくお送りくださいますようお願い申し上げます。

昨年十一月二十五日に母(九〇歳)が亡くなりました。九月初めに脾臓ガ

ンとわかってから三か月足らずの期間でしたが、青森県むつ市でケアハウス

にお世話になっている母とともに、子どもたちはそれぞれの配偶者からの協力を得て、交替しながら彼女のそばで密度の濃い時間を共有することができたことを、大変幸せに思います。

人生の総決算の時期に自分らしさが最も強く表れる、とケアハウスの施設長に、以前言われました。苦しいはずなのに、いっさい弱音を吐かない彼女の我慢強さ、理屈っぽさ、負けず嫌いのつき合いながら、日増しに柔らかで美しい表情になっていく母を見送るのは、悲しくなかったと言えはウソになります。が、最後には、先に旅立った彼女の配偶者の傍らに行くことを心待ちにしていたようにも思え、とても心が洗われ、気持ち澄んでいくような気分を味わった別れでした。

(東京都日野市 古荘斗糸子)

*

昨年末、産経新聞社を早期定年退職致しました。長い間お世話になりました、ありがとうございます。

振り返りますと、東京大学を卒業、東京本社に入社以来、社会部、外信部(米国)、地方部(長野県)、長野放送、文化部、政治部記者を経て、フジサンケイグループの財団法人日本美術協会で世界文化賞アジア委員会事務局長を務めました。その間、米国留学や育児休暇も介しながら、グローバルにメディアの仕事が続けられて幸せでした。

今後は、亡父が創業した長野運輸(東京都、長野県)と、平和観光タクシー(長野市)の経営バックアップに努めます。ご指導、ご鞭撻を賜わりたくお願い申し上げます。(長野県長野市 高橋美幸)

*

激動の二〇〇五年、民営化・規制緩和の「構造改革」は、強きものが支配

する力の論理。戦ったら勝てないアメリカには全面服従し、そのウサをアジアで晴らすとするタ力派たち…。

二〇〇六年「戦争前夜」となりつつある日本の進路に敏感に気づき、世界中の子どもたちに平和な未来を保障していきたいものです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新春おすすすめサイト「マガジン九条」
<http://www.magazine9.jp>
(新潟県糸魚川市 鈴木勢子)

*

世の中、悔しく、腹立たしいことばかりですが、平和憲法にこだわり、倦まず弛まず、歩んでいきたいと思っています。(兵庫県明石市 岡崎宏美)

*

すがすがしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は両親も私

も入院をし悪戦苦闘の日々でしたが、おかげ様で全員全快いたしました。

人生の思いがけない苦勞を障壁のよ
うに感じることはありませんが、常に全
力で立ち向かえば、道は必ず開かれる
と思います。ますますご健勝をお祈り
します。（東京都府中市 真弓敦子）

*

一昨年は父が亡くなり、引き続き、
昨年は母が脳梗塞で倒れ、多くの皆様
からご心配と励ましを頂きました。本
当にありがとうございました。一人で
は生きていけない、人にも自然にも生
かされていると実感するこの一年でし
た。確かだと思っていたものが不確か
で、簡単に崩れ去っていく。歴史の大
きな転換期に、丁寧に時間と向き合っ
ていきたいと思わされます。

（東京都小金井市 田村伴子）

*

「あじろ」に努力を傾けていらっし
やる皆様に敬意を表する読者のひとり
ですが、会計処理が悪くて文句を言い
ました。あしからず。引き続き、熱心
な読者です。

二〇〇四年末に立ち上げたへいせ九
条の会へは、市民運動の強力な担い手
として発展。これに全力を傾注してい
るせいか、元氣いっぱい八六歳です。

（三重県伊勢市 山村ふさ）

*

春が待ち遠しくて、この大雪に耐え
てます。「我慢も限界だて…」と涙ぐ
む仮設のおばあちゃんのテレビに、泣
きながら見入りました。

魚沼市の積雪三〇四センチ。未だ、
国の災害救助法発令ならず…。例年の
降雪と違い、あまりに早い降雪（十一
月三十日から四日晴れたのみ）に、天
を仰ぐばかりです。十日町は四〇〇セ

ンチでもっとひどいです。

いつもお世話になってありがとうございます。
さいいます。凡人の私でも毎年正月は「環
境に良いことをしよう。人様の役に立
とう。ボランティアもしたい。家族に
やさしくしよう」と考えるのです。

しかし、また今年も同じ目標で一か
ら出発です。ということは…満足にで
きたことがひとつもないってこと？

ありやう

こんな私ですが、今年もどうぞ宜し
くお願いいたします。

〔追記〕一月八日、災害救助法が発令
され、一〇日間でしたが延長となり、
現在も発令中です。

（新潟県魚沼市 星野邦子）

*

ＥＴＶでスッキリしませんが、いず
れ、はつきりさせます。

（東京都渋谷区 永井多恵子）

年末に幼い命が相次いで奪われました。子どもたち自身の力を引き出しながら、子どもをどう守っていけばいいか、おとなの責任について考えています。

（大阪市北区 川名紀美）

*

みなさまのお力を結集して、女たちの戦争と平和資料館がオープン！
姉（松井やより）も、よろこんでいることと思います。

よい働きを……と祈っております。

（茨城県神栖市 向山耶幸）

*

去年^{こぞ}ごとし貫ぬく棒のごときもの

高浜虚子

憲法や教育基本法改悪の動きがますます顕著です。「戦争する国」への選択の是非が厳しく問われる一年です。更に、定率減税廃止で負担は重く、年金は軽く、賃下げ・首切りは当たり前

の「小泉改革政治」に反撃する年です。平和と生活擁護のため、今年も全力を尽くします。（東京都新宿区山田敏行）

*

一人ひとりの希望が広がる平和な世界をめざして、「平和と人権」「安心と安全」がすべての人にもたらされるよう、今年も力いっぱい頑張ります。

（仙台市青葉区 岡崎トミ子）

*

旧年中は、国の内外で、相変わらず人間の愚行や自然の破壊が繰り返されましたが、今年こそは平和と恵みの年であれかしと祈念いたします。

個人的には悪性リンパ腫瘍の手術後四年半余り経ちましたが、幸いに健やかに生かされ、今年三月には満八十六歳になります。

旅好きの私も、さすがに海外旅行は打止めにしましたが、国内旅行は遠近

合わせて十回ほど出かけ、中でも十月下旬の日本列島紅葉探訪の十日間の旅は、絶好の紅葉状況と天候に恵まれて、自然の美しさや恩寵を満喫し、感謝すると共に、この美しい地球の保全を心から祈りました。本年も前向きに生きたいと願っております。

時代が逆行しそうな昨今、力強いお仕事をしていただけることに敬意を表しています。

（福岡市博多区 秋枝蕭子）

*

昨年末に二週間かけてトルコを訪問しました。エーゲ海、地中海、黒海、そして紀元前から一八世紀まで数多くの遺跡、雄大な自然に感動しました。平和と民主主義、人権のためにがんばります。護憲派の統一にお力添えください。（広島県熊野町 栗原君子）

*

*

〈あこら〉の拓かれて来られた道程に敬意と感謝を捧げます。

(横浜市保土ヶ谷区 池谷まゆみ)

*

昨年中は、お世話になりました。いろいろあった二〇〇五年ですが、私は博士課程三年の社会人院生を三人も同時に抱えるという、長い大学教師生活の中でもっともエネルギーを支出した年でした。

大学の、めまぐるしい変革の中で、大学院もたえず変化発展し、二〇〇六年度から本学修士課程に「福祉社会研究専攻」ができ、一月から募集開始です。

『生活時間と生活福祉』の出版をもって三〇年間の生活時間調査研究に別れを告げましたが、ライフワークのク

「教えられなかった戦争・中国編」を多くの方々のご支援により、完成させることができました。ありがとございました。今までのシリーズ作品と違い、日本による過酷な侵略を受けながら、正面から戦って勝利し、引き続き人民解放の闘いに成功した、中国の輝かしい歴史の記録でした。

中国における人民解放の闘いは、中国共産党・解放軍が指導した闘いであることには間違いありません。しかし、製作過程で学んだ最も重要な事は、彼らが農民や労働者に字を教えるところから始め、学習し、自覚を促し、議論・協議を重ね、人民が権力を握る重要性を説得して自らを解放するという方法を、粘り強く進めたことでした。この事は、農民や労働者、元解放軍兵士の証言に現れていました。ただ単に人民解放軍が敵との戦闘に勝利して、農民に

土地を分配したというようなものではなく、農民自身が権力を握って土地を皆で分けあった、その皆の中には地主も含まれていました。この闘いで十億の人民が解放された意義は、人類の歴史上で、一九一七年のロシア革命と並ぶ重要なものだと思致しました。

現在、日本の資本は、アジアなどで人権を抑圧し、環境破壊、住民排除を暴力的に行うことによって巨額の利益をあげ、その暴力を強化するために、日本の軍隊を派遣しようとしています。この日本による第二の侵略の前にして、私たちが学んだ中国人民解放の経験・歴史は、とても重要なことだと考えます。今年は、この中国編をはじめ、「教えられなかった戦争」シリーズの普及に専念したいと願っています。いっそうのお力をお貸し下さいませよう、よろしくお願い致します。

ラーラ・ツェトキーン研究で、運良く学振の研究費が四年間当たり、おかげで昨秋ロシアのRGASPIアルヒーフに入ることができました。今年は本場ドイツを狙っています。新視点でのこの研究「日暮れて道遠し」を実感するばかりです。

今年も宜しくお願い申し上げます。

(東京都八王子市 伊藤セツ)

*

一五七年ぶりに庫裡を新築いたしました。職人さんが二か月入っており、すき間で暮らし、いつも通りに行事をして疲れ果てています。

新しいスペースを使って、仏教の在家の人の五戒、不殺生(殺すな、殺されるな、殺させるな)不妄語、不倫盗、不邪淫、不飲酒を伝え、憲法改悪などの問題を仏教徒が力を発揮して止めたという策を練っています。

(愛知県西尾市 羽向貴久子)

*

昨年は新憲法案まで飛び出した一年でした。戦後六〇年の伝統を受け、今年も一人一人が大切にされ希望をもてる社会をめざそうと思います(ドン・キホーテといわれようと)。

「あーら」に、風が吹いてほしいと願います。それも、私たちが吹かせるしかない……なのでしょうね。

(茨城県水戸市 酒井はるみ)

*

男女共同参画の活動も「ゆるやかにたゆみなく」進めております。行政の動きの悪さは相変わらずです。

(山梨県都留市 清水編代)

*

二〇〇五年は、アジアのあちこちに出かけ、夕刊の連載など書きました。詩の言葉もたくさん浴びて。これは幸

せな時間。

一方、三冊の本の出版にかかわりました。『犯罪被害者』が報道を変える(岩波書店)、『新聞なんていらない?』(朝日新聞社)……。

年末に、本田靖春さんのノンフィクション『誘拐』を再読。一九六三年の事件の話ですが、発見がたくさんありました。事実を丹念に歩いて集めた仕事だけが、時代を超えるのかもしれない。

☆収獲☆ 四〇代の「鈍(にび)色」の与謝野晶子を書いた竹西寛子『陸は海より悲しきものを』。上野千鶴子&趙韓恵浄「ことばは届くか」。リリー・フランキー『東京タワー』。

いさり火は身も世もなげに瞬きぬ
陸は海より悲しきものを
より良き新年になりますよう

(東京都渋谷区 河原理子)

今年は急激な右傾化の潮流に抗して、一般市民が団結してせいじっばい頑張っていくましよう。

(沖縄県那覇市 大田昌秀)

*

旧年中は、お茶の水女子大学COEプロジェクトの一環として「子どもの安全に関する調査研究」に携わりました。幼児をめぐる忌まわしい事件の発生を阻止するような成果が得られることを期待しております。

(東京都新宿区 袖井孝子)

*

「人権後進国」「政治家も二流」と内外からみられている経済優先国日本。その中で、日本の主権者が唯一世界に誇れる憲法九条が、自・公・民の絶対多数で「改悪」されいよいよ「自衛隊を、武力行使のできる軍隊にしよう」との動きが加速しています。

政治に女性が共同参画しても、憲法九条を堅持できないようなら空しい限りです。

このような危機的状況にあつて、人

権擁護を旗印にしている日本弁護士連合会と全国の弁護士会と、そこに所属する全国の弁護士が、憲法九条改悪阻止で一致団結して、これから生きる子どもたちのために平和な未来を守り、主権者の人権擁護のために先頭に立つて努力をすることができましよう、一人の弁護士として、年頭に当たって心から願わずにはいられません。

(東京都豊島区 金住典子)

*

改悪、激変：etc

でも希望は絶対、手放さない。

(仙台市青葉区 大和田郁子)

*

私は、市川房枝記念会館をやめまし

て、家におりますことが多くなりまして。
(東京都渋谷区 市川ミサオ)

*

旅先の、とある古美術展で見つけた犬張子。その並びの古い旅館人口脇、大きな自然石には伊東深水の歌が刻まれ「小唄辰巳誕生の処」と。辰巳よいとこ素足で歩く——という小唄が、恋の逃避行から生まれたという経緯譚を、作曲者の系譜に繋がる、今は亡き杵屋栄三郎から聴いたのは、もう何年前であつたか。

昨年もふたりの友人が旅立ちました。

年々歳々花相似タリ

年々歳々人同シカラズ

ことしもどうぞご交誼のほどよろしく。

(東京都杉並区 寺澤 正)

*

04年金、05介護と障害者福祉、そして、今年は医療制度が、厳しい状況に

さらされます。

社会保障制度が、真に社会的な安全装置（セーフティネット）の役割を果たすことができるよう頑張ります。

（東京都千代田区 小林わかば）

*

CEDAW選択議定書、是非、日本も批准したいです。

（千葉県美浜区 加藤登紀子）

*

改憲反対。戦争ストップ。許すな生活破壊！

初心にかえってがんばります。

（神奈川県相模原市 鶴田ひさ子）

*

若い人たちがもつと自発的に平和を語ってほしい、と思うのですが、声が低すぎるように思え、気になります。

でもこれは、おとなたちの姿の反映なのかもしれません。さびしい状況の

なかで、明日が見えない二トの若者

たちに、何をどう語ればよいのか、戦中派としての悩みであり、今年のテーマです。

（川崎市麻生区 多田とよ子）

*

「草は枯れ、花はしぼむが、私たちの神はとこしえに立つ」（イザヤ書四〇・八）

昨年は、五月に津田塾大学同窓

会、十一月に日本／東京YWCAが創立一〇〇周年をむかえ、二つの記念行事の準備と後始末に追われた、多忙な

しかし充実した一年でした。おかげさ

まで、それぞれ盛況裡に終えることが

でき、感謝です。

今年も時間的には、かなり多忙な一

年になりそうですが、大変な国になっ

ていきそうで、小さいことでも平和へ

の道を歩むための努力をしたいと存じ

ます。（東京都文京区 江尻美穂子）

*

女性学研究会もなんとか再起の第一歩を踏み出すことができました。

（あこら）の、社会に抗する姿勢には、

私、心励まされています。

（東京都杉並区 天野正子）

*

昨年、定年退職し一年目。現在、福祉を学ぶ学生と過ごしています。

大学教育のあり方、学生の質などに
ついて考えさせられています。

（福岡県太宰府市 郷地二三子）

*

豊かなお正月を全ての人々へ：

豊かで優雅なお正月を誰でもが迎え

られて良いはず。その為にも

①真に平和で差別のない自由な社会で

あること

●憲法改悪絶対反対！

●自衛隊イラク派兵、海外派兵絶対反対
●非武装中立の日本をー(脱原発、非武装、不戦、非核、護憲、反安保、反有事法制、反テロ)

●男女平等、ジェンダーセンシティブをー

●いらんぜよ天皇制、住民基本台帳ネット

●良心の囚人の釈放、政治囚に公正で速やかな裁判、全ての囚人への「拷問・死刑」の廃止をー

②搾取が無い社会であること(あえて社会主義へのラブコール)

●額に汗して働く者が主人公の社会をー反首切り失業

●ゴミ、資源、エネルギーを考えれば計画経済しかないー

●少子化社会、マイナス成長社会大歓迎

などが、とりあえず最低条件。今の社

会、生活のあり方を見直し、シンク・グローバル(地球規模で考え)、アクト・ローカル(足元で実感)でー

(山形県尾花沢市 菅野真治)

歩みはゆっくり。時には感動し、生

かされています。

思えば今年は、被爆六十一周年。

残そう、子どもたちに戦争のない平和な世界をー

平安にご多祥を祈念いたします。

(福岡市中央区小島 隆・小島サカエ)

共に、反戦・平和、いのちが大切に

される社会、世界、そして政治を求め

て参りましょう。

今年もお元気で、ご活躍くださいま

せ。(東京都新宿区 富山妙子)

買物が世界を変えるー

初心を忘れず、琵琶湖に向かいつつ

けます。世界(社会)を変える大ムーブメントになることを期して。

菜の花プロジェクト第六回全国サミットin豊島を、五月一三日(土)く

一四日(日)に開きます。

(滋賀県安土町 藤井絢子)

今年は憲法公布六〇年、自衛隊・安

保違憲の「平和憲法」の「原点」に立ち返り、改憲Ⅱ「新憲法制定」阻止

のため尽力したいと思います。

(東京都中野区 黒崎 修)

地元のこと、自分のことといっぱい

ですが、平和を守る気持ちは、一緒に

す。よい一年を!!

あごらよ不死鳥になれ!!

(鹿児島県名瀬市 佐竹京子)

厳しい世の中に、眼をそらさない努力をしたいです。

本年も皆々様のご健康とご多幸を、
ここからお祈り申し上げます。

(大阪府吹田市 吉田悠子)

*

皆様のご活躍に敬服しながら、むなしさが募るばかりの世の中に、「閉じこもり」症状、ひどくなるばかりです。

(東京都世田谷区 高宮弘子)

*

昨年の世界女性行進のとおりくみは、「平等・自由・連帯・正義(公正)・平和」を求めて新たな連帯と協同の輪を国内外にひろげました。

新しい年を迎え、世界の宝・九条を守りぬき、小泉内閣の憲法改悪、「構造改革」の名による国民いじめを許さない共同のたたかいを、みなさまと一緒にすすめていきたいと存じます。

婦団連と『婦人通信』への日頃のご

厚情に感謝いたしますと共に、本年も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

(東京都渋谷区 月刊『婦人通信』)

*

平素から当会館の事業運営に御指導、御協力を賜り、まことにありがとうございます。

新たな年を迎え、社会的課題である男女共同参画社会の形成を目指し、職員一同独立行政法人としての使命を果たすため、より一層充実した事業に取り組んで参りたいと存じます。

本年も皆様の変わらぬ御支援をよろしくお願い申し上げます。

(埼玉県嵐山町 N W E C 国立女性教育会館理事長 神田道子 職員一同)

*

二十一世紀は平和と人権確立の進展を希いながら、グローバルスタンダ

ードの波は、憲法九条、二十四条の危機、格差の広がりが行く社会構造へと押し寄せています。

人それぞれが輝いて生き、仕事と子育て、家庭、地域の活動参加が両立できるように、男女平等社会の実現にむけて今年も歩み続けてまいります。

今年もどうか、変わらぬご支援、ご指導をたまわりますようお願いいたします。ご清福を祈りつつ、新年のご挨拶といたします。

(東京都文京区 I 女性会議 中央本部

I 女のしんぶん 一同)

*

「共に生きる世界をめざして 祈りと行動をー 守ろう憲法・教育基本法」の活動方針で、世界と日本の平和のために、女性の人権確立のため、酒・たばこの害防止のためにも日々活動しています。一二〇年前から続いている歴

史を基盤に、今日的な課題にも鋭敏に、

会員が一つになって取り組まなければ
と思つています。本年も変わらずご指
導ご支援をお願い申し上げます。

(東京都新宿区キリスト教婦人矯風会)

*

「ふえみん」は今年、創立六〇周年
を迎えます。

逆風のなか、出会いとつながりを大
切に、平和で暴力のない世界をつくる
ため、これからも全力を尽くします。

(東京都渋谷区

ふえみん 婦人民主クラブ)

*

今年も、誰もが安心してくらせる安
全な地域社会づくりに邁進してまいり
ます。本年もどうぞよろしくお願い申
し上げます。

(東京都渋谷区

全国地域婦人団体連絡協議会)

*

「平和を実現する人びとは幸いであ
る」(マタイによる福音書五章九節)

日本YWCAは、二〇〇五年十一月
に創立百周年を迎えました。これから
も地域の人々と共に、世界の人々と共
に、真の平和を創り出す働きを続けて
いく決意を新たにしています。本年も
どうぞよろしくお願いいたします。

(東京都千代田区 日本キリスト教

女子青年会＝日本YWCA)

*

日頃のご活躍と「革新都政をつくる
会」へのご協力にお礼を申しあげます。

年金・医療・介護と連続して社会保
障改悪をおこなってきた小泉内閣「構
造改革」政策による国民・都民の生活
は厳しい痛みにさらされています。

こうしたときこそ自治体である都政
が都民のくらしを守るあらゆる手だて

をつくすのが責務ではないでしょうか。

〈革新都政をつくる会〉は、会の強
化と広範な都民との共同を車の両輪に
して、憲法・教育基本法を守り、福祉・
くらし、平和を大切に「住民の福
祉の増進の都政を実現するために、一
年余に迫った都知事選にむけて奮闘い
たします。

一層のご協力をお願いし、皆様方の
運動の発展とご健康を祈念して、新年
のご挨拶といたします。

(東京都豊島区 革新都政をつくる会)

*

ことしは、日本の女性が参政権を初
めて行使して六十年、女性の活躍の場
は大きく広がりましたが、さらに躍進
の年にしなければなりません。

憲法改悪や庶民大増税反対とともに
に、女性の権利の尊重と実質的な平等
の前進のために、みなさんと手をたず

さえていきたいと決意しています。

ことしもよろしくお願いいたします。

(東京都渋谷区 日本共産党)

女性委員会責任者 石井郁子)

*

フェミックスは昨年八月末に新事務所に移転しました。いくつかのNPOとの共同事務所です。

いろいろな刺激を受けながら、フェミックスの根幹である「くらしと教育をつなぐWe」のリニューアルも計画中！

今後とも「We」とフェミックスを応援してください。

どうぞよろしくお願いいたします。

(東京都中央区有限会社フェミックス
稲島恭子・中村泰子・大沼もと子)

*

今年で一九八六年のチエルノブイリ

事故から二〇年目となります。大事故の前に原発を止めましょう。

今年もいろいろばた会議をよろしくお願いいたします。

(東京都千代田区 たんぼ舎)

*

昨年五月に文部科学大臣から定款の一部変更が認可され、それに伴い会の名称・組織等が変更されました。会の新名称は「社団法人国際女性教育振興会」略称「国女振」としてスタートいたしました。役員も改選され、新体制のもとに新たな気持ちで諸事業に取り組んでおります。国際的視野にたつて世界の平和を願い、女性教育の一層の充実に寄与したいと考えております。本年も引き続きご指導ご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。

(東京都港区 国際女性教育振興会)

会長 錦織淑子)

*

昨年は、業者婦人の地位向上を求める私たちの運動へ大きなお力添えをいただき、本当にありがとうございました。

大増税の企みから営業とくらしを守るたたかいても、憲法九条を守り平和な日本を築くたたかいても、今年がいよいよ正念場です。私たち業者婦人も新たな気持ちでまい進してまいる所存です。今年もよろしくお願いいたします。

(東京都豊島区全商連婦人部協議会)

会長 遠藤恵美子)

*

旧年中は当財団の活動にご指導ご援助をいただき誠に有難うございました。

本年も成人女性に対する学習支援並びに次世代育成に関わる事業の推進に努力してまいりたいと思っております。一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

(東京都港区日本女性学習財団)

理事長 大野 曜)

*

旧年中はご支援ご協力を賜りありがとうございました。

本年も反戦平和のために力を尽くしたいと思えます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(東京文京区)

戦争を許さない市民の会)

*

平和こそ、われらが遺産 子や孫にしかと手渡さん九条守りて

今年いぬとし。時の動きを鋭くかき分け、たくましい脚力で平和への道を歩み続けましょう。

(沖縄県那覇市 沖縄戦記録フィルム

一フィート運動の会)

*

戦争勢力との綱引きが正念場を迎え

ました。

みなさまと連帯を強め全力を傾ける決意です。

今年、第五二回母親大会は記念講演に澤地久枝さんを迎え、長野市での開催(七月二二、二三日)です。

みなさまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

申し上げ、新年のご挨拶といたします。

(東京都千代田区

日本母親大会連絡会)

*

さて、二〇〇六年をどんな年にしましょうか?

イラク戦争を終わらせる年に!

改憲をとめる年に!

今年もよろしくお願いいたします。

(神奈川県相模原市 婦人民主クラブ

全国協議会 代表 西村綾子)

*

旧年中は新社会党へのご指導・ご鞭

撻ありがとうございました。

おかげさまで私たちは結党一〇周年を迎えました。非武装平和憲法を守り抜くという結党の初心が試される時がせまり、戦争ができる国家と弱肉強食を理念とする社会をねらう「新憲法」を阻む決意を固めております。

改憲阻止を通じて、憲法を一人ひとりのものとし、憲法を守る統一戦線が形成されるならば、二一世紀の展望を切り開けるにちがいありません。

新社会党は、憲法をめぐる事実上の決戦である〇七年参院選挙で、護憲の共同を実現させ栗原君子委員長を先頭に、護憲議席の飛躍的な拡大に総力を挙げます。

歴史を大きく動かす年といたしまし
よう。

なお、三月二日に結党一〇周年記念のレセプションを開催します。あら

ためて、案内を差し上げます。

(東京都中央区 新社会党

中央執行委員長 栗原君子)

*

闘春

労働組合への弾圧に抗し

平和・人権・民主主義を守り

安全確立・ＪＲ発足二〇年を検証し

新自由主義的グローバリズムに

反対する戦線の拡大をめざします

(東京都品川区 全日本鉄道労働組合

総連合会ⅡＪＲ総連)

*

二〇〇六年、私たちの闘いも三年目、

各地で事実審議のない不当判決、結審

が始まりました。

だが、イラク参戦国は続々撤兵。ア

メリカ国民も戦争反対が過半数で、フ

ツシュ支持率も最低となりました。な

のに小泉内閣は圧倒的な世論の反対を

よそに、派兵延長を決めました。いず
れ陸自が撤兵しても、「人道復興支援」
をかなぐりすてて、米軍支援の空白は
残します。

歴史に残るような闘いへー 憲法・
教育基本法改悪、共謀法粉碎の闘いと
ともに。(東京都新宿区

イラク派兵違憲訴訟の会)

*

例年にならない大雪続き。時局も、改憲
の動きが活発になりました。今年こそ
いっそう連帯を深め、「平和な日本」「明
るい日本」を築きましょう。(あこう)

*

世界各地での大きな災害と西アジア
の混乱のなかに、二〇〇五年も終わリ
ました。今年こそよい年になりますよ
う、新しい年のご清祥を、心をこめて
お祈り申し上げます。

おかげさまで私どもも、相変わらず

の遅い歩みながら「地道に」「誠実に」
を信念に歩み続けております。

今年もどうぞよろしくお導きくださ
い。(創造力の銀行BOC)

◆◆◆◆◆

今年も、たくさんのお懐かしい方が
た、お世話になった方がたからの、心
暖まるお年賀状、本当にありがとうご
さいました。「厳しい状況」を凝視し
た勇気が湧く言葉に、励まされまし
た。

できるだけたくさんの方のお声をお
伝えし、状況や思いを共有したいと、
久し振りに、この場を設けました。

すべてを掲載できなかったこと、掲
載可否のご連絡がつかなかった方もあ
ったことを深くお詫びいたします。

二〇〇六年、〈希望の灯〉がポツと
でも灯ることを心から願いつつ……。

〈あこう〉事務局スタッフ一同

IPPも五ドル払うんだ。あんたはどこから来たの?」「東京よ」「東京の人はみんな金持ち。一部屋がとても高い。普通じゃ住めない」「そうね、だから私お金ないの」「アメリカも昔は良かったけれど今は駄目。一〇数年前、家賃五〇〇ドルだったけど、今七五〇ドルだよ」「収入も上がったんでしょ?」「初めのうちは上がった、クリントンのときも。でもブッシュになってからは全然さ。イラク戦争が始まった三年前から、めっぼう悪くなったよ。財政がみんな戦争に行っちゃうから」「何でブッシュ大統領を再選したの?」「ニューヨークの人もカリフォルニアの人も彼には投票しないよ。黒人も、アジア人も、ヨーロッパから来た人も。僕らはブッシュに入れないのに、どうしようもない。神に祈ることしかできない。彼に投票するのは昔から何代も続いている白人だけさ」

「アメリカ中部の人たちね」「そう、白人の金持ちは銃を作って、どんどん儲けて、ますます金持ちになって行く。それと石油で儲けるのさ。だけど、石油や戦争で儲けたお金は僕たちのところへは来ない」「経済格差が一層広まっていくのね」「そうだ。そして彼らの子どもたちはエール大学や、ハーバード、コロンビア大学に入る。僕らはそんないい大学には入れないよ。せいぜい市立ニューヨーク大学だ。そして、大きなホテルに就職しようとしても、いい大学の人は入れる。僕らはよそへ行きなさいって言われる」「貧しい人はチャンスが限られ、貧しいままに留まるのね」「そのとおりだ。でも僕は大学を出てる。ローンで金払って。大学出てからはその返済で精一杯だ。でも大学出てからいいよ。こうやって、毎日、新聞が読める」と隣の座席の新聞を眼で示す。「学校出てないと、しゃべることもできない。アメリカには字を読めない人が一杯いるよ。」「そうらしいわね、特に女性はね」「でもアメリカにもいいところが一つある。何でもしゃべれることだ。ナイジェリアじゃ、しゃべりすぎると……」シュッと首をはねられるしぐさ。「本当?」「本当さ」「それと、アメリカの賢いところ

ろは食べ物がないこと。服だって安く買える。ほれ、車の外、見てごらん」あわてて外に目をやる。立ち並ぶビル、のショーウィンドウの前を人が行き交っている。「あんな紳士だって、僕の持つてのと同じかばん抱えてる」「そう、何とか生きてはいける」「物わかりいいな、そのとおりだよ」「だから僕らは何も言わないでおとなしくしている。持つてる財産は、全く違うんだけどね。食べ物がないところへ行ったんじゃ死んじゃうんだから」「おとなしくしていないでスピークアウトしなくちゃ。私、そのためにここへ来たの。NGOから国連の女性会議に。女性たちは全世界が団結したわ。そしてスピークアウトしてるところよ」「そうか、それで分かったよ、あんたの物分かりの早いわけが」「あなたたちも団結してスピークアウトしなきゃ。本当は、男性も女性も一緒にやるべきでしょうね、平等と人権のために」「そのとおりだ、スピークアウトしなきゃな」「そうしないと、何も変わらないから」「僕もやってるよ。いつも僕を呼びつけては三〇分も待たす会社の人がいる。だから僕は言った。『昨日は三〇分待った。今日は四五分。それだけの時間があれば僕はもうひと稼ぎできる。その分を払って欲しい。でなければ僕はもう来ない』って。『そんなこと言ったら』って、ほかの人は心配した。でも僕は、はっきり言ったんだ。そしてちゃんと金払ってくれた。黙ってちゃいけないんだ」と、結論が出たところでホテルに着いた。「そうよね、有難う、お話楽しかったわ」「ほくもだ」

彼は今日もナイジェリアに残してきた同胞を思い、アメリカに移ってきた子孫の事を思いながら、地道に働き、新聞を読み、考え続けているだろう。こういう人たちが、世界を少しずつ動かし、変えていくのかもしれない。

さて、彼の祖国ナイジェリアは、アメリカの差別される側の人びとの生活は、北京+10でどう変わ

ったのか。そういうことを見極めたいとCSWに臨んだ。

国連ビル内では毎朝九時からブリーフィングで、その日の予定などが通達され、その後メイン会場で、各国政府が、この一〇年における自国の取り組みを発表、その成果や、今後の課題について述べる。午後からも同じように発表が続くが、これに平行してNGO主催のワークショップやコーカスなどがいくつもの会場で終日開かれており、プログラム片手に、あちらもこちらも出てみたいと、食事をとる時間も惜しんで、国連本部ビル内と、道を隔てて立つ関連ビルとの間を走り回ることになる。テーマは、戦争・紛争、女性と経済、エイズ、女性や少女の売買春、環境（今年は例の津波の被害を女性の立場からということも）、等々、いつもの女性会議と同じように、この世の全ての問題を女性の視点から考える。

ある一日を例に挙げてみよう。

朝八時半ごろ、国連本部ビルの門に入る。私たちが首にぶら下げた写真入りの身分証明カードを門番がちらりと見る。今度はビル入り口で並んで、ボディーと荷物のチェック。飛行機に乗り込むときと同じ。（もつとも、飛行機に乗り込むときは9・11以降、両手の指紋チェックと顔写真撮影をされるようになったので、それよりは簡単だが。）会議室へと続く通路入り口で、また胸元のカードをチェック。大会議場の入り口でもチェック。

会議場内外のテーブル上には、国連経済社会理事会（CSWはこれに属する）発行の本日の予定表

や、昨日発表された各国代表団のメッセージの印刷されたもの、本日の会議やパネルディスカッションのタイトル、時間、場所、主催者やスピーカーが記されたチラシなどが何種類も置かれている。各国政府やNGOが自分たちの活躍を紹介したいと、カラフルな写真入りで作った立派な小冊子もあるし、自分たちの惨めな現状を訴えたいと、はるばる持ち込んだ小冊子やパンフレットもある。どれも読みたいが、数日で何十センチもの厚さになってしまいうし、ロシア語、フランス語、中国語、スペイン語、アラビア語のものが混じってしまいうこともある（ほとんどが英語だが）。ちなみに国連では以上の言語が公用語として翻訳され、大会議場の各席についているイヤホンを通しての通訳も聞ける。残念ながら日本語のものはない。第二次大戦の戦勝国の国語だけが同時通訳。敗戦国の日本は、どんなに大勢参加しても、その特典にはあずかれないのだ。

たくさんのパンフを一生懸命見比べているとき、

「あら、ジャパンっていうのがあるわ、もらっていいこう、日本ってきれいな国って言うじゃない？」という声が聞こえた。「そうよ、どうぞいらして」と声をかけると、「あら、ありがとう」と笑顔。会議前のせわしいときでなければ、もつと日本のことを話せるいい機会なのに残念。私もわが国のそれを手にしてみる。政府の男女共同参画局発行の「Women in Japan」。裏表紙に小泉首相と、細田官房長官の顔写真。Minister for gender equality」となっている。直訳は男女平等大臣。この英語では、日本に、男女平等省があると思われるのでは？

周りのアフリカ女性に聞いてみた。

「おたくの国には女性省ありますか？」

「ええ、ナイジェリアでは、一九九五年の北京会議直後、他の省と同格で、女性省ができたわ。それまでは女性関連は小さなセクションだったけど。」

「それによって変わったことは？」

「政府での女性関連の財政が増えたわよ」

韓国でも北京女性会議以後、NGOの働きかけが強かったおかげで女性省ができたというが、日本ではできなかったなあ。

「お宅の国は？」

「ニジェールには一九八四年から女性省があるわ。北京+10で大して変わったとも思えないけど、政府で働く女性の数は増えたわね、地方ではそうでもないけど」

ウガンダの女性は、「まだ省にはなっていない、局があるだけ」とのことだった。日本と同じだ。彼女らは政府から来ていて、服装も態度も堂々たる女性たちだった。

九時、NGOによるブリーフィングが始まり、その日のNGOのコーカスのいくつかが紹介される。その日開催されたものとしては以下のとおり。

◆政府代表のセッションは大会議場で開かれ、会場の上の席からNGOのメンバーは聴講できる。

この日のタイトルは、

一〇時～一時・経済界に女性の視点を。

三時～六時・男女平等促進における、地方、及び政府機関の役割。

◆平行して開かれる政府関係の集まりが国連本部内で六つ。タイトルは、



・ EU内の男女平等「私たちはどこまで到達したか」

・ 人権システムに向けて「全ての人に正当な経済社会を」等。

◆ 国連本部外のビル内でもワークシヨップが開かれている。タイトルは、

・ 男性、少年の女性に対する暴力をどうやって止めさせるか。

◆ NGO主催のものは、いろいろな部屋で一四。タイトル・北京会議一〇年後の中国女性

・ エイズ問題

・ 女性の健康にたいする草の根活動報告

・ 移民女性に対するDV

・ 売買春……平等と人権の問題

・ カルチャーを変える若者の力

・ アメリカの外交政策……女性の安全と人権 等。

世界の女性の中で見えてきた「日本の女性」

その日の午前中、私は大会場で話を聞いた。

一人目、ナイジェリアの女性省大臣（女性）の話

二人目、男性による産児制限の話

三人目、アメリカの銀行関係の男性の話

四人目、高齢者経済助成アドヴァイザーによる話

四人ともタイトルに即し、女性と経済に関して話したのだが、共通しているのは、女性に対する教育が必要ということ。――特に貧困国では……。貧困が差別を生む。その解消に、先ず女性を教育しなければ、と語っていた。この情報化といわれている時代においてもなお、いまだに識字教育の必要な地域が、アフリカはじめ、地球上にいくらかもある。

日本のことを考えてみた。実家の両親を手伝ってくれている年輩の元気な女性は、ひらがなしか読めない。青森で、小さいうちからお手伝いさんとして働き、長じては、病人の付き添いとして仕事をしてきた。優しく、行き届く、その道のベテランであるが、漢字が読めないので試験が受けられず、したがって何の資格も取れない。日本でも半世紀前には、こんな「おしん」のような人も、地方では珍しくなかったのだろう。

五九年前から、日本女性も東大や京大に入れるようになった。選挙投票権ができた。被選挙権も取れた。いまや就職の場も広まった……。あとは女性の働きやすい条件を整えること（これは男性にとっても生きやすくなることだ）。給与や昇進の格差をなくすこと（長い間かかった住友金属などの女性たちの戦いで、この給与のことも女性側の勝利が認められたが、このような戦いを起こすにも、先ずは女性に識字教育がされてなければならない）。そして男性より長い老後を、安心して暮らせる環境を整えること……。

考えれば問題はこれ以外にもまだまだあるが、文字の読めない女性の世界から見れば、私たちは気の遠くなるほど先の道を歩んでいる。ここまでするのに、どれほど先人女性たちの地道な努力があったことか、そして今も目立たないところで続けられていることか。

今や、スポーツ、芸術、学問、企業、どの分野にも活躍している女性の姿が見られる。

だが、政界、法曹界には少なく、他の分野においても、いわゆるディシジョンメイキング（決定権を持つ高い立場）の地位についている女性は少ないというのが、今後の課題として残されている。

日本女性の別の顔も浮かんできた。何不自由なく大きくなり、おしゃれ、ブランド品にうつつをぬかし、大学は遊び場、英語学習は外国旅行でショッピングするため……。「子育ては青春を、お金を、自由を奪われるからいや」という女性が出てきているとしたら……。『残念！』というしかない。彼女らは自立できる力をつけているかもしれない。だからといって到達点がこれでいいのか？ 世界的女性の中で話を聞いていると、「学びたくても学べない女性に会わず顔がない」と思ってしまう。

専門学校で英語を教える身として、生徒らに字の読めない女性の話をして、初心を取り戻してもらうことを、私は自分でできるささやかな草の根活動だと常々思っている。

日本を離れ、世界の女性たちの間に身をおくと、普段使っていなかった思考回路が忙しくまわり出す。さて、午後からはどこを傍聴しようか。

NGOでも課題は同じ

午後からNGOのフォーラムを傍聴。前に四人の女性が座って、各自の経験を述べていた。白人、黒人、フィリピン人、中南米人の四人で、テーマはいまだに「人種偏見」。「資金を作って人種差別撤廃のキャンペーンをしている」とか、「子ども時代から、偏見を持たないように育てなければいけない」とか。偏見という遺伝子を持って生まれてくる子どもはいないのになあ。

もう一つの部屋で男女差別の問題。タイの青年が話している。「最少八歳の女兒がレイプされたことがある。レイプされた女性は、家族に責められる。悪い時間に悪い場所に行っていたといつて。」

一〇年前の北京女性会議の時と同じことを話し合っている。女性問題は進歩していないのか？隣に座ったエジプトの女性に聞いてみた。「北京+10で、あなたの国変わったか？」

「大きく変わったわ。リプロダクティブライト(産む、産まないの権利)について語れるようになったし」
 そうか。神から授けられる子宝のことに關して、人間の権利のように言う言葉には抵抗は感じるし、
 それゆえに、この権利については宗教上などの見地から、意見が分かれるところだが、医療など科学
 技術を取り入れている現在、出産だけを自然に任せていたのでは調整がとれなくなる。加藤シズエさ
 んが熱心に提唱したように、産児制限も必要だろう。中絶をするのではなく、避妊で母体を守ること
 を教育によって知らせなければいけない。そうすれば「たくさん産んで、たくさんさんの乳児が死亡する」
 というアフリカの悲惨な状況が改善され、平均寿命も延びるかもしれない。

「それとね、女性が外国人と結婚できるようになったの。以前は男しか国際結婚できなかったけど」
へえ、そんなことがあったのか。

そういえばほかにも変わったと感じたことがある。一つは、身体障害者の人権主張を聞いたこと。発声するのも苦しそうな白人女性が、やる気はあるのに仕事を見つけることが難しく、経済的に困難な生活を余儀なくされていることを訴え、拍手で励まされていた。今までの女性会議でも、NGOとしては来ていたかも知れないが、国連大会議室で、そういった発言を聞いたことはなかった。

もう一つ、気づいたのは、未亡人（違う日本語があるといいのだが）の、フォーラムがあつたこと。その場には出席しなかったのですが、内容はわからないが、世界的に見ても、社会でひっそりと孤立して

いるイメージのある人たちが、こういう場で、しっかり主張できるようになってきているのは進歩だ
と思う。

一方、国の代表が話すことは、大体見当が尽くし、帰国後、参加した方たちによる報告もあること
だろう。内閣府のホームページで検索することも可能だ。NGOのメンバーが、それぞれ熱心に自分
たちの活動を行なっていることもわかっている。こういったことについて私は二〇〇〇年度のCSW
一四日分の傍聴の報告を「あごろ」に書いた。今回はもう少し違う取材もしてみたい。

夜のニューヨークで想う

マンハッタン島の東のはずれ。そこにある国連ビル内でCSWは開催されている。ニューヨークっ
子にとつては隔離された世界。夜、タクシーを拾って町の中に出てみた。ホテルでもらったニューヨ
ーク紹介の雑誌を大急ぎで繰り、今日の出し物と場所と時間をチェック。タクシーに乗って目指すは
ラジオシティー。

「ブッシュ大統領が再選されましたね。」とアフリカ系の運転手さんに声をかけた。「そうだ、彼はす
ばらしい」「経済的に苦しくなったと聞きますが」「彼はアメリカのため一生懸命戦っている。人間は、
皆兄弟だ。苦しいときはお互いに我慢しなければいけない」

この有名なホールで見たのは「リバーダンス」というアイリッシュダンスのショウ。すらりとした

「すばらしいショウですね」と、隣の、座席からはみ出しそうに恰幅の良いアフリカ系の女性に取材を持ちかけてみた。「日本からCSWに来たのですが、この一〇年でアメリカの女性環境は何か変わりましたか?」「私はCSWを知らないし、社会運動はやってないので良くわからない。けれど教師をしていて、自分を教育し、アメリカの女性を、そして、世界の女性を教育するのが大切だと思い、それを全うしようと思っている。それが、女性の地位を高めることになると思う」との答え。とっさにこれだけ答えられるほどの意識を持つて教師をしているなんてすごい。二十数年前アメリカにいたとき、白人女性がこう言ったことがある。「黒人の女の子は、一六歳ぐらいから、そろそろ子どもを産み出すの。未婚のまま。私たち、その子たちのために税金払っているみたいなのよ、イヤになるわ」

サマースクールで学ぶ一〇代のアフリカ系女性とも話したことがある。「アメリカには未婚の母の黒人女性が多いの。母もそうだし、私もそうなの。政府が自立できるようにお金を出してくれるから私は勉強して学校の先生になりたいの」……もしかしてあなたがそのときの少女? と、隣の女性に聞きたくなるような感じがした。この女性は自立を果たしただけではなく、さらにその上のレベルの意識を持っている。このような意識を持つ教師や母親が増えているとしたら、この二十数年で、アフリカ系女性の地位は上がったと言えよう。

帰りは小雨が降り出し、なかなかタクシーが捕まえられない。きよろきよろしていると、一台の車が近づき、手まねをしてる。「助かった」と乗り込み、ホテルまでの料金を聞く。来た時の二倍の価格を言う。「高いわ」といったが車は走り出した後。「見てごらん、これはメーカーのない車さ、黒い

車だよ」しまった。イエローキャブに乗るべきだった。運転手はなにやらぶつぶつ独り言を言い続けている。頭がおかしいのだろうか。窓の外の男女を指差し「あいつらいちゃいちゃしやがって」とでも言ってるのだろう。一人でけけら笑ってまたしやべり続ける。車の取っ手に手をやり、いつでも逃げ出す構えをしながら聞いた。「何話を話してらっしゃるの?」「アラビア語」……仲間と無線で話してるのかしら? 明るい街中を走ってるからまあいいか。一〇分余りの緊張。それでも無事到着。ティップなしできっちり払って早々に車から降りた。

世界各国各様、どこにも女性問題が

CSWも終わりに近づいたある日。

その日も朝九時から国連の大会議室に陣取り、開催を待つ。

隣に座るインドネシアのシスターが聞いてきた。「日本にも、女性問題あるの?」と。

改めてそう聞かれると、なんと答えたらいいのか一瞬言葉に詰まった。

「もちろんいろいろあるわ。社会でのチャンスも低いし」と答えはしたけれど。

「そう? インドネシアでは貧しい女性が多いの。貧富の差が大きくて。路上生活者もいるし。私たちは貧しい人びとを援助しているの。教育が必要だわ」

日本の女性は何の問題も持たないほど幸せだと思われているのだろうか? 幸せに気づかず、私たちは際限のない不満を抱えているのだろうか? こぎれいでありながら、癒しを求めるストレスフルな日本女性の表情が浮かぶ。私はなんと答えれば正しかったのだろうか?

い。そして、女性には経済力が必要だ。

戦後の心理的トラウマをなくすにも、世界的協力を強化しなければならない。国連においても、ジェンダーに敏感でなければいけない。平和に関して草の根レベルでの団結が必要。そして、政治的レベルと共同体レベルで政治面を変化させていかなければならない。

イギリスでは紛争予防、平和構築のためのアクションプランを作っている。アフガニスタンとイラクでは選挙などあったが、中近東の大学出の女性にも選挙に出るよう呼びかけている。女性が、政府でも、同じ力を持たなければいけない。

子どもについての言及もあった。「家がなく、路上に住み、月の光で勉強している子どもたちが、たくさんいることも忘れてはならない」と。

夕方から平和構築のための集会に。

グワテマラ女性。「アフリカには貧困等、問題がいっぱいあり、紛争地にはセクハラがあった。この一〇年で大きく進歩したが、更なる女性の力が期待される。ルワンダにおいては、大量虐殺を起こした紛争が収まった今、公務員の四八％を女性が占めるようになったし、女性が財産を相続できるようになった。しかし〈子ども兵士〉の多くが少女である。少女に対する性暴力や誘拐も多い。差別をなくすため、教育が必要。国連を通じ、皆さんが声を上げて、キャンペーンすることを実行して欲しい。」

このほかにも、「永続可能な平和のために、国と民間との協力が必要」「女性はめっちゃめっちゃに散らかったものを片付けることになっている。戦後の混乱も女性の手によって片付けよう」などの発言があった。

この集会の参加者には白人も多かったが、発言者はアフリカ女性が多く、「女、子どもがひどい目にあっているのに忘れられている。彼らを、わが国を、サポートして」という声が多かった。

会場に来ていた日本人とおぼしき女性に声をかけた。彼女は国連勤務の女性で、アメリカ人と結婚し、子どもを保育園に預けている。興味があつて会場に来てみたが、夫が出張中なので、自分が迎えるに行かなくてはならず、最後までいられないのが残念、と、途中で退席した。彼女は言っていた。「国連にこんなに女性が集まったのは初めてというくらい、今回大勢の女性が来ていましたね。政府の集まりにNGOが加わったから、こんなに盛んになったのでしょうか。政府だけではできないことです」

タクシードライバーとアメリカン・オペラ

帰国も間近。また外に飛び出そう。会場前でタクシーを待つが、なかなか来ない。メインストリートへ出て、やっとつかまえた。「八時までにリンカーンセンターに着く? そのメトロポリタンオペラに行きたいんだけど」「間に合わせてやるよ、どこから来た?」「とーきよー」「トーキョーか、誰でも知ってるよ、ビッグシティーだろ? 日本女性はいいいね、従順で、アフリカ女性とおんなじだよ」「アフリカ女性も従順なの?」「そうさ」「あなたのお国は?」「ガーナ。日本にもガーナ人いっぱい行ってるよ。兄貴も日本にいて、日本人と結婚してるんだ。従順な女性だって言ってる。子ども二人いてね」「従順な女性がいいの?」「そうさ、ここへ座れって言ったらずーっと座ってるような。話は聞くだけで、自分はしゃべらないような」「そうなの? 男性はハッピーかもね」「いや女性だってハッ

ピーだよ。聞いてるだけでいいんだもん」「男性がいい人で、ジェントルマンだったらハッピーかも。でもそうじゃなかったらテリブルだわ」「全くそのとおり、それは僕も同感だね」

アフリカ女性と同じと褒められて、喜んでいいのか悪いのか。ともかく時間には間に合わせてくれてよかった。

リンカーンセンターの中、左にコンサートホールがある。切符を売る窓口がいくつも並んでおり、値段表が出ている。一二ドルから一〇〇ドル以上まで何種類もあり、三五ドルと六〇ドルの間が一番金額差が大きい。どう違うのか、思い切り安いのにしてみよう。三五ドルのチケットを購入して座ってみるとすばらしい。五階席まであるうちの、私は四階席で、床より天井に近いが、ステージの真上でよく見える。椅子がただ並んでいて、柵にもたれてゆっくり見物できた。タイトルも調べずに飛び込んだが、「キャンタイド」という新作オペラ。「人生はすばらしい、高貴な生まれじゃないけれど」という男性の歌で始まる。「私は金持ちになりたいの」と歌う女性と、彼は周囲の反対をよそに結婚。新天地を求めて船出する。行く先ざきで、その地の民族舞踊が繰り広げられるが、どこへ行ってもうまく迎え入れられない。奥地へ奥地へと進むとジャングルの中。空はいつも青く、人びとは笑顔の、のどかな地。「ここではみんな兄弟さ、でも昨日も今日も、いつも同じ……」という流れに。退屈で抜け出す。そしてタイのような国に行ったりするが、最後に、まだ未開の地にたどり着く。「自分たちの楽園を作ろう、木を切って、花を植えて……」そうやって二人は農場を持ち家族を持って、ハッピーエンド。

先日見たリバーダンスにも一脈通じる「流れ流れてハッピーエンド」の物語。アメリカ賛歌か？

帰りのタクシーのアフリカ系の運転手さんが聞いた。「コンサート良かった?」「楽しかったわ、あなたも行く?」「ああ、何か特別なときにね」私の英語を褒めてくれる。ちっともうまくなき苦労しているのだが、運転手さんも上手とは言えない。移民なのだろう。十数分でホテルに着いた。「二〇ドル札しかないわ、おつりください」「二〇ドル返すよ、もつといるかい? はい、もう二ドル」「ああ、一ドルでいいわ」「サンキュウ」「こちらこそ」

空港へ

帰国の朝、飛行場へ向かう車に乗るとき運転手さんに聞いた。「手持ちが八〇ドルしかないけれど、これでグラウンド〇に寄ってから飛行場へ行ってもらうってことができますか?」

ちよつと考えてから、「ああ、いいよ」

国連ビルはマンハッタン島の東端にある。マンハッタン島を西に走り、南下して、9・11の現地、グラウンド〇へ。ビル群の手前がボンと空いている。「この跡地を何にするかなかなか決まらなくて長い間そのままになっていた。慰霊碑を作ることでしょうか、話が決まって、基礎工事が始まったんだ」——「ここが貿易センタービルの跡地」という簡単な看板が立っている。土曜の早朝のせいか、人通りはほとんどない。金網の柵にくっついて工事現場をしばし覗き込んだ後、思わず合掌。踵を返すと、白人の父親に肩車された男の子が、熱心に現場を見つめている。どうしてここにいるのだろう、散歩の途中か。私は車を待たしていたので急いで戻った。

「あの後、ニューヨークは変わった?」「そりゃ変わったよ。みんなの気持ちが変わった。観光客もぐっと減って、収入も減った。まだ以前の状態には戻っていないよ。つぶれた店も多いし……」。

僕は二三歳で単身アメリカに来た。映画で見るほどきれいなところばかりでないことは、来て、すぐわかった。でも金儲けできる。……もちろん金ためたら国に帰るさ。ここは若い人にはいいけど、年取ったらガーナがいい。みんな年寄りを敬うし。国に帰ったらモーターを作る。美しい国だから観光客が来る。娘二人と息子一人いるけど、息子は国に帰らないというからそれが問題なんだ。すっかりアメリカ人になっちゃった。……ガーナは学校も社会もみんな英語だよ。英国領だったからね。民族語は一〇数種もあるので統一が難しいんだ。自分たちの言葉は小学校で三年間習うだけ」

「自分の国語と文化を大事にしないとね」と私。

私はアフリカの民話は一つしか知らないが、それはこういう話だ。「一匹の動物が夜の暗闇の中、森の中できらきら輝く銀色の球を見つけた。持ち帰ったらきょうだいで取り合いになったので、知恵者の蜘蛛に相談に行った。蜘蛛はそれを空高く放り投げた。おかげで今では夜になるとその球が明るく輝き、森中の動物がそれを眺めて喜ぶことができる。」というもので、イソップ物語に勝るとも劣らない素敵な話。

飛行場に着くと、メーターは七九ドル。持ち合わせの紙幣八〇ドルではティップが出ない。「いいよ、いいよ」という彼に、コインを洗いざらい渡し、日本のコインもジャラジャラと渡すと、とても喜んだ。「子どもたちが喜ぶよ」と。真ん中に穴の開いたコインは珍しいのだ。「この間の運転手さんもガーナ人で、いい人だったわ」「ガーナ人はみんないいよ。あなたがガーナに行ったら、ここに来るよ。歓迎されるよ」「いつかガーナに行きたいわ」——本気でそう思えてきた。

東京への空路で

飛行機の座席は真ん中の列の左端だった。右端に若い日本女性が座り、途中の席は空いている。「足を伸ばされていいですよ」と声をかけ、話が始まった。

彼女、親の仕事で、四歳からアメリカ在住。小学四年〜六年は日本。中学の途中からずっとアメリカ。今ニューハンプシャーで獣医学を学んでいる。学校の寮にアジア人は彼女だけ。生まれてこの方、人種差別は全く受けてない。「そうそう、一度だけ変な経験あるわ。友達と旅行に行ったとき、空港で私だけ靴脱がされ、ボディチェック受けたの。友達も「何それ」って言ってたけど、それだけだわ、差別といえるのは。ずっとアメリカに住みたい。すごく楽しいから

祖父はアメリカが好きで気に入って、家買って住んでたこともある。今は日本にいる両親も兄も、私がアメリカに住むなら、自分たちもアメリカに住むからって、獣医になること応援してくれている。日本で獣医やつても小動物が主で、後は馬か牛ぐらいでしょ。私は大きい動物を看たい。絶滅しかかっている動物とかをね。でも、アメリカで獣医というと、人間看る医者より尊敬されてるくらいだから、試験がとて難しいの。がんばらなくっちゃ。今日は、おじいちゃんの八〇歳の誕生日に突然行って、びっくりさせてあげるの」

世界のどこに住もうとも

彼女は絶滅寸前の動物を救いたいとの明確な目標を持ってしつかり学び、無意識のうちに得ているいろいろな権利の恩恵に浴しながら、自然体で、のびやかに生きている。彼女のように、世界のどこに住んでいようと、大人も子どもも、命を脅かされることなく、人権を損なわれることなく、希望を持って生きられるような世の中を、みんなで作っていかなくてはいけない。誰かがしてくれたり、指示してくれるのを待つのではなく、あふれる情報を受け止め、あとは一人一人が自分でできることを考えて。

アフリカでは識字教育や、エイズその他の病気に対する医薬品が緊急に必要。

イラクでは、アメリカが浴びせた劣化ウランによる白血病治療に医薬品や医者が必要。

中国や朝鮮には、警戒心より友好心が必要。

衣食住はあるが、心が乾き、飢えている多くの日本人には、優しい言葉と笑顔と人の話を聞く余裕が必要。

日本人一人が一円寄付すると全部で一億円以上。それをアフリカや東南アジアにもって行くと、一〇〇億円の価値になる。

日本人一人が一人の外国人と友達になると、日本人は一億人の外国人と友だちなれて、その人たちがまた一億人の外国の友達を持つと……。

何回かの機内食を頂くうちに、朝だか夜だか分からなくなり、うつらうつらとこんなことを考えながら太平洋上を飛ぶこと十数時間で成田到着。さあ。まずは、つたない感想文を書きあげて、読んでいただく。「愛多ければ、なすこと多し（鈴木慎一）」の言葉を添えて。

開発途上国の女性たちのめざましい地位向上

「第四回世界女性会議一〇周年記念会議」に出席して 小俣 光子

二〇〇五年は、一九七五年の国際婦人年から三〇年、女性差別撤廃条約を日本が批准してから二〇年、さらに一九九五年に第四回世界女性会議（以下北京会議と略記）が中国・北京で開催されてから一〇年。この記念の年に、世界各国のNGOから第五回世界女性会議の開催が期待されながら、開催できなかったなかで、「第四回世界女性会議一〇周年記念会議」が、中国政府の後押しで二〇〇五年八月二十九日から九月一日まで、北京で開催された。

開催目的は、①北京会議一〇周年を祝う②北京会議で採択された「北京行動綱領」、「成果文書」実施の評価③女性に関して新たに生じた緊急な事柄への対応策を議論する④経験を分かち合うための国際協力と国際理解を推進する⑤グローバルな女性の進歩に新しい推進力を与え、ジェンダー平等に基づいた、よりよい未来への創造に貢献する、など。主催は、中国国家評議会女性・児童国内作業委員会、中華全国婦女連合会（略称・婦女連）、中国外務省、国連中国駐在事務所。会場は中国人民大会堂と北京飯店であった。

参加者は世界九一か国、二〇機関から、スリランカおよびエストニアの大統領（ともに女性）モザンビーク首相（女性）、マダガスカルの総理大臣、ヨルダンやトンガ王国の王妃、各国の男女共同参画担当の大臣、国連人権高等弁務官Louis Arbourさん（女性）らと、NGOの代表約五〇〇人（アメリカ、イギリス、ドイツ、インドなどはNGO参加のみ）、国連関係から約一〇〇人。中国は、

セージが代読され、続いて各国政府出席者のステートメント。

ケニア、フィジー、韓国、ネパール、インドネシアなどの国では、女性省または女性エンパワメント省が、アフガニスタン、カンボジアでは女性問題省が生まれ、オーストラリア、ルクセンブルグでは機会均等省ができ、ラオス、ベトナム、メキシコ、モンゴル共和国、中国や朝鮮民主主義人民共和国、キューバ、モロッコその他多くの国で、女性団体は社会のなかで高い地位を占め、活発な活動を展開しており、南アフリカでは「同一価値労働同一賃金」を打ち出しているなど、二一の具体的な力強い報告に、私たち女性念願の「女性省」がまだ誕生していない日本を思った。

二日目は、北京民族文化宮を訪れ、一〇年間の中国の女性活動の展示を見学した。「北京行動綱領」のテーマに沿って男女平等がどのように発展したのかを、写真やデータを使い、わかりやすく展示。ボランティアの北京大学の学生が説明。改革開放による常用労働者制度改革でリストアップされた数々の女性がいかなる訓練を受けて再就職したかが、ビジュアルに伝わった。

午後は北京飯店で、前日に引き続き第三全体会議が開かれ、二五か国の政府代表のステートメント発表があった。日本は、名取はにわ内閣府男女平等参画局長が、ナショナル・マシーナリー（国内本部機構）の強化、男女共同参画社会基本法の制定、国際協力など、北京会議後の日本の取組の成果について、ステートメントでアピールしたが、発表の順番は中国政府の発表よりも後の、最終報告だった。

三日目の分科会も北京飯店で開かれ、第一部会は「意志決定と管理」「経済的エンパワメント」「女性の人權」。第二部会では「女性と持続的開発」「女性と貧困撲滅」「女性とHIV／エイズ」の六つの分科会で討議された。日本の参加者は、各分科会で「日本女性の経済的自立」、「日本女性の政治参加の状況」など、ペーパーで参加した。

「北京+10」宣言採決

三一日午後、第四全体会議が開かれ、前夜参加者から出た意見に、多くの修正が加えられて、「北京+10」宣言が採決された。「グローバル化のなかで『北京行動綱領』と『ミレニアム宣言』をゆるぎない道標とし」、具体的には「公共と民間セクターにおけるジェンダーの主流化に重点目標をたてる」「教育やICTへの平等なアクセスと能力開発」「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)にICPD(国連人口・開発会議)行動計画を盛り込む」「HIV/エイズと貧困の撲滅」「人身売買の禁止と難民の保護」「男性の参加」「平和、環境、災害軽減への女性の強い関与」「各国の実情に応じて男女平等を達成する」という二七の最終項に、「国際的枠組みのなかで」という文言を入れて「CEDAW(国連女性差別撤廃委員会)の規定を尊重すること」などの決意が盛り込まれた。

最終日の北京市懷柔区ホワイロウへのバスツアーと記念集会では、一〇年前の北京会議と、それ以来継続した女性の国際運動への回顧を、語り合った。一〇年前、この懷柔区で開かれたNGO大会実行委員長挨拶があり、会場に準備された長い布製の横幕に、思い思いの連帯と平和への願いを書き込み、署名した。

今回の「北京+10」記念会議で、私たちは世界の女性運動の潮流を大雑把に捉えることができた。この一〇年間の女性の地位向上が、発展途上国で特に顕著であったこと、日本やアメリカなどでバックラッシュの嵐が吹き荒れるなか、途上国の女性は、経済的・社会的エンパワーメントに邁進し、政治的にも強い影響力を持つ女性が大勢育ったことを実感した。

顧秀蓮婦女連会長は、「女性の発展は国際交流と国際協力なしにはありえない」と述べ、二〇〇六

を集中している今、NGO会議は、ますますその重要度を増している。まず二〇〇九年に東京で開催される予定の〈東アジア女性フォーラム〉を私たちの望む充実した会議にしたい、と切に思った。

怀柔の自然に癒やされる

中国は私にとって近い国。毎年のように各地を訪ねるが、北京は一〇年目。濃霧のようなスモッグに驚いた。一〇年前も表通りには建築ラッシュ、北京飯店に添った東京でいえば銀座にあたる王府井街には、タクシーや自転車とともに輪タク（自転車に昔の人力車の客車をつけたようなもの）が行き交い、宿泊した王府井飯店の前には、ホテルマンが追い払っても追い払ってもホームレスがたむろしていたが、スモッグはなかった。しかし今年の北京は、スモッグで百メートル先も見通せなかった。しかも二〇〇八年の北京オリンピックに向けて、地下鉄をはじめあらゆるところで猛烈な建築ラッシュ。ビルを解体するほこりは、黄砂のようで、息もできないほど。それだけに怀柔区の澄んだ空気と美しい自然には、本当に癒やされた。

一〇年前、北京会議のNGOの会議場が、北京の政府会議場から遠く離れた怀柔区に変更され「NGOに対する封じこめではないか」との説も飛び交うなかで〈あごら〉は、「日本の女性が少しでもよい参加を」と心を砕き、会議の一年前から中国婦女連の盧亜民さん、張静さんや、内閣府の板東真理子さんらを招いて、北京会議についての連続講座を開き、さらに半年前には中国の大学教授袁晔さんをあごら事務局のスタッフとして迎え、婦女連と連絡をとって、全国に状況を発信し続けたこと、などが思い出され、しばし感慨に浸った。

女性と科学

元村 有希子

(もとむら ゆきこ 毎日新聞科学環境部記者)

前任地にある女性センターから封書が届いた。

「人材登録のお願い」とある。その自治体にゆかりがあり、社会に発信している女性たちを登録しておく、さまざまな場面でお手伝いをお願いする時に活用したい、という。名前、所属、専門分野など一部の情報は公開され、NPOなどもアクセスできる仕組みになっているらしい。

「はい喜んで」と記入し始めて困った。「関心分野」「貢献できる分野」の選択肢に「科学技術」という項目がない。ちょっと迷って、比較的近い「医学・保健」「環境」を丸で囲んだ。

私はいま、科学や技術、環境の話題を取材している。といっても一般紙だから、ニュースになる話題はおのずと社会的な色あいを帯びるものが多い。BSE、不妊治療、地震に原子力なども私たちの担当である。

一五人の部署に、女性は五人いる。むしろ多いほうだ。だから、登録票に「科学技術」という選択肢がないことを、いささか残念に思った。まさか女性センターがジェンダーバイアスに浸かっているわけではないと思うが、ことほどさように、女性と科学は縁遠い。

国連教育科学文化機関（ユネスコ）が、女性科学者に贈る国際賞の〇五年の受賞者に、物理学者で慶応大名誉教授の米沢富美子さんが選ばれた。米沢さんは、ガラスのような結晶構造を持たない材料の研究で世界的に有名だ。

三月、パリで開かれた授賞式で、彼女はこうスピーチした。「女性には生まれつき科学に向いている。なぜなら直観力と忍耐力という、研究者に欠かせない資質を持っているからです」

これには背景がある。それに先立つ一月、米ハーバード大のサマーズ学長が、女性教授らを前に「女性は生まれつき科学や数学には向いていない」と発言した。サマーズ氏はクリントン政権で財務長官を務めたやり手だが、女性蔑視発言で以前にも物議をかもした要注意人物である。

米沢さんのスピーチはいわば、サマーズ氏への意趣返しでもあった。それを察した会場はどつとわき、拍手が起きたという。

誰でも知っている女性科学者、マリリー・キュリー(キュリー夫人)は二度もノーベル賞を受賞したのに、フランスの科学アカデミーは彼女を決して会員にしなかった。女性に入会資格が与えられたのは、一九七〇年代後半のことだ。DNAが「二重らせん構造」であるという論文を書いたのはワトソンとクリックという二人の科学者だが、その陰に、ロザリンド・フランクリンという女性物理学者がいたことは、業界ではよく知られている。彼女はX線画像を解析して「らせん状でなければ説明がつかない」ことを突き止めていた。しかし、彼女を嫌う部下が、その情報を、二人に無断で提供し、彼女の貢献は消し去られたのだった。

「女性が科学なんて」という偏見は、二二世紀の日本にもいまだ根強い。

高校生が進路を決める時、理系を目指す女子学生の少なくない人たちが、教師から「女の子だから文系でいいんじゃない?」と言われている。天文学をやりたいと相談したら「就職も結婚もできないからやめなさい」と親の猛反対にあった学生もいる。

無理より道理が通るはずの研究の世界にも、やはり男性社会は厳然とある。女性は戦わざるをえない。だからといって、本人の希望を抑えつけるのは、親心とはいえ、いいことではない。

「女子学生を理工系に」というキャンペーンが、政府の肝いりで始まった。科学技術のさまざまな分野で活躍する女性をホームページで紹介しながら「科学っておもしろいよ」というメッセージを発信している。私もサポーターの一人だ。

科学は研究者だけのものではない。自分や家族の生命を守り、安心な暮らしを送るために欠かせないものなのだ。それを認識してもらいたくて、私は今日も科学を追いかけている。

〈沖縄から〉新たな階段に入った辺野古のたたかい

……北部の「要塞化」を許さない 浦島悦子

ボーリング足場が撤去された

昨年四月一九日から始まった辺野古沖ボーリング調査阻止の座り込みが五〇〇日を超えた九月二日、那覇防衛施設局は、大型台風接近の前に、辺野古のリーフ内に設置されていた四か所のボーリング用單管足場をすべて撤去した。老朽化がひどく、台風の風雨や高波で倒壊する危険があるという理由だった。

しかしながら、施設局は同時に、台風が去れば足場を再設置することとも言明した。昨年九月以降の海上での激しい攻防、業者の暴力、海上やぐら（足場）での二四時間

の座り込み等々の厳しい状況を耐え抜いてきた私たちは、足場が台風風に耐えられなくなるまで杭一本打たせなかったこと（それをもたらししたのはもちろん、現場のたたかいだけでなく、それを支える全体行動であることは言うまでもない）、その成果としての足場撤去を心から喜びつつも、再設置となれば、昨年のような厳しい攻防が再び繰り返されるのかと、浮かない顔を見合わせたのだった。

さまざまな代替案が県民を翻弄

それから二か月近くが経った。台風通過後の再設置は今のところ

行われず、無粋なやぐらのない辺野古の海は本来の美しさを取り戻した。海辺の座り込みテントから眺めるサンゴの海は、秋の透명한陽射しを浴びて青や緑のさまざまなグラデーションを見ている。

この海をこのままで子や孫に、と願う私たちの思いは、しかし、またも踏みにじられようとしている。これまでの計画が、地元をはじめとするねばり強い抵抗と世論の高まりで暗礁に乗り上げたことを悟った日米政府は、現行計画の破綻を認めざるを得なくなったものの、それに代わるいくつもの代替案を打ち上げて、地域住民・県

民を翻弄し始めた。

リーフ上を埋め立てる全長二五〇メートルの軍民共用空港、という現行計画を一三〇〇―一五〇メートルに縮小してリーフ内に建設するという浅瀬埋め立て案。同規模のものをキャンプ・シユワブ内に造るという陸上案。日本政府の推す陸上案に米国が強い拒否反応を示したため、両案の折衷として出された沿岸案。

毎日、猫の目のように変わる報道に、地域の友人は「毎朝、新聞を手にするのが怖い」と漏らした。どの案も辺野古周辺をターゲットにしており、あくまでも沖縄に基地を押しつきたい政府は、地域住民、名護市民はおろか、「現行計画がダメなら県外へ」と主張する沖縄県および稲嶺県知事の意向す

ら見向きもしない。

名護市長の基地受け入れ 発言撤回を求める

そんな中で九月末、岸本建男名護市長は、米国が固執する浅瀬埋め立て案を受け入れる発言をし、米国側はそれを「地元の支持」と受け止めて強気に出てきた。同案は、八年前の名護市民投票で市民が「ノー」の意思表示をした「海上ヘリポート」案に近い。市長が、市民の意思に反する発言をするのは裏切りであり、市民を愚弄するものだと、私たちは〈岸本市長に怒っている市民の会〉を立ち上げ、一〇月五日から市長発言の撤回を求める市役所行動を開始した。平日は毎日、市長への手紙（各人が、市長への要請や自分の思いを

書いたもの）を届けた後、昼休み集会で市民や市職員への訴えを行い、基地受け入れ発言の撤回を求める署名も集めている。

昨今の報道で、人口の多い本島中南部の基地を整理し、自衛隊も含めて北部に集中させたいという日米政府の本音が露骨になってきた。進められている米軍再編は、より効率よく世界を軍事支配したい米国に日本が最大限協力するところが目的で、北部を「要塞化」してその中核にしようとするものだ。しかも米国は、中南部の基地返還は、辺野古浅瀬案受け入れが条件だという。これほど県民を愚弄した話があるだろうか。まるで無人島のように、机上の地図を塗り分ける日米政府にとって、ここに住む人間は虫けら同然なのだろう。

しかし、虫けらにも魂があり、誇りがある。彼らのもくろみは、辺野古現行計画と同様、必ず失敗するだろう。

(○五年一〇月五日記)

日米が勝手に「合意」した沿岸案

一〇月二六日、日米両政府は普天間基地の移設先を「辺野古沿岸部」とすることで「合意」した。翌二七日の地元紙朝刊は、一面トップで移設案の図を大きく掲載し、「中南部基地を北部へ集約」「埋め立てへ特措法」「オスプレイ配備も」等の大見出しで日米「合意」の内容を報じた。

私は思わず新聞を叩きつけたくなる衝動を抑えながら、キャンプ・シュワブ沿岸部(兵舎地区)を挟んで南側は辺野古の浅瀬に、北側

は大浦湾に大きく突き出す移設案に目を凝らした。これまで取り沙汰されていたのはいずれも、軍民共用となったために巨大化(滑走路の長さ二〇〇メートル)した基地を縮小し、軍専用とする案だったのに、これは軍専用であるにもかかわらず一八〇メートルの滑走路を持ち、しかもそれに隣接して広い駐機場まで備えている。これだけの大規模埋め立てを行えば、水深のある大浦湾を軍港にしたいという米軍のかねてからの狙いがすぐにも実現できる。結局、米国は、いろいろ検討すると見せかけて実を取り、日本政府はそれに追従したのだ。

私たちのたたかひの相手は、何度潰しても生き返り、その度に巨大化する化け物なのか……と、ため

息が出そうになる。しかし落ち込んではいられない。こんな理不尽を許せば生きている値打ちがないと、深い藍色を湛えた大浦湾を眺めながら自らを奮い立たせる。

私たちの地域の目の前に広がる大浦湾は、ジュゴンが何度も目撃され、ユビエダハマサンゴの群落やクマノミたちのコロニー、「歩くサンゴ」と言われるキクメイシモドキ(生きたスイシヨウガイに共生)など、生物多様性のきわめて高い海域であり、高級魚の多い好漁場でもある。かつては、山の多いこの地域から薪炭をはじめとする林産物を中南部へ運び出し、代わりに食糧や日用品必需品などを運んできたヤンバル船の寄港地として、人々の暮らしを支えてきた。ここに、いつか復元したヤンバ

ル船を浮かべてみたいというのが、私の密かに持ち続けている夢であり、軍用機や軍艦など絶対に許すわけにはいかないのだ。

これは「沖繩問題」ではない

沖繩県民の切なる願いを、文字通りあざ笑うように真っ向から踏みにする今回の日米「合意」に対して、怒りの渦が巻き起こっている。基地集約のターゲットとされた北部各市町村や議会、地元各區はもちろん、これまで防衛施設局に作業船を提供してきた名護漁協や同辺野古支部、辺野古に事務所を持つ代替施設推進協議会さえもが反対決議や拒否の意思表示をし、米軍基地を抱える中南部市町村もことごとく、自衛隊の共同使用などに反対している。それは、地元

への負担強化もさることながら、ウチナンチュを人間として認めない日米の権力者たちへの強い不信感と、沖繩差別への底深い怒りからなのだ。

一月初めに地元マスコミが行なった県民世論調査において、県民の九割が、「辺野古沿岸案」に反対していることが明らかになった。

稲嶺知事も県民の意向を汲んで、度重なる政府要人の訪問・「説得」に対しても拒否の姿勢を貫き通している。一人、わが名護市の岸本市長だけが、いったん拒否はしたものの、条件次第では認めてもいいというシグナルを送っていることが情けない。

全県の市民運動の仲間たちが集まり、稲嶺知事を支え、超党派の県民大会や県民投票をめざして、

地元二紙に意見広告を出す（一月中旬予定）ために動いている。

一二月一八日には、怒りを持ちながらも既成の運動に参加しにくい人たちに平場で語りあってもらい、行動につなげようと、「（こめん）わじつていいか？ 県民大作戦」（略称）が開かれる予定だ。沖繩は沸騰しつつある。

だが、私が全国の皆さんに強調したいのは、これは「沖繩問題」ではないということだ。米国の引き起こす戦争に、日本全体を引きずり込もうとする米軍再編の狙いを隠すために、アメとムチを駆使し、問答無用で沖繩に押し込めようとする日米権力者たちに、だまされてはいけな。これはすぐれてあなた自身の問題なのだから。

（〇五年一二月一日）

中越大地震に関する 農業関係被害状況

星野邦子

一〇月二〇日

新潟で開かれた〈新潟県女性議員の会〉、秋季研修会に出席しました。今回は私に〈女性議員の会〉から宿題が出ていましたので大変です。

その宿題とは「中越大地震で農業の被災と復興について述べよ」というものでしたので困りました。私の専門分野でなかったからです。

でもどうも言っていられません。というのは、私の住む広神は農業が主な地域ですし、農地の被害は広神が一番多くあったからです。

そこで真剣に勉強しました。発表した内容を以下に書いてみます。

旧広神村（現在の魚沼市）は、昨年のの中越大地震では、魚沼市中でも農地の被害が著しく、五三〇件ありました。

昨年夏の新潟・福井に大災害をもたらした7・13の集中豪雨で緩んでいた地盤が、中越大地震で大幅に崩れ、また被害の状況もまだ把握できないでいるうちに大雪となり、その解けた雪が割れた地面をもぐり、山間農地や道路、崖地などの傷口を深くしたのです。

さらに追い打ちをかけるように、この春は大雨となり、集中豪雨の傾向にあるのか、この一年で三回も、床下浸水に見舞われた家もあるのです。

また、震災を免れたと思っていた農地も、実際に水を張ってみたら、片方の畦が畦一つ分、下がっていたり、雪がなくなつて、いざ水を張ってみたら、溜まらなかつたり、うねっていたりで、考えていたより被害は広がっていきました。

「問題点」

①今回の震災では壊れた箇所絶対量が多く、工事業者が対処しきれない。

工事を地元の業者に頼む地権者が多い。…実際、県外の業者では工事が終われば、引き上げるし、細かい注文はつけにくいし、後あとの面倒をみてもらえるかどうか

もわからないので、地元の業者にと願うのは、誰しものことです。

②災害と認められると、復興までに三年という期限が設けられる。

この震災は、一〇月二三日に起きたので、雪が降れば査定はできなくなり、事実上、一年は、ほとんどなかったと同じです。

しかも、昨年は一九年ぶりといわれる大雪で、五月初旬まで、田んぼに雪が残りました。

三年目も、一九年の三月まででも、実際は一八年の雪降りまでが期限となり、雪の降らないところの半分しか実働の期限がないということになります。

③合併と震災がほぼ同時にやってきた。

魚沼市は、一月一日合併。六町村の対等合併により、役所は分

庁舎方式を決めていました。

分庁舎方式とは、入広瀬役場に建築課、守門村役場に福祉関係の課、広神村役場は農林課と議会、

小出町に本庁舎、堀の内役場には教育委員会と広報課、湯之谷村役場に商工観光課という具合でした。

元の職員はみんな、六町村に分かれて仕事に当たる体制になって

いたため、配置換えを二週間延ばして残りましたが、解決のめどもつかず、対応は困難を極めました。

九四七平方キロメートルという広大な面積を持つ魚沼市です。で、被害にも差があり、職員間でも認識に温度差があったため、対応に大きな影響を残しました。

・魚沼市役所の農林課を例に取る
と。

農地は激甚災害の指定により、

補助金も増えました。普通、災害の補助率は約五〇％ぐらい。激甚災害指定になると八〇％前後となります。

ところが、私たちの魚沼市は、農地九七・四％、農道や水路に至っては九九・六％もの高い補助金となったのです。これには意味があります。

関係団体が膨大な量の災害事務手続きをして初めて高い補助金になるのです。このため、今も毎日夜一〇時、一一時の残業をしているようです。（遅いときは午前二時までしたときもあったようです）

「激甚」に指定されてすら、こんなものです。この煩雑な事務の手続きは何とかならないのでしょうか。

・縦割り行政の問題

道路の復旧には、建設課、上下水道課、ガス企業課など、複数の課が協力してやらなければできないものも多く、実際、山奥の農地になるほど工事車両の通れない道路が多く、工事は遅れています。

こんな大きな災害の時は、一つの課で責任をもって工事ができるようになればよいと思いました。

別々の課では、統一した工事を目指す課と埋設するガスや水道が完成しないとできない道路復旧のせいで遅れる農地整備とのジレンマが、関係者には、たいへん気の毒です。

・山間農地の復旧

山の田んぼが丸ごと崩れた場合、下の方で一枚の田んぼにすれ

ば経費が何十分の一で済むと思われるものでも、「原形復旧が基本」というのです。

「なぜか？」と聞きましたら、地権者が複数の場合、利害が絡んでこじれると困るという話を聞けば、それも、もつとも……。

災害と他の事業を組み合わせ、一部は災害、他は畦抜き事業という組み合わせで、うまく一枚にすることもできるというのです。が、職員の相談の乗り方にもよるし、これだけ忙殺されていれば、そんな細かく相談に乗ってやれるかどうかとも危ぶまれるところです。道路復旧に国や県の役人が細かく口を挟み、なかなかOKが出ずに、仕事が遅れたり、自治体職員が役人の対応に追われたりという一面もあります。が、地方分権が進めば、

もう少し効率よくできるようになるのかもしれませんが。

対応にあたる国や県の役人のせいというより、制度が悪いのだと思います。

（山間農業の抱える問題）

山や畑、田んぼ、養鯉などに頼って生きてきた高齢者の今後が、一番の問題だと思います。

地震で、何もかも失い、住む家までなくした被災者に、「被災者生活再建支援法」は、大変使い勝手の悪いものでした。

このままでは「国は応援してるよ」というポーズだけの支援にも映る……。

家が最大の心のよりどころであるのに、「家を建てるのに使えない」という決まりは、どこからきたのでしょうか。（個人の財産取

得になるという判断によるそうです……。」

生きる糧であったすべてを失った高齢農業者の行き場は、「ない」と同じです。

やる気をなくしてしまう前に、何とかしてやれないのだろうか。

自立の精神まで失えば、真の復興は難しいものとなります。

一〇年前の阪神淡路大震災では、街の八〇%から九〇%が復興したと言われていますが、被災者の五〇%の人が、「まだ復興できないでいる」と答えています。

「今も、生活に困窮している人たちがいる」と、今春報道されました。

行政と住民のギャップがこうした差を生むのでしょうか。

中越大震災では、亡くなった人こそ五一人という数ですが、生業のすべてを失って復興のめどの立たない人がたくさんいることを、考慮に入れていただきたいのです。豪雪の魚沼の災害でも、国の一律の条件の中でしか思案されないことが、一番の問題です。

これを契機に、何とか制度改革をしていただきたいのです。

（命を守る）

また、農業ばかりでなく、安全な暮らしと命を守るためには、緊急時の対応を常日頃から考えておかなければならないと痛感しました。

「避難場所を見つけておく」

「水・薬・食料（二日間分）」「寒さ対策」「家具の倒れ防止」など、

頭に入れておくことが大事です。

*

この震災では、地域のふれあいが、みごとに功を奏しました。誰にも何にも言われなくとも寄り集まって、協働で暮らしたことは、これからの教訓となっていくでしょう。

何事か起きたとき、自分が何をすればいいのか、何をすべきなのか、常に考えておくことが大事だと痛感しました。

これは、すべてに通じることだと思います。



加担

堀場清子

一九三七年一月一三日

日本軍がなだれこみ

中華民国の首都 南京は陥落した

万歳 万歳 の歓声の嵐が

日本全土を駆けめぐり

昼は旗行列

夜は提灯行列だった

その夜

小学一年のわたしと弟と 母との三人は

三宅坂のあたりにいた

新宿方面から流れてくる列は

参謀本部の前で足を止め

大きな光の輪となつて

ひとときわ高く 万歳を連呼した

片側を開いた門扉の前に 机がひとつ出されて

一人の軍人が長靴ちようかのままその上に立ち

提灯を掲げては 万歳の声に答えていた

子供心に それはたいそう晴れがましい姿にみえた

車回しの奥に立つ 参謀本部の建物は

全館こうこうと電灯を灯して輝いていた

(あの窓のどこに父はいるのか)

提灯の列は 堀にそって蛇行し

宮城前広場をめざして 日比谷の角で直角に曲る

岸をゆく提灯の列と

堀の水面みなもにそっくり倒立して進む列と

薄紅色の提灯が二列となって ゆるやかに移動してゆく光景が
はるかに 世にも美しく眺められた

その夜遅く帰ってきた父に わたしはいった

「お父さんも 門の前に出ればいいのに」

父は肩ごしに憫笑を投げた

「あんな馬鹿なことができるか」

しかし次の瞬間に父はわたしを忘れたようだった
靴下を脱ぎながら 憤怒をこめて吐きすてた

「あの万歳 万歳が

国民の 一日も早く戦争を止めてくれという声に
聞えんかというとののだ！」

南京城外に 戦線を停止し

敗者の面子をも保持して 一挙に全面和平にいたる――

そう立案し 激論し 否決された父の無念を察するには

わたしはまだ幼かった

ましてや「軍」という存在が

避けがたく 社会の圧力として働くなど

思ってもみなかった

しかもそのとき彼の地で犯されていた

虐殺を 知らず

強姦を 知らず

残虐行為の数々を 知らず

掠奪を 知らず

放火を 知らず

「支那は悪いから懲らしめる」と聞かされれば、
そうか、と思い

無知において

わたしは戦争に加担していた

あの夜

宮城をとりまいて

提灯を掲げ 万歳を叫び

夜空をゆるがせた四〇万の人々も

無知において あるいはまた野望において

戦争に加担していた

……それから六〇余年が過ぎて

二〇〇一年の秋たけるころ

見知らぬ女性から一通の手紙が届いた

その人の夫はジャーナリズムで働いているが

ニューヨークのテロ以来

「さあ戦争だ 戦争だ」と職場の空気は気負いたち
反戦論など口にもできない雰囲気となった

その行く手を座視できず

自分になしうる唯一の手段として

多くの人に手紙を書き続けている とあつた

この手紙は

恐ろしい事実を証している

万事につけアメリカ追隨の日本政府に止まらず

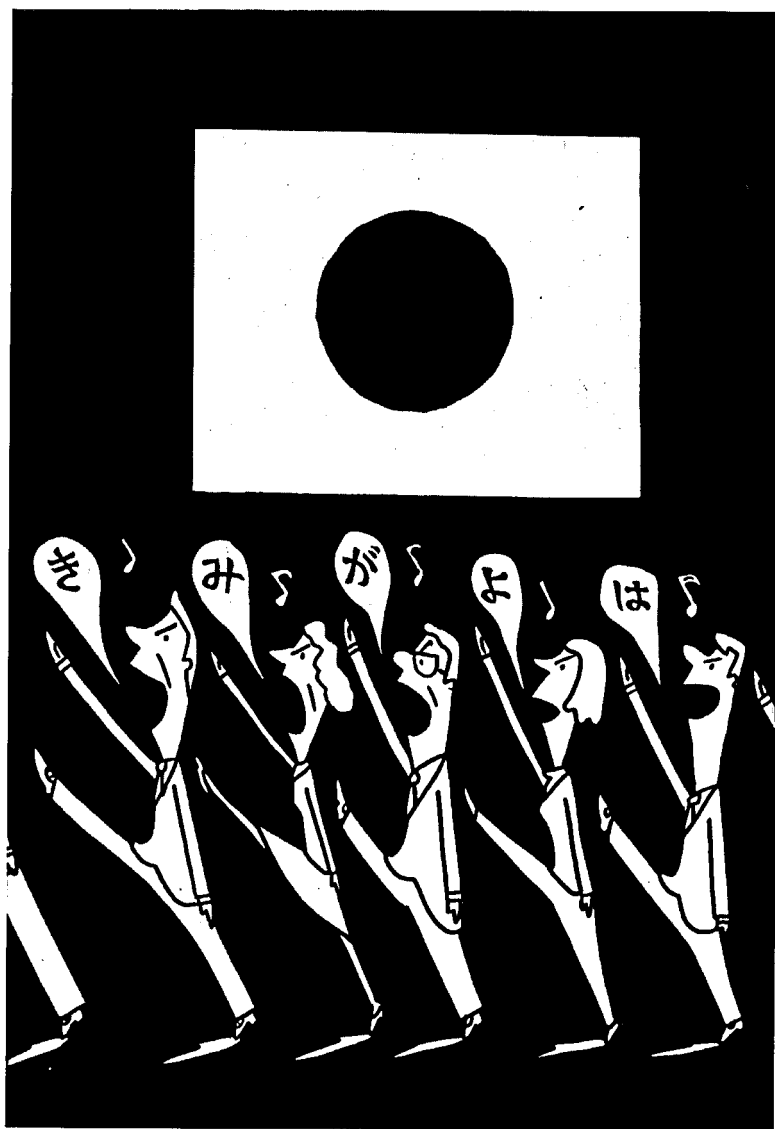
すでにして 少なからぬ日本人が

ブッシュの戦争に加担していることを

(詩集『延年』より)

笑って怒って 9

橋本 勝



愛国の 教師ばかりに したい国

窓

『未来をひらく歴史』

歴史認識の共有をめざす
日中韓共同編集

子どもと教科書全国ネット 21 事務局長 俵 義文

1. なぜ、共通の歴史教材をつくったのか

私たちはこれまで、「新しい歴史教科書をつくる会」(つくる会)の歴史教科書に対して、日本の過去の侵略戦争や植民地政策を正当化し、歴史を歪曲する自国中心・排外主義の教科書であると批判してきました。しかし、ただ単に批判するだけでは、歴史教科書問題は解決しません。私たちには、日本の子どもたちをはじめ、アジアの子どもたちにとどのような歴史を伝え・学ばせ、どのような歴史認識を共有するのが問われています。

歴史認識の共有は、子どもたちだけの問題ではありません。東アジアの平和な共同体をつくっていくため



高又研

社会科学文献出版社



ハンギョレ新聞社

には、その前提として、ひろく歴史認識の共有が不可欠だ
と思います。

〈つくる会〉は、歴史は一国のもので、アジアの人びと
(国)と歴史認識の共有など不可能だと主張してきました。
しかし日本は、十九世紀後半から二〇世紀の半ばまで、約
六〇年間にわたってアジアを侵略し、日清・日露戦争、日
中戦争、アジア太平洋戦争と、ほぼ一〇年おきに侵略戦争
を行なってきました。日本の歴史、とりわけ近現代史はア
ジアとの関係ぬきには考えられません。侵略戦争と植民地
支配の歴史を謙虚に学び、過去の克服をめざして東アジア
の子どもや市民と歴史認識を共有する努力が、日本にはど
うしても必要です。同時にこのことは、日本だけの課題に
とどまらず、中国や韓国においても同様であると私たちは
考えています。

その課題に答える試みとして、私たちは、日本・中国・
韓国の三国共同で共通の歴史副教材づくりをすすめてきま
した。それが五月二七日に三国で同時に発刊された『日本・
中国・韓国Ⅱ共同編集 未来をひらく歴史——東アジア
三国の近現代史』です。

二〇〇二年三月に中国・南京で開催した日中韓三国の「第
一回歴史認識と東アジア平和フォーラム・南京会議」で、
東アジアの子どもや市民が歴史認識を共有するために、共
通の歴史副教材をつくる話が合われました。その後、
各国で東アジア共通歴史副教材開発・作成のための委員会
が組織されました。日本では、大日方純夫早稲田大学教授
を委員長に、研究者(在日を含む)、中学・高校教員、大
学院生、市民活動家など、一三名で委員会がつくられてい
ます。

副教材のための第一回国際会議は、二〇〇二年八月にソ
ウルで開催。その後、各国持ち回りで開催され、二〇〇五
年一月末の東京での会議で一〇回を数えました。

第一回会議では、私たちがつくる副教材は、近現代史に
焦点をあて、通史ではなくテーマ別の内容にする、これま
での各国の教科書のような自国中心の歴史ではなく、東ア
ジアの視点で歴史を見る、ナショナリズムを超えて世界市
民的な立場から歴史の共有をめざす、などで合意しました。
その後、取り上げるテーマについて、大項目、中項目、小
項目、コラムについて議論を重ね、それらについて最終的

に合意ができたのは、二〇〇三年一月のソウルでの第五回会議でした。ここで各国がどこを分担して原稿を書くかも合意ができました。

2. 本書の構成と特徴

以上の合意をもとに、各国が担当した原稿を書き上げ、その後の国際会議で原稿を検討し、意見や注文を出し合い、それにもとづいて原稿を修正して持ち寄って検討するという作業を続けてきました。合意した副教材は、全体を次の六章で構成しています。

序章 開港以前の三国／第一章 開港と近代化／第二章 日本帝国主義の膨張と中韓両国の抵抗／第三章 侵略戦争と民衆の被害／第四章 第二次世界大戦後の東アジア／終章 二一世紀の東アジアの平和のための課題

ここからもわかるように、日・中・韓三国の歴史を東アジア史のなかに位置づけて認識できるようにし、国境を越えた歴史の見方を提示することをめざしています。

これまで、日韓、日中という二か国の歴史対話や歴史副教材づくりの試みは行なわれてきましたが、私たちのよう

な三国での共通歴史副教材づくりは、歴史的にもはじめてのことです。二国間でも大変な作業なのに、それを三国で行なうことは予想を越えた困難がありました。

そして、これまでの各国の歴史研究や歴史教育・教科書の違いによる認識の違いを克服することが重要な課題になりました。例えば、日清戦争・日露戦争など過去の戦争に対する見方、明治維新や3・1独立運動など個々の歴史的事件の見方・とらえ方など、三国によってかなり異なっていることが明らかになりました。また、私たち日本側の委員は、日本の侵略・加害についてかなり正しい認識をもっているメンバーですが、それでも、実際に被害を受けた国の人びとの思いとは大きな開きがあることを痛感させられました。

私たちは、対等・平等の原則を前提に、お互いの立場を尊重しながら、粘り強い議論を通じて、それらの見方ととらえ方の違いについて意見を調整することをすすめてきました。各国が分担執筆した原稿を五回の国際会議において章ごとの分科会で議論し、意見を付けあって修正する作業を続けてきました。会議と会議の間は、メールをフルに活

用して意見交換を行ってきました。国際会議は合計一〇回にも及びました。こうした議論や交流を通じて、三国の関係者は真の友人関係になってきたことも大きな収穫でした。そして、日本の〈つくる会〉教科書問題への取り組みや、この共同作業での共通歴史副教材づくりを通じて、中国・韓国でも、自国の歴史教科書を見直す活動もはじまっています。

3. 中国・韓国、そして日本での反響

『未来をひらく歴史』が発刊されて五ヶ月が経過しました。中国では一三万部、韓国では四万部、日本では七万部が発行されています。

中国では、主要な書店で山積みで販売され、大きな反響が出ています。初版の二万部は三日間で売り切れたということです。上海では副教材として使用している中学校もあります。マスメディアも大きく取り上げています。

韓国では、私も参加した六月の日韓共同記者会見の後で出版レセプションがありました。盧武鉉大統領がビデオでメッセージを伝え、さらに、教育人的資源部（文部

省）が買い取って全国の学校の校長に寄贈し、教員には自費で購入して読むように呼びかけています。マスメディアも、かなり取り上げています。

日本では、メディアはほとんど取り上げていませんが、この種の本で現在七万部というのは最近にないことで、市民など皆さんの関心の強さが伺えます。右派勢力からは、『未来をひらく歴史』を読んで、「反吐が出た」（藤岡信勝〈つくる会〉副会長）など、この図書に対する攻撃がはじまっていますが、出版社には、読者カードがたくさん返っています。日本人が知らなかった戦争の事実を初めて知った、日本の歴史を中国・韓国との関わりで、理解できたなど、その多くは、評価してくださったものです。

さて、この『未来をひらく歴史』は、日本では、〈つくる会〉や地方議員などによって歴史教科書や平和教材・平和教育に対する卑劣な攻撃が行なわれているので、この副教材を公立の中学・高校で採用してもらうことは困難だと思われる。したがって、市販が中心になりますが、私立学校での採用を積極的に要請する予定です。すでに、今年も京都の立命館宇治高校で世界史の副教材として全生徒が使用し

ています。生徒たちは、日本の侵略戦争の事実を初めて知った、こういう歴史を学べてよかった、などという感想を述べています。

《つくる会》教科書とこの副教材を読み比べていただき、アジアの平和な共同体づくりを担う子どもたちや市民に、どちらの歴史を学ばせたいかを考え、議論していただきたいと願っています。

この『未来をひらく歴史』は、二〇〇五年の《つくる会》教科書の採択を阻止する活動にとっても有力な材料になったと確信しています。

私たちは、この本の出版をゴールだとは考えていません。これはあくまで出発点であり、『未来をひらく歴史』をさらに改善するために三国の話し合いをはじめています。

4. 日本国憲法の理念に合致した

『未来をひらく歴史』

私たちが発刊した『未来をひらく歴史』は日本国憲法の理念に合致したものだと思います。

こうした理念を実現するためには、何よりも、過去の侵

略戦争と植民地支配の歴史を謙虚に反省し、二度と日本がアジア・世界の火種にならないようにすることが必要です。そのためには、東アジアの平和な共同体をつくるために、積極的な役割を担わなければなりません。

その前提として、アジア諸国、とりわけ東アジアの中国・韓国、「北朝鮮」との間で、過去の歴史問題を解決し、信頼と友好にもとづく過去史の克服が不可欠です。

そのためにも、歴史認識の共有は大前提であり、『未来をひらく歴史』は、そのための一つの教材として大きな役割を担うものであると確信しています。

(二〇〇五年一月)

『未来をひらく歴史』は、二〇〇五年度のJCJ（日本ジャーナリスト会議）特別賞を授賞されました。

人身取引問題に関する国際シンポジウム

日時 2006年2月25日(土) 10時00分—17時00分

場所 国連大学 ウ・タント会議場

(地下鉄 表参道駅 B2出口 徒歩5分
JR 渋谷駅 東口 徒歩8分)

外国人女性や子どもたちに対する性的搾取や強制労働など、人身取引(トラフィッキング)の形で行われる深刻な犯罪及び人権侵害が、日本をふくめた世界で拡大しています。この問題を解決するために、国内外の専門家、長く支援にたずさわってきたNGO、政府省庁や行政関係者、研究者を招いた国際シンポジウムを行います。ぜひ、関係者、学生、その他テーマに関心のある方々は、この機会に人身取引の実態について知識を深め、解決の糸口に向けたディスカッションにご参加ください。

第1部 人身取引の実態とその根絶に向けた対応 10:00～12:00

来賓挨拶	森山真弓衆議院議員
講演	国内の事例報告 国内NGOメンバー 海外の事例報告 国際移住機関(IOM) 政府の取組報告 内閣官房

第2部 パネルディスカッション 13:30～17:00

◆第1セッション 人身取引根絶に向けた国際協力

パネリスト	アビチャート・スリプーヤ リナ・アルベラエス 警察庁 リチャード・ダンジガー 国連薬物犯罪オフィス(UNODC) 人身取引担当官<予定>	タイ警察大佐・人身取引に係る捜査共助担当課長 コロンビア内務法務大臣補佐官<予定> 国際移住機関(IOM) 人身取引担当部長 外務省国際社会協力部長
ファシリテーター	神余 隆博	

◆第2セッション 女性のエンパワメントの拠点とその国際ネットワークの構築に向けて

パネリスト	スマルニ・ダウム カルメラータ・ヌキ 上川 陽子 吉田 容子 伊藤 公雄	インドネシア女性強化省児童保護副大臣 フィリピンDAWN(NGO)代表 衆議院議員 弁護士・人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)共同代表 京都大学院教授 昭和女子大学副学長
ファシリテーター	坂東 真理子	

問合わせ 独立行政法人 国立女性教育会館 人身取引シンポジウム担当
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6711(内線2308,2306) FAX 0493-62-9034

ホームページ URL <http://www.nwec.jp/> メールアドレス rese@nwec.jp

申込方法 ホームページのお申し込み画面から、もしくは、裏面の申込書をFAX/郵送にてお送りください。折り返し、参加通知証を送付します。

申込期限 平成18年2月20日(月)(必着)

保育 有り (有料:3歳から小学校低学年対象、2月16日(木)までにお申し込みください)

主催 独立行政法人国立女性教育会館(NWEC)、外務省、国際移住機関(IOM)、
協力 人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)

※参加費無料、日英同時通訳つきです。お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

黄土高原の小さな村の性暴力

中国山西省性暴力被害者の訴え 5

小俣 光子

日中戦争中に、中国山西省孟^メ県西部前線、進圭社、西煙鎮、河東村の三拠点に駐屯していた旧日本軍兵士によって、性暴力の被害を受けた中国人女性^メが、日本政府に謝罪と損害賠償を求め、東京地裁に提訴したが、この裁判は一九九五年八月に四人の原告によって東京地裁に提訴された「中国人「慰安婦」損害賠償等請求事件」第一次訴訟、九六年二月に二人の原告によって提訴された同「事件」第二次訴訟、そして九八年一〇月に万愛花^{ワンアイハ}さん、張先兎^{チャンセン}さん、尹玉林^{インイルム}さん、楊時珍^{ヤンシ}さん（二〇〇二年九月死去、夫劉五成^{リウウセイ}さんが裁判を承継したが、劉さんも二〇〇三年九月死去）、王改荷^{ワンカイヤ}さん、趙存^{チウソン}さん（二〇〇四年一月死去）、趙潤梅^{チウジュンメイ}さん、南二僕^{ナンニボク}さん（一九六七年自死、原告は養女楊秀蓮^{ヤンシウリン}さん）、高銀娥^{カウギン}さん、楊喜荷^{ヤンシヤ}さん（一九九九年二月死去、三女李愛芳^{リアイフワン}さんが承継）ら、一〇人の原告によって提訴された「中国・山西省性暴力被害者損害賠償等請求事件」に分かれている。

本誌二九八号から三〇二号にわたって連載したのは前の二件であり、今回は、最後に提訴された裁判の原告の被害女性たちのこと、そして彼女たちが住む、中国農村のことなどを紹介したい。

この訴訟の原告は、一九九二年、東京で開かれた日本軍「慰安婦」問題の国際公聴会で、中国人女性として初めて、日本軍による自らの性暴力被害を世界に向かって訴えた万愛花^{ワンアイハ}さんが加わるグループである。万さんは、二〇〇二年一二月に東京で開かれた女性国際戦犯法廷で「日本軍に拉致監禁の

うえ輪姦され、さらに抗日組織のリーダーであったため拷問を受け、身長が二〇センチも縮んだ」と告発するうち、PTSD（心的外傷後ストレス障害）で身体が硬直し、その場で失神した。この場面を傍聴あるいは映像で見て、強い衝撃を受けた方は大勢いると思われる。まさにこの場面こそNHKによる番組改竄で削除された一部分である。

この裁判は、東京地裁審理の過程で、裁判長のイニシアティブによって、和解をめざす動きがあった。実現すれば、戦時性暴力被害者裁判史上初の、国との和解が成立するところであった。しかし、国側はあくまでも頑なに和解を拒否した。そのため、裁判所もついに和解勧告までにいたらず、二〇〇三年四月、東京地裁で「事実認定・付言つき」ではあるが請求棄却、敗訴判決が出た。付言は「本件訴訟を含め、いわゆる戦後補償問題が、司法的な解決とは別に、被害者に何らかの慰謝をもたらす方向で解決されることが望ましい」とするにとどまった。

原告の女性たちはただちに東京高裁に控訴したが、二〇〇五年三月の高裁判決は、地裁の「事実認定」「付言」を踏襲したものの、やはり敗訴判決であった。

弁護団は二〇〇五年七月二〇日最高裁に上告した。そのわずか四か月後の十一月十八日、最高裁第二小法廷から一通の通知書が送られてきた。「上告不受理決定通知」であった。上告棄却、敗訴が確定したのである。翌日の朝刊にはたった一〇行ほどの記事が掲載された。日本の裁判制度は、地裁、高裁、最高裁の三審制であるが、現実には弁論が開かれ、証拠調べをするのは高裁までである。最高裁までいくと、書面審理のみで、特に一九九八年の民事訴訟法の改正後は、上告できる理由が大幅にしばらく「判決」ではない、「決定」という一片の通知だけの門前払いが大半を占めるようになって

黄土台地の村むらを訪ねる

裁判を支援する市民グループ（山西省・明らかにする会）（略称）は、会の代表、石田米子さん（岡山大学名誉教授）を中心として、ほぼ毎年二回（春・夏）原告の大娘（おばあちゃん）たちの住む中国山西省孟県の現地農村に赴き、彼女たちを訪問し、医療費支援（会員その他からのカンパ）を行い、被害の実態調査をおよそ十年続けている。昨夏、会のメンバーの一人としてこの訪中に参加した。

山西省孟県は省の東部にあり、面積は神奈川県をやや上回るほどの地域で、省都太原から車で数時間悪路を走った所にある典型的な黄土台地の村むらである。孟県農村部（鎮・郷・村）は、現在もなお事実上「未開放地区」とされ、外国人だけでは入れない。山西省人民政府外事公室の役人に先導してもらい、ようやく現地入りできるのである。

八月一八日、成田―北京―太原と飛び、宿泊先の山西大学招待所（ゲストハウス）に着いたときは、とうに日が暮れていた。

翌一九日朝、私たちの現地受け入れを、一手に引き受けてくれる太原在住の何清さん（元山西省人民政府外事公室主任）の導きで、在外研究で中国に滞在・留学中の人たちも加わり、総勢一九名が現地に向かう。何清さんは定年退職後も外事公室の車を私たちのために手配できるという権力者だが、ひょうひょうとしてユーモラスな人である。「黄河テレビ」の車も同行する。「抗戦勝利六〇周年」の昨年、中国のメディアの多くは山西省性暴力被害女性をとりあげた。私たちにも「黄河テレビ」から取材の申し入れがあり、滞在中、若い記者・カメラマンが私たちに同行して取材した。大娘たちのなかには強引な取材に疲れて体調を崩した人もあったと聞いた。しかし報道によって中国の企業・団

体・個人が彼女たちを支援するケースがふえているという。被害女性の長い苦しみと貧しさへの同情もさることながら、彼女たちが日本政府を相手に健気に闘っていることへの共感でもあろう。

前日までの長雨で道路事情が悪いため、寿陽、陽泉、孟県城と大迂回して正午過ぎ孟県西部の河東村に到着。待ち受ける李愛芳さんと一緒に楊喜何さんのお墓参りをする。中国農村の慣習では、いつでも誰でも墓参できるわけではない。男の兄弟のいる女性は旧暦の孟蘭盆にあたるこの日しか墓参りができない(今回の訪中は孟蘭盆の時期に設定)。とうもろこし畑をわけ入りお墓にたどりつく。お盆だからといって、特に草むしりをして墓のまわりをきれいにするという習慣はないらしい。雑草が生い茂った土饅頭の墓前に、紙銭、食べ物などを供える。供物を燃やす煙の立ちこめるなか、李愛芳さんは、中国の民間宗教の慣習にしたがい、「媽(マ)おかあさん!」と大声で呼びかけ、号泣して母親に語りかける。石田米子さん、川口和子さん、(弁護団員、「二〇〇〇年女性国際戦犯法廷」日本検事団長)が、声を出して裁判の現状を報告して合掌。私たちもそれぞれの思いをこめて、手を合わせた。参加者のなかには、墓前で泣きながら呼びかける姿に違和感をもった人もいたが、日本と中国の考え方やその表現の違いをみきわめることはお互いが付き合っていくうえで、重要なことであろう。

次に孟県西部の中心地、西煙鎮に住む大娘たちを支援し、私たちの現地調査にも協力してくれる農民の李貴明^{リクワイミン}さんの家で待つ尹玉林さんに会う。尹さんは、後河東村の自宅で急死した夫の亡骸も埋葬していない時に、被害に遭った。のち陽曲県の農民と再婚して子どもに恵まれた(被害女性は後遺症で子どもを産んだ人は数少ない)。夫を亡くした今は一人暮らしだが、近くに住む娘が面倒をみている。彼女はテレビ局のカメラに怯えたのか、私たちがいくら話しかけても終始うつむきかげんであったが、だんだん慣れてきてよろこびを満面にあらわし、私たちと手を取りあった。

戦争の不条理

楊宝貴^{ヤンバウグイ}さんの案内で河東村の背後にある羊馬山に登る。羊馬山は夏草が山肌を覆い、色とりどりの小さな花が風に揺れていた。一九四〇年この山上に日本軍が砲台を築いて以来、砲台下の窑洞^{ヤウドウ}や麓の村内で、当時一五歳前後の尹玉林さん、張先兎さん、趙潤梅さん、王改荷さん、楊時珍さんらに数多くの性暴力がふるわれた。楊宝貴さんは一四歳のとき、山上の日本軍陣地で炊事係の下働きをした。その時期、彼は他の誰よりも日本軍に接近してその姿を見ていたわけである。日本軍が敗退した後、八路军に入り、国共内戦を戦った彼は、負傷し、現在は傷害年金で余生を送っている。楊宝貴さんは当時、日本軍下士官から性暴力を受けた原告の一人、南二僕さんをこの険しい山肌の道なき道をロバに乗せて山上の下士官の許に連れてゆき、翌朝またロバに乗せて送ったという。やがて南さんは男児を出産したが、のち男児は死亡した。新中国成立後、南さんは対日協力者として裁かれ、さらに文化大革命中の糾弾と病苦に耐えかね、一九六七年、夫と幼い養女を残して自死した。強い日射しの下で彼女に思いをはせていた私は、一瞬立ちくらみした。涼風が吹き渡りやと我にかえった。

八〇歳に近いはずの楊宝貴さんは、実に健脚だ。ときどき立ち止まって私たちを待ってくれる。彼は、薄紫の小さな花をつけた香草を足許から摘み取ってかざし、「これを身につけていけば、元気でいられるよ」と言う。駆け寄ってそれをいただく。爽やかな香りだ。（この香草は今もバッグに納まり私を守ってくれている）。山上に立つと近隣の村むらが一望できる。日本兵が命令一つではるばる海を越えてよくもこの地にまで来たものだとも果然とする。彼らはいっ果てるとも知れないこの戦場で、家族や故郷をどのように思い起こしたのだろうか。中国被害者の苦しみと、この地で果てた日本軍兵

士の哀しさが重なり、戦争の不条理をあらためて思った。

車の真正面に大きな赤い満月が昇り、その満月を、左に、また正面に見ながら、太原に到着した。

二〇日、太原を発ち、後河東村の楊秀蓮さん（南二僕さんの養女）の家に着いたのは午後一時。楊さん夫妻の心尽くしのお昼をご馳走になる。全員で楊秀蓮さんと共に南二僕さんのお墓参り。楊秀蓮さんが亡き母に呼びかけ、号泣する。南二僕さんの過酷な生涯に思いをはせて合掌。

午後の予定をこなすために、二組に分かれる。侯党村に独り住む王改荷さんと、大娘たちの中で唯一、棺を準備し、夫、李正義^{リ・チ・ギ}さんと黒石窑で暮らす高銀娥さんを訪問する組が先発。私たちは、後河東村に住む趙潤梅さん、張先兎さんを訪ねた。趙潤梅さんは養女の曹金愛さん夫妻と孫と同居。以前私たちがプレゼントしたプリント柄のブラウスを着て、口をすばめながら迎えてくれた。短い時間であったが、心が通いあった。帰る時は纏足^{マタフタ}がほどこされた小さい足で、ヨチヨチ外に出て、杖を投げ出して、私たち一人ひとりと握手をかわした。張先兎さんの家は昨年屋根が落ちて雨もりしていたが、私たちの支援で修復され、庭には大輪のダリアが咲き誇っていた。肺気腫で息が苦しいと言いながらも、小さい身体いっぱい喜びをみなぎらせて話をする。夫の郭味栓^{クオ・メイ・スワン}さんも手の震えは相変わらずだが元氣そうで、仲良く並んでカメラに納まった。

その後、二組は合流して劉五成・楊時珍夫妻のお墓参りをした。楊時珍さんは後河東村生まれ、夫劉五成さんは彼女の被害を知って結婚。子どもにはついに恵まれなかったが、仲睦まじく生涯添い遂げ、その晩年を介護し続けた。彼女の死に打ちのめされながらも彼女の遺志を継ぎ、来日して証言した。早く彼女の許へと願っていた晩年を知る私たちは「やっとまた一緒になれましたね」と語りかけた。お墓の背後の柳の太木がみごとな葉を茂らせ、仲良く並ぶ土饅頭を見守っていた。

孟県訛りと北京語の二重通訳を重ねて

二二日、孟県東部、山西・河北省境の太行山脈に連なる地域の農村で「無人区」とされたと『孟県文史資料』に記載されている東関村で聞き取り調査をする。「無人区（火焚区ともいう）」とは、一定地域の抗日勢力を根だやしにして、その背後の根拠地と日本軍が占領した地域とを完全に遮断するために、日本軍が当該地域の村むらから全住民を追い出し、家屋をはじめあらゆる生活手段を破壊、焼却してしまうものである。

東関村では、党委員会の部屋を借り五名の農民から話を聞いた。直接体験を持つ古老侯双玉さん、王立山さん、侯開有さん、樊金貴さん、それに前記の資料などに証言が収録されている樊存厚さんの息子の樊貴兵さんであった。ここでも、学校教育を受けていない農村の高齢者の孟県訛りを聞き分け、北京語に二重通訳を介しての辛抱強い過程が求められた。一度や二度の調査で理解できるはずのない問題であるからこそ、私たちは幾度でも孟県に行こうと意欲を燃やすのである。

二二日、娘子関長城に登り、午後太原市の病院に入院中の万愛花さんを見舞う。万さんは、中国性暴力被害女性問題のいわばキーパーソンで、大娘たちに最も信頼され、常に大娘たちを励まし続けてきた気丈な方であるが、今はもうベッドから起きあがることができない。抱きしめた肩は薄かった。この問題が、日本政府の責任において、一日も早く解決されるよう祈らずにはいられなかった。

二二日、北京空港で日本に帰る一行を見送り、私は北京に住む友人の家で体調を整える。日本留学中に交流があり、学位取得後中国に帰り、各方面で活躍している友人たちと懇談した。

山西省孟県と北京のはざままで

八月二九日から九月一日まで、北京飯店に宿を移し、「北京+10」記念会議に出席した（本誌五六ページ参照）。開会式は、日本で日本政府側との会談を急きよとりやめて帰国し、日本人の間で議論をよんだ国家副主席の呉儀さんが司会、胡錦濤国家主席が長い、長い演説をするという力の入れよう。レセプションも国の威信をかけた豪華なものであった。

日本からの参加者は、全体会議の各国政府代表のステートメント発表で、日本政府代表、名取はにわさん（内閣府男女共同参画局長）の順番が最後にまわされたことを口惜しがり、この会議に閣僚クラスを送らない日本政府に不満をぶつけていたが、そのこともあろうが、私には、現在の日中関係を反映しているものと思われた。

山西省孟県の大娘たちをはじめ、その家族・近隣の人びと、そして、現地の支援者とのゆるぎない信頼関係に心なごんだ後だけに、この会議の何とも落ち着かない雰囲気違和感を覚え、あらためて私たちは何を為すべきかを深く考えさせられた。

九月三日、中国の「抗日戦争勝利六〇周年」の記念式典が人民大会堂で開かれ、歴代の共産党幹部や元兵士ら約六〇〇〇人が出席した。記念演説に立った胡錦濤国家主席は、日本に対する「偉大な勝利」を強調した。当日は、天安門広場、人民大会堂がある東・西長安街は交通止め。

九月四日、北京に住む健康弁護士を表敬訪問する。彼女は長年日本全国の弁護士と共同で戦後補償裁判に関り、絶大な信頼を得ている。（以下次号へつづく）

（中国史研究者）

語りかけたいあなたへ 66

大里知子

笑うということ

自分は十代の頃と精神的に、あまり変わっていないように思われてならないのだけれど、よく考えてみたら、私にも子どもの頃と変わったものがあるような気がしてきた。

それは、私が子どもの時は何かにつけて、よく笑っていたものだったのに、今は、やたらと笑わなくなったことだ。

年齢を重ねるごとに、人生の悲哀というものを感じて、簡単に大口をあけて笑えなくなったのかもしれない。

子どもの頃は、わが家にみえたお客様の所作や言葉に、少しでも可笑しいところがあれば、その場ですぐゲラゲラ笑ってしまい、そのほか、何かにつけて笑っていた。

私が、お客様の前で笑うものだから、母がそのお客様に都合が悪く「そんなに笑うものじゃ

ありません」と注意するのだけれど、私は注意されればされるほど可笑しさが増し、笑いをこらえることができなくなるのだった。

そして、お客様が帰られたあとで、父と母から「どうして、あんなに笑うのか」といわれる。その時は「ああ悪かったな」と、神妙になるのだけれど、またすぐあらゆることに敏感に反応してゲラゲラと笑っていた。このころは、こういうことの繰りかえしだったような気がする。

ところが、近年は誰かが大きな声で笑うのを聞いたりすると、よくあんなに笑えるものと思ってしまうから不思議なものだ。

「笑うかどには福きたる」とか、笑うのは身体に良いそうで、よく年輩の人に「タマゴを食べるのと同じくらい滋養がある」と教えられる。

ほんとうに人間の身体には、笑うということが最高の妙薬なのかもしれない。

子どもの頃のように、むやみにゲラゲラと笑うのではなく、できるかぎりのユーモアと笑みを忘れないで、毎日を過ごしていけたらと思っている。

(エッセイスト 秋田県鹿角市在住)

(Eメールアドレス fusen@abeam.ocn.ne.jp)

「提言」何から始めるか！二つの提言 古川ひろし

9・11・2005 ショックから
どう立ち上がるか

小泉・自公政権は二〇〇五年九月一日、「郵政の民営化の是非を問う選挙だ」と言い「改革を止めるな」というキャッチフレーズで、いわゆる「郵政選挙」を実施しました。これが「憲法と大増税かくしの選挙」であったことは、一〇月二八日になって「自民党新憲法草案」が発表されていることでも明らかです。出されたマスコミに国民が乗せられた結果となりました。

自民党と公明党があわせて三二七議席。衆議院の三分の二を占有したことは、「多数決」を旨とする国会だけに、不安は尋常ではありません。二〇〇四年六月一〇日、〈九

条の会〉が発足して以来「憲法九条を守れ」の声が上がり、その組織も全国で三〇〇〇を越えていましたから、憲法改悪かくしを見ぬいた選挙結果になることを期待していただけに、このショックは大きなものでした。

〈九条の会〉は新聞で小さく載った程度で、テレビで報道されることはなく「民主的で文化的な国家をめざす」憲法を持った国なのに、不当な扱いであると考えていました。が、マスメディアにのらないかぎり、世の中を動かす力にはなれないのかと、改めて考えこんでいます。

選挙後、小選挙区制の問題点も浮きぼりになってきていますが、選挙区で落選した候補者が比例区で当選していることだけがクローズアップされ、「比例区は無用」へと世論を誘導しているようにさえ思えます。

今回の選挙では、自民党は、小選挙区で四七・八％、比例区で三八・二％の得票だったのにかかわらず、議席で六一・七％を占有しています。民主党はそれぞれ、三六・四％、三一・〇％なのに議席では二三・五％にすぎず、共産党は七・三％、七・三％ですが一・九％にとどまっています。一九九四年の小選挙区制の導入のときに、市民は、こぞつて猛烈な反対運動を続けましたが、その時危惧されたとおりの結果となりました。

「有事法制」を国会で通したあと、小泉首相は声高に「日米同盟」を口にするようになりました。「有事法制」が国会に上程されたとき、マスコミあげて、「白装束」と「タマちゃん」騒ぎの中にあつて、目くらましされたことが、今さらながら悔やまれます。ひとびとは「今」のことしか考えられなくされているのではないのでしょうか。

憲法は一九四七年五月三日に施行、日米安保条約は一九五二年四月二八日に発効。自由民主党は安保条約を前提にして一九五五年に結成されました。

一九六〇年の日米安保条約改訂のときの「安保反対」闘争は、「日本国憲法の進路を守れ」という国民的運動だった

と思うのです。「今だけの視野」なのか、「安保体制からの視野」なのか、「戦後、憲法を持つてからの視野」なのか、「戦争を体験しているところからの視野」なのかで、ずいぶん違う判断が生まれてきているように思われます。中学生・小学生を含めて、未来をみつめた、〈九条の会〉の運動がひろがらないかぎり、国政選挙に影響を与えることはできないと考えますが、いかがでしょう。

「子どもたちの子どもたち」の「いのち」を考える

中学生・小学生は未来そのものです。彼らが親となり、祖父母となつていく世の中へ、日本国憲法をバトンタッチしていくことが、大人・有権者のつとめではないのでしょうか。

世代がばらばらになり、じぶんの人生しか考えられないほど生活が追いつめられたとき、ファシズムに足すくわれることになると思っています。

携帯、パソコン、電子計算機、電子辞書で、自らは計算もできないし、漢字が書けなくなっている今、子どもたち

が親になる世の中は、想像するだけでも烏肌がたちます。

六〇代以上の日本人は、親たちから月の行事も炊事・洗濯・針仕事・大工仕事・細工ことも伝承されてきています。が、その後の世代は手仕事の伝承すらない状況。六〇代以上の高齢者を、いま未成年と交流させないと、とりかえしのつかない文化の喪失となることでしょう。

アメリカ合衆国のニューヨーク州とカナダのケベック州にまたがってホーデーショーニー（イロコイ連邦）という独立国家があることを知りました。この国家に、アメリカは税をとりたてることも兵隊を募集することもできない。この小さな独立国は「わたしたちの国では重大な問題は七代後のいのちのことを考えて決定する」と言っています。そして全員一致、ワン・マインドになるまで議論する民主主義を貫いています。

七代後というのは「孫の孫の孫」です。七代先というのは「祖父母の祖父母の祖父母」です。憲法をどうするかは、まさしく「七代後のいのち」を考えて行わなければならぬ重大問題です。どんな時も、「日米同盟でいくのか、日本国憲法でいくのか」を問いつづけられているのではない

でしょうか。知恵をあつめていかねばならないと思います。

教育基本法には「われらは、さきに日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した」と書いてあります。この教育基本法を変え、憲法を変える議論は、国民とともに未来をみつめてなされなければなりません。マスコミは国民の目をそらす報道・ニュースに話題を集中させています。

憲法九条を守るためには、国と国の間に不信と軽蔑を広げることがあつてはなりません。わたしたちの安全と生存を守る方法は軍備を拡充していくことではありません。必ずしも友好関係にない国ともいかに仲良くしていくかというのが九条外交のはずです。北朝鮮に対しても一致できることで協定を結び平和を前進させることが肝要です。「国交回復、文化・スポーツの交流、拉致問題の継続」ということで一歩踏み出したとき、相手ともアジアからの孤立を脱することができると思います。

「子どもたちの子どもたち」のいのちを考えたとき、「主権在民」は一〇〇年、五〇〇年先も守り通さねばならない

ことだと思ひます。「在民」の「民」は、「日本に生まれ、日本で生活するひとびと」という意味であつて、「官から民へ」の「民」ではないことを特記しておきます。人と人・国と国のあいだの「信頼」と「尊敬」を深めていくためには、「日本国憲法」を活かすことこそ大切だと考えているところです。

二つの提言

まず憲法を生かす政府、「活憲政府」をつくることを真つ正面に据えて考えたいと思ひます。

そのためには、「子どもたちこそ未来」という社会をつくる努力が必要です。子どもたちの「子どもたちの子どもたちのいのち」——三代先のいのちを考えて今を判断する知性がなければなりません。

全国民が憲法を読み活かすことと国政選挙で活憲の議員を過半数にすることの二つを提言します。

◆どうすれば憲法を読む運動が起こせるか

◆国政選挙をどう戦うか

「憲法の前文と九条の書写を始めたら、憲法を読み出す人がふえてきている」という。そこで私たちの憲法サーク

ルでは、「読点がきたら改行し、句点がきたら一行あけて清書する」方式の枘目付きの清書用紙を普及していくことを考案しました。

書き写すことは、読む以上に内容を読みとることが出来ます。前文と九条を書き写したとき、誰もが「憲法は国民のものなんだ」と腑に落ちることでしょう。三人にこの用紙を渡して「今度会ったときには感想を聞かせてね」と言うのです。感動してくれたら、その人たちに、さらに同じように三人に働きかけてもらうのです。これを「写憲」の運動と名付けることといたします。

日本の人口は二〇〇五年一〇月一日現在で一億二七六九万人でした。三人から九人、九人から二七人……とすすめていって「三の一七乗」になると一億二九一四万〇一六三人にもなるのです。一日一日のテンポで運動すれば、日本中のすべての人が一七日で前文・九条を清書することになる計算です。憲法がどんなに人びとと国ぐにを大切にするものかと気づく人がたくさん出てくることでしょう。

国政選挙は「小選挙区制」を逆手にとつて戦いましょ。憲法を守る側の候補者を一人に絞りさえすれば、過半数は

夢ではありません。

アメリカの言いなりの政党には、自主外交もできませんし、食糧の自給率が四割を割り、穀物自給率が三割を割っていることを克服することも、子孫のことを考えることもできません。そこで、市民の運動で選挙区ごとに、無党派と社民党と共産党と協議する場をつくり、「憲法を守り活かす」候補一人にしてもらうのです。

これは大変なことですが、この努力そのものが国民が主権者として成長していく過程ではないでしょうか。

生きているのは確かに自分の人生です。しかし同時に「子どもたちの子どもたちの子どもたち……」の世の中にバトンタッチしていく、人類史の一コマを生きている。

写憲の運動を日本のすみずみにひろげ、未来を拓こうではありませんか。

第四九号

(二〇〇五年一二月)

かじ 風しーけ

新沖縄フォーラム

特集 仙山訴訟が問う軍用地とジエンダー

特集にあたって(宮城公子・親川裕子)／仙山訴訟の今日的意義(比嘉大城)道子)／〈座談会〉辺金武仙山訴訟「人権を考えるウナイの会」(仲間美智子・伊良波静江・仲村広美 聞き手・親川裕子)／金武仙山訴訟「最高裁に望むこと」(成定洋子)／韓国「宗中の会」女性差別訴訟(鄭柚鎮)／「資料・金武仙山訴訟」審判決(抜粋・二審判決(抜粋))

●シマだより 与那国／石垣／宮古／那覇／山原／永良部／大島／関西／関東

●沖縄いま 〈対談〉日米再編報告が意味するもの ―新崎盛暉・我部 政明／沖縄自治州基本法に向けて ―佐藤学／合意してないプロジェクト ―阿部小涼／開発に抗した語りを聞くこと ―河村雅美／実感とアクション ―村上陽子／偶感(四四) ―岡本恵徳

●北の風・南の風 釜山で再び目を覚ます ―安倍陽子／兵役アラカルト? ―宮内秋緒／キムウタリの塔イチャルバー 竹内渉

●沖縄環境ネットワークだより(内海正三)

●強口冷口(高良勉)

●佐喜眞美術館だより(佐喜眞道夫)

●沖縄この三ヶ月(宇根悦子)

●読者の集い 那覇／関東

●バックナンバーのご案内

●編集後記

■ 定期購読の申込みは、はがきかFAXでお願いします。こちらから郵便振替用紙をお送りしますのでご希望の方は、年間四号分(二千円)または二年間八号分(四千円)をご送金下さい。・バックナンバーあり。

★発行所 〒902-0075 那覇市国場五二 ワタリアパート二〇六号

【云々】(〇九八)八三二一八四四/E-mail: netwind@atlasplala.or.jp



2006年3月16日、ふえみん婦人民主クラブは創立60年を迎えます。日本の敗戦の翌年、平和と男女平等、お互いの人権を認め合う民主的な社会をめざして創立しました。

私たちはこの60年、男女平等や女性の自立を進める努力を続け、国連の動きに呼応して一定の成果を得ることができました。

一方でいま、平和憲法や男女平等を脅かす動きに対して危機感をひしひしと感じています。

私たちは記念すべき日を迎えるにあたり、「平和と民主的な社会を」と願ってきたおんなたちの歴史を振り返り、これを未来につなげるために、みなさんとともに歩んでいきたいと思います。

この集いにぜひご参加ください。

ふえみん婦人民主クラブ共同代表
設楽ヨシ子 村田孝子

2006年3月18日(土)

午後1時30分～4時(開場1時)

映像で綴るふえみんの60年 ※展示コーナーもあります

講演 北原みのり「フェミ 冬の時代」
落合恵子「いのちの感受性2006…わたしの60年」

会場 女性と仕事の未来館



〒108-0014 東京都港区芝5-35-3 TEL:03(5444) 4151

参加費 前売り1300円 当日1500円
中高生1000円

交流会 4時30分～6時30分 会費3000円
保育あり 500円 ※いずれも要予約(3月10日まで)

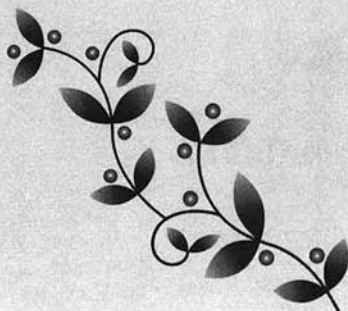
前売り・予約はFAX、メール、ホームページで受け付けます。お名前、連絡先(電話、メールアドレス)を明記してお申し込みください。お支払いは当日受付をお願いします。前売り券は前もってお送りできません。

主催 ふえみん婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前3-31-18
TEL:03(3402)3244 FAX:03(3401)3453
<http://www.jca.apc.org/femin> eメール:femin@jca.apc.org

ふえみん婦人民主クラブ 創立60周年記念の集い

のびやかに60年
そしてわたしたち





レイト・レッスンズ 14の事例から学ぶ予防原則

欧州環境庁編、松崎早苗監訳

七つ森書館刊

A5版375頁2800円＋税

公害、環境汚染問題では対策が遅れることが、世界のどこでも普通だった。その状況を変えようと一九九二年のリオ地球サミット（国連環境と開発会議）では「予防原則」を宣言に入れた。しかし、産業界やそれに傾いている政府は、予防原則に強く反対している。なかなか実質的進展が望めない。一九六〇年代に警鐘を鳴らされたはずのアスベスト悲劇もその例である。

欧州ではこの種の事例を歴史的

に検証して、早期の警告などの対策の遅れと、そのために社会が蒙った被害額、また、歴史から引き出される教訓を調査して報告書を出した。それがこの本である。本書が取り上げた事例は、化学物質だけでなく、漁業資源枯渇、狂牛病（BSE）、畜産（魚の養殖も共通）へのホルモンや抗生物質使用まで幅広く、日本ではまだ環境問題として議論されていないことも含まれている。

教訓は一二にまとめられ、科学

の限界を認識することや普通の人の良識を生かすことの大切さと、それらを有効にするための社会的制度への提言が含まれている。地球が狭く、かつ、密接に絡み合うようになってきたことに対処する人間の知恵としての「予防原則」を強く望む研究者、環境活動家を執筆者に迎えた本書は、非常に訴える力がある。

「ダイオキシンと環境ホルモン」という章はないが、「北米の五大湖汚染」の章がそれを含んでいる。実はミナマタ病（水銀）を取り上げようとしたけれど、日本の研究がほとんどなかったので断念したと聞いた。低濃度汚染をフォローする科学研究がないのだ。

また、米ぬか油事件（カネミ油

症)では、台湾の研究結果だけが引用されている。

「曲がりなりにも対策(補償)がされれば終わりで、その後の科学的研究は余計」というのは、日本社会の特質だろうか。

一方、TBT(防汚塗料)の研究で優れた結果を出している堀口敏宏氏の成果が一行も書かれていないなど、不可解な部分もある。

しかし、科学の前にひれ伏すのでなく、自分の価値観で環境政策を考える態度を人びとに求めている。

科学だけでは解決できないことを深く認識して、社会的対応を求めている真摯な姿勢は立派だ。政策研究にも、教材にも適した一冊である。

(松崎早苗)



ナガサキの郵便配達

ピーター・タウンゼント著

間庭恭人訳

「ナガサキの郵便配達」を復刊する会・刊

B6判 二〇六ページ

イギリスに生まれ、育ち、「戦争の犠牲になった子どもたちの本」

を書くために、一九七八年、日本を訪れた筆者は、広島と長崎の被爆者・医師・科学者・社会学者・宗教指導者たちに会い、一九四五年八月九日とその後の三七年間を描く。

八月九日、木の下で倒れていた一六歳の谷口稜^{すゑ}は、頬にも膝にも胸にも潰瘍が出来、背中にはただれ、ただれた傷に蠅が産みつけた卵は、無数の白い蛆となり、膿は流れ落ちて寝床を濡らし続けた。

奇跡的に一命を取り止めたが、「赤い背中」は残った。彼が新婚旅行の湯殿で初めて妻に告白したとき、妻はそれをどう受けとめたか……。

英国の戦闘機のパイロットだった立場から、日本はなぜこの悲劇に至ったかも、厳密に分析したこの本は、訳書が一九八四年爆発的ブームとなり、絶版に。「戦後六〇年」の今年、復刊された。

開戦から敗戦までの日本を厳しく分析して、自らも傷ついている筆者。必読の一冊であろう。(R)

ある子供

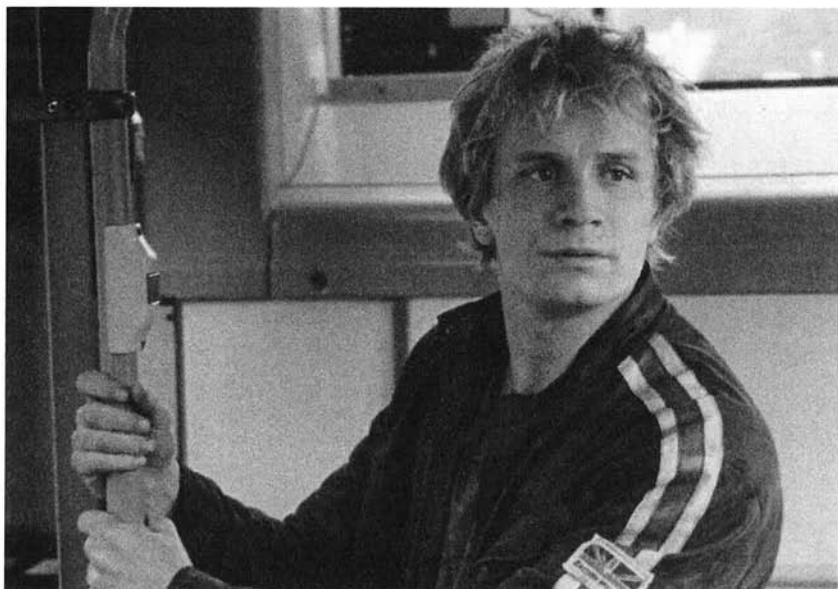
the CHILD



監督はベルギーのダルデンヌ兄弟（左 兄ジャンピエール、右 弟リュック）

ソニア：デボラ・フランソワ——映画初主演





ブリュノ：ジェレミー・レニエ，81年1月ベルギーブリュッセル生まれ

赤いミニスカートの少女が階段を駆け降りる。

胸には白い大きな包み。

「ブリュノ！ブリュノ！」

声に答えはない。少女は包みをのぞきこむ。包みと見えたのは赤ン坊だった。そして急いで帰りついたアパートには、見知らぬ男女が――。

一八歳の少女、ソニアは、病院で出産。帰ってみると、子どもの父親は、彼女のアパートを無断で他人に貸して「収入」にしていたのだ。

呆然と歩くソニアは、道の向こうに彼を見つける。

「ブリュノ！ブリュノ！」

ブリュノは二〇歳。職もなく、こまごまとした盗みで、その日暮らしを続けている。

白い大きな包みの中の、初めての子どもを見る目に、感動の色はない。ソニアが抱か

せようとしても、彼はその気もない。でも、母になったソニアは、抱きしめたい。

二人は簡易宿泊所に泊まる。「生活」のために盗み続けるブリュノ。ソニアがほしが

喜ぶソニア。

レンタカーでの、つかのまのドライブ。野原を駆け、じやれあう二人は、初めて幸せいっぱいに見える。

しかしブリュノは、赤ン坊、ジニーの、名前も呼ばない。そしてある日、ジニーを乳母車にのせて外出したブリュノは、「高値を出して子どもをほしがっている夫婦がいる」と伝えた女に、乳母車ごと赤ン坊を売る。狂気のように怒り狂うソニア。

ブリュノは必死で盗みを働



いてジニーを買戻す。しかし、ソニアは彼を許さない。

*

ベルギーの、と言うよりは、今のヨーロッパの、あちこちの街角で起こっている、あたりまえの風景。

「産んだ」ことで、その日から母になる少女。そして、「あなたの子」と言われても、

父親にはなれない青年。十歳くらいの少年を手下に使って、きわどい盗みを続ける二十歳。ブリュノの将来は――。

スリルがあるとさえある。淡彩のようないと言えない。淡彩のようない画面に、しかしいつしか惹きこまれてゆくのは、大きな子供のような二十歳を産み出した社会への悲しみが、底辺を流れているからだろう。

*

試写が終わったとき、拍手はなかった。しかしエンドタイトルが終わっても、立つ人もなかった。無言の列が、会場から通りへと続いた。

五分も経ったころ、「よかったね」という声がボツリと聞こえ、周りにいた見知らぬ人たちが一斉にうなずいた。

*

二〇〇五年カンヌ国際映画

祭パルムドール大賞。カラー九五分。

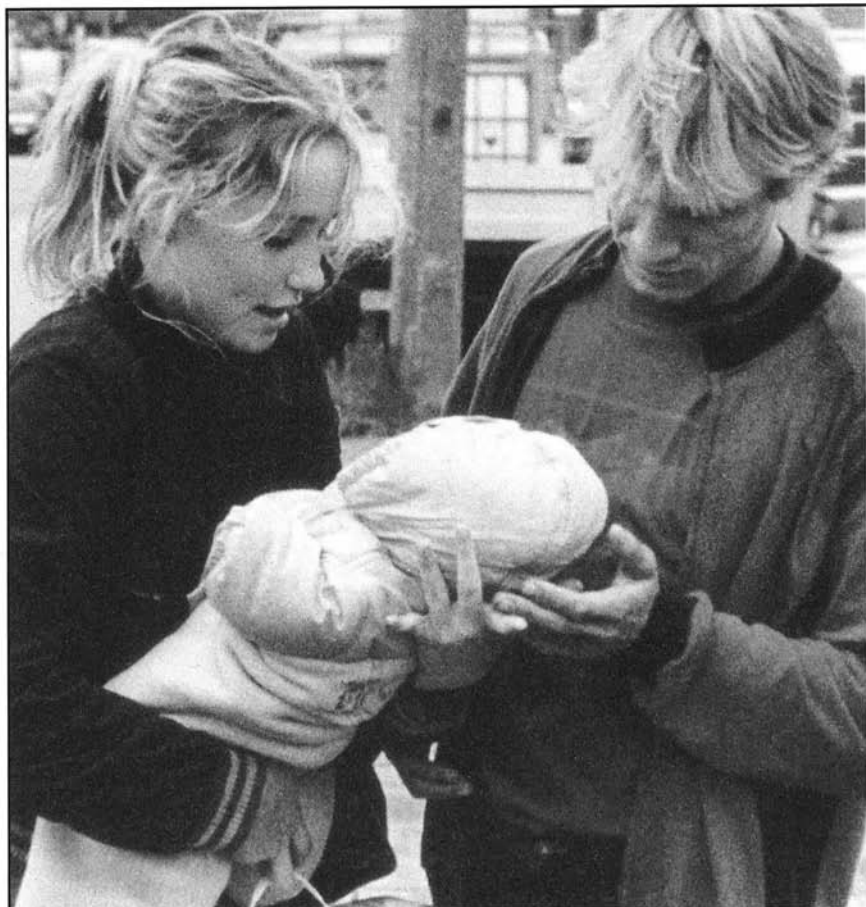
監督は、ジャンピエール・リュック・ダルデンス兄弟。兄ピエールは一九五一年、弟リュックは五四年、共にベルギー生まれ。

ドキュメンタリーから出発して、劇映画に転身した二人は、第三作『イゴールの『約束』で、カンヌ国際映画祭国際芸術映画評論監督賞ほか高い評価を受け、第四作『ロゼッタ』では、カンヌ・パルムドール大賞・主演女優賞を受賞。第五作『息子のまなざし』でもカンヌ主演男優賞、エキモニック賞特別賞。そしてこの第六作『ある子供』では二度目のパルムドール大賞受賞といまヨーロッパだけでなく、全世界から注目されている。

洪い映像の中に大きなメッ



セージを秘めた作品は、どれも深い印象を静かに与える。「ある子供」の「子供」は、原題では単数だが、生まれた子供ジミーではなく、「成人にさしかかりながら、大人になれない子ども」を象徴したネーミングだろうか。十代のお子さんをお持ちの方、またお子さん自身にも、観てほしい静かで深い映画。(千)



2005年カンヌ国際映画祭
パルムドール大賞受賞

2006年1月10日から東京・恵比須ガーデンシネマで
ロードショウ
(問い合わせ03-5420-6161)

国の審議会の女性委員の割合 三割を突破

内閣府男女共同参画推進本部は、「国の審議会等における女性委員の割合三〇％突破の目標は、予定より一年早く三〇・九％に達した」と、九月三〇日、発表した。

国の審議会数は一〇四(委員数一七九二人)。法務省の「檢察官資格審査会」を除く一〇三審議会に五五四人の女性がいる。そのうち女性が三〇％以上は七六審議会(七三・一％)に。昨年度の五五審議会(三・四％)より大きく前進した。

女性委員の比率が三〇％を超えている省庁は、達成率順に、環境省三三・八％(五対五)、総務省三二・八％(一一対一〇)、財務省三二・七％(五対五)、国土交通省三二・一％(一三対一)、農林水産省三一・五％(八対七)、内閣府三一・一％(一四対九)、金融庁三一・一％(六対五)、文部科学省三一・一％(一一対七)、厚生労働省三〇・一％(一二対九)(カッコ内は、上が審議会の総数、下が三割に達した数)の六省庁で、中でも環境

省と財務省の二省は、すべての審議会が三〇％を超えた。

(未達成は、外務・法務・防衛・経済産業省の四省庁のみ)女性の比率の最高は、総務省政策評委・独立行政法人評価委、国土交通省土地鑑定委、環境省独立法人評価委の四委員会で、どれも四二・九％。

しかし女性の会長は、法務省法制審議会と財務省の国税審議会のわずか二つのみで〇・〇二一％。国連の「開発計画報告」によると、意思決定に参画する女性の状況は、日本は世界の四二位。工業化国の中では、とびぬけて低い。

女性四三人当選、国会史上最多の当選者

—— 9・11選挙

郵政民営化を問う9・11選挙で、自民党は小選挙区二二名、比例二五名、計四七名の女性候補を立て、選挙区一四名、比例一二名、計二六名が当選。当選率五五％。民主は選挙区三名、比例四名だったが、公明(四名)共産(二名)

無所属（二名）は、当選は比例のみ。とはいえ、選挙区と比例で合計四三名の女性議員が誕生。女性が選挙権を得た一九四五年の戦後第一回の衆議院選（連記制）での女性三九人当選を、戦後六〇年にして初めて上回った。しかし、現行の小選挙区制の選挙区では、今回の自民党のような特殊な戦略がない限り、女性の当選は困難なことも示した。

一方、当選女性議員を改憲派と護憲派で分けると、当選は改憲派が三九名（候補者比九〇・七％）という高率。女性の当選者がふえたことを、単純に喜べない。

また、全国三〇〇の小選挙区で女性が立候補したのは三七都道府県一〇七選挙区で、三六％。女性候補ゼロは、岩手・山形・福島・富山・石川・和歌山・鳥取・島根・愛媛・熊本と一〇県にも及ぶ。

女性議員増は、「刺客」として党を挙げて支援した自民党の新人候補増が大きな要因で、前回の選挙で女性当選者の四割を占めた民主党は半減。公・共は前回と同数だったが、社民党は土井前党首が比例区を新人に譲って落選。「憲法を問う選挙」で、護憲の象徴が消えた。政党別の、男性議員に対する女性議員数は、今回激増した自民党でも八％、民主は六％、女性議員はまだ男性の一割にも満たない。

第三次小泉政権内閣に女性閣僚は二人だけ

第一次組閣では五人の女性を閣僚にし、女性登用をアピールした小泉さん。その後、四人、三人、二人に減った。今回の第三次内閣では、新設の男女共同参画相に猪口邦子さんを任命、小池環境相は留任したが、国会答弁で失笑を買った南野法相を男性に変え、女性閣僚は自民の二名のみ。ただし大臣政務官には内閣府「山谷えり子、総務「上川陽子と古屋範子、文部科学「有村治子、経済産業「片山さつき」の六女性を登用。留任の西川京子（厚生労働）氏と合わせ、史上最多の七人に。古屋さん（公明）以外は、全員自民党。

突然生まれた男女共同参画大臣

小泉選挙大勝利のポイントの一つは、魅力的な女性候補を数多く立てたことだが、その目玉の一つとして生まれた猪口邦子少子化男女共同参画大臣。女性たちは長い間、「諸外国なみに女性省設立を」と要求してきたが、猪口さんの所属する省の名は？ 大臣の名称や数が、首相の一存で決まるとは？ 等々、疑問の声が……。

小泉解散は憲法違反？

優勢民営化法案が否決されたのに抵抗、国会を解散して強行した9・11選挙。現憲法では代議制民主主義。「国会の判断が正しいか、国民の判断が正しいか」と、国会決議を無視して解散したのは憲法違反では？ との声が起きている。圧勝した現政権、もとより聞く耳は持たず。

〈連合〉会長選挙に初の女性候補

連合（日本労働組合総連合会）の会長選挙に、パートや派遣労働者の組合、全国コミュニティ・ユニオン連合会の会長、鴨 桃代さん（五七）が立候補。UIゼンセン同盟の高木副会長を相手に、四七二票中、一〇七票を獲得。その善戦に、労働者もマス・メディアもビックリ。

鴨さんが訴えたのは、①会長選の互選の不透明性への疑問、②非正規労働者の組織化と均等待遇の実現、③憲法九条改悪を計る小泉政権との対峙、の三つ。「地盤を固めれば次の選挙には勝利も不可能ではない」という声も、出始めた。

国際的に注目された日本の女性経済人

米国の経済誌「フォーチュン」は、米国以外で活躍する「最強の女性」二〇〇五年版を発表したが、五位に三洋電機の野中ともよ会長兼CEO、一〇位にグアイーの林文子会長兼CEOが選ばれた。野中氏の就任は問題視されていただけに、日本の財界は微妙な反応。

〈連合大阪〉に初の女性事務局長

〈連合大阪〉は、一〇月二八日、大阪市で開かれた定期大会で、事務局長に脇本ちよみ副事務局長を選出した。

女性の事務局長は、一六年前の〈連合〉発足以来、初めて。

ドイツに初の女性首相

ドイツ連邦議会は一一月二三日、アンゲラ・メルケルCDU党首（五一）を首相に選出。ドイツ初の女性首相が誕生した。メルケル首相はハンブルグ生まれ。幼時、旧東独に移住、物理学者として著名になったが、八九年のベルリ

ンの壁崩壊を契機に政界に転じ、九一年、コール政権下の青年婦人相となり、その後、CDU（キリスト教民主同盟）初の女性党首となったことで、首相の地位を得た。

一・六倍にふえた男性育休取得国家公務員

人事院が九月二日発表した〇四年度一般職国家公務員の育児休業実態調査結果によると、女性四八〇〇人（六四人増）男性一二二人（四七人増）で、男性は前年比一・六倍。初めて一〇〇人を超えた。しかし対象者の取得率は女性九二・五％（前年九二・二％）、男性は〇・九％（前年〇・五％）で、男性の取得率は百人に一人にもならないとは！

厚労省、均等法改正原案を提出

女性たちが厚生省と激しく渡り合って八五年に制定された男女雇用機会均等法は制定後二〇年。九七年に一部改正されたものの、改訂後も一〇年近く経ち、問題点は多く残ったまま。〇六年の通常国会に改正案提出が予定されているが、内容は間接差別禁止が焦点。「身長・体重」「コース

別人事」などをできるだけ限定して募集したい企業に対し、労働者側は「具体例は避け、パートと正社員の賃金・福利厚生格差の是正を確保しよう」と反発。厚労省は、十一月一八日、均等法改正に向けた叩き台（一男女双方に対する差別の禁止 2 妊娠・出産等を理由とする不利益取扱いの禁止 3 女性の坑内労働についての規制緩和など）を、労働政策審議会雇用均等分科会に提出した。

労使の争点になっている間接差別については、「募集・採用における身長・体重・体力要件」「コース別雇用管理制度における総合職の募集・採用における全国転勤要件」「昇進における転勤経験条件」の三点を例示して、対象基準を明確化することを提案した。

日弁連、厚労省提案に反発

日弁連は十一月一九日、東京弁護士会館の「なくそう！間接差別 生かそう！ ポジティブアクション」集会で、厚労省案を批判、「国会に改正案が上程されれば、自民が絶対多数で修正は困難」と、反対運動の盛り上がり期待。会場からも、「間接差別を具体的に列挙すると、それ以外

の制限を容認することになる」との声があがった。

厚生省、雇用機会均等法改正案をまとめる

厚生省・労働対策審議会は、十二月二十七日、間接差別＝妊娠・出産差別、解雇・セクハラ・ポジティブアクション、女性の坑内労働などについて建議をまとめた。最も紛糾した「間接差別」については、「募集・採用における身長・体重・体力要件」「コース別雇用管理別制度における総合職の全国転勤要件」「昇進における転勤経験要件」をまとめ、今国会に提出するが、「規定以外の間接差別が、事実上容認されることになる」と、多くの女性が懸念。

WHOが世界一〇か国のDV調査結果を発表

WHO（世界保険機構）は、日本・ペルー・サモアなど、世界一〇か国の女性二万四千人のドメスティック・バイオレンス面接調査の結果を発表した。被害の割合が高いのはエチオピア（七十一％）、バングラデシュ（五三％）、ペルー（五一％）、サモア（四六％）など開発途上国。

日本では、横浜市の一八―四九歳の女性一三七一人に面接した。

調査結果は、夫や恋人から肉体的または性的暴力を受けたことがあるのは一五％で、最も少なかったが、被害者の三人に一人が自殺を考えたなど、DVによる傷の深さでは世界各国の中でも最も深刻。「DVに関する社会的認識が低く、被害者の状況が正しく認識されていないのでは」と、問われている。

日の丸・君が代裁判不起訴決定に、

告訴・告発人が控訴請求

「日の丸・君が代強制は、公務員職権乱用」と、石原都知事、横山教育長（現副知事）を訴えた裁判に、東京地検は不起訴を決定。暮れも押し迫った十二月二十八日、告訴・告発人に通知した。

控訴審の請求は七日以内に限られているため、年末年始を狙った策略と思われるが、後藤昌次郎弁護士はじめ三八七人の告訴・告発人は、状況にいち早く対応、一月五日「裁判請求」を行なった。

意味があるのか国勢調査

十月一日、五年に一度の国勢調査。費用六四九億円。職業・教育・居住状況までの全数調査は必要か。調査員自身からも「この調査に大きな疑問を抱いた」という声が続々。

解雇は有効、国労差別は不当行為

——鉄建公団訴訟に東京地裁判決

一九九〇年、国鉄清算事業団を解雇された国労組合員と遺族二九七人による解雇無効を求める裁判は、九月一五日、東京地裁で国鉄の国労差別を初めて認め、「八七年の国鉄の分割・民営化の際、原告をJRの採用者名簿に載せなかったのは国労差別による不当行為」と認定。五人を除く原告二九二人に、「既得権侵害」の慰謝料として、一人あたり五〇〇万円（総額一四億一五〇〇万円）の支払を命じた。原告団は控訴した。

どこまで増えるかアスベスト被害者

一九七二年にWHO（世界保健機構）が発がん性を指摘

したのに、放置し続けた日本。アスベスト工場で働いていた工員の妻も、多くが発病。その原因は、「帰宅した夫の服の埃を払ったため」とは。この三〇年間、一貫して政権を握ってきた自民党は、どんな責任をとるのか。

「首相の靖国参拝は違憲」

台湾原住民、大阪高裁で勝訴

首相の靖国参拝を違憲とし、「祖先の靈魂は身近に祀る習わしがある」として、日本国を訴えていた親や兄を靖国神社に祀られた台湾原住民一八八人による「靖国合祀取下げ訴訟」に、十月三〇日、大阪高裁は、「首相の二度にわたる靖国参拝で、国は靖国神社と特別の関わりを持った。特定の宗教を援助・助長することは、憲法が禁止する宗教活動にあたる」と「首相の靖国神社参拝は違憲」の判断を初めて示した。

その一方、「原告らの信教の自由などを根拠とする権利・利益については、参拝による強制や干渉・権利の侵害にあつたとは求められない」とし、「首相の参拝によって精神的苦痛を受けた」とする一人一万円の損害賠償は認めなかった。

乳ガン啓発にピンクリボンウォーク

「早期発見こそ乳がん死をなくす道」と、乳がんに取り組んでいる「ピンクリボン・スマイル・ウォーク」早期発見の啓発は、がん月間の十月十二、十三日、東京六本木ヒルズから赤坂・日比谷を回ってPR。

ブッシュ大統領来日に女たちも抗議

十月十七日のブッシュ来日に、〈NOレイプNOベース 女たちの会〉〈アジアンスパーク〉など多くの女性が抗議パレードしたが、かつてのレーガン来日拒否などには遠く及ばず。

第一回平塚らいてう賞に

人身売買禁止ネットワーク

「らいてうの平和・女性解放の意志を継いで活動している人や団体」と創設された平塚らいてう賞。第一回は〈人身売買基金禁止ネットワーク〉（代表・戒能民江さんほか）に。特別賞は〈らいてう研究会〉（代表・折井美耶子さん）

奨励賞は丸浜江里子さん（明治大学院生）と大島香織さん（日本女子大院生）に、それぞれ決定。

山川菊栄賞は 森ます美さんに

山川菊栄記念婦人問題奨励金は、森ます美さん（昭和女子大教授）の「日本の性差別賃金と同一価値労働同一賃金原則」に決定。

第一回「松井やより賞」に

ネパールの女性ジャーナリスト

やよりさんの意志を継いで〈女たちの戦争と平和人権基金〉が贈る「女性人権活動奨励賞」松井やより賞」の第一回は、ネパールのフォトジャーナリスト、ウシャ・ティティクシュさんに決定。一二月一日、東京・早稲田泰仕園で贈呈式が行われた。

この賞の受賞基準は「社会的弱者とされている人たちのために草の根で活動を続ける女性アクティビスト、ジャーナリスト、アーティスト、特に若い方」。

第一回受賞のウシャさんは、○四年二月、絶対王政が敷かれたネパールで、「民主化が実現するまでは髪を伸ばさない」と尼僧のように髪を剃り落とし、ネパールの現実を撮り続けて民主化運動の先頭に立っている人。やよりさんも、さぞ喜んでおられるだろう。

この賞には、アジア諸国から一三人の応募と推せんがあり、甲乙つけがたい人材揃いに選考委員会も一人を絞りこむのに苦労したが、「この上ない困難の中でがんばる人」として、過酷な状況下で身を挺して民衆に状況を伝え続けるウシャさんが選ばれたという。

ウシャさんは、皇帝が射殺されて以来争乱の国となったネパールで名前も変え、家も持たず、民主化のたたかいを撮り続けて一六年。路上に写真を並べたり紐に吊るしたりして人びとに見せている女性。「写真は正しく使えば沈黙を破る手段になる」というウシャさんの活動。やよりさんがいらしたら、例の熱弁で大PRをなさったことだろう。

また各地の活動家を取材、広く世界に紹介する女性ジャーナリストに贈られる「松井やよりジャーナリスト賞」は、日本、タイ、カンボジア等で取材し、展示会や講演会の企画コーディネーターとしても活躍中の後藤由美さんが受賞。

〈つくる会〉教科書採択で混乱

来年度から使用される中学校教科書の採択で〈つくる会〉の教科書が注目されたが、〈子どもと教科書全国ネット21〉が集約した結果では、採用は、歴史が○・三九%、公民○・二%のみ。国会は、〈つくる会〉が、一〇%を運動継続の要件としていたため、手を引くよう勧告したが、〈つくる会〉は、四年後には地理を発行予定、家庭科・国語も検討中と、強気の反論。

今回新たに採択したのは、歴史が東京都杉並区、栃木県大田原市、滋賀県中高一貫校、玉川学園、明德義塾の五校、公民は大田原市、玉川学園、明德義塾、武蔵野女子学院の四校。杉並区では、「担当教師が押ししてもいい捺印や署名が、区長名で出されたこと」に憤慨、区民の間で反対運動が続いている。

日本婦人有権者同盟設立六〇年に

敗戦直後の一九四五年八月二五日、市川房枝さんの呼びかけで立ち上げた〈戦後対策婦人委員会〉の提唱で、同年

一月三日、〈新日本婦人同盟〉が誕生。後に〈日本婦人有権者同盟〉となったのを記念、〇五年一月三日、創立六〇年の記念式を行なった。

指導的地位の女性を三〇%に

政府第二次基本計画決定

「審議会の女性委員三割」を達成した政府は、十二月二七日の閣議で第二次男女共同参画基本計画を発表。

「二〇二〇年までに社会のあらゆる分野で指導的地位の女性が三〇%以上を占めるために、女性の国家公務員の採用と登用、転職拡大や能力開発を促進する。一方、教育・研究機関、各種団体へも、正社員雇用の促進、男女の均等な機会と待遇の確保など、ポジティブアクションの奨励を行うとともに、起業・在宅ワークなどの就業環境の整備も新規に盛り込む」と発表した。

「衛隊官舎でピラ」事件、逆転有罪

立川市の防衛庁官舎でイラク派兵反対のピラを撒いたと

して住居侵入罪で逮捕された市民三人、東京地裁では無罪の判決だったが、十二月九日、東京高裁で逆転、有罪に。「表現の自由は尊重されるべきとしても、他人の権利を侵害してよいことにはならない」として、大西被告には十万円、高田、大洞被告にはそれぞれ二十万円の罰金が言い渡された。三人は上告した。

完成近づく「らいてうの家」

平塚らいてうさんのご遺族から寄贈された長野県あずまや高原の山林に「気持ちのよい自由と休息の場」らいてうの家を」という運動は、現地、真田町も大歓迎。地元的女性建築士九人の共同設計で、〇五年六月着工、八月上棟式を終え、〇六年五月二八日オープンを目指して、着々工事が進んでいる。

床も壁も、全部地元の落葉松、天井は杉。屋根裏部屋のあある五四坪の平屋は切妻型の大屋根が見事、と評判。

玄関ドアには「青踏」創刊号の高村智恵子の表紙絵、図書室ドアには尾竹紅吉の壺の絵がガラス彫りでなど、趣向を凝らし、完成が待たれているが、資金がまだ不足。引き

続き募金が続けられている。

送付先は、郵便振替 00150—9—553046

NPO・平塚らいてうの会

高良留美子さんの「女性文化賞」は李修京さんに

九七年に創設された高良さんの「女性文化賞」は、「女性の文化創造者」への賞だが、〇五年で九回目。日韓の歴史と文化の研究者、李修京（イ・スギョン）さんが受賞した。李さんは、一九六六年ソウル生まれ。立命館大学大学院社会学研究科博士課程修了。山口県立大学助教授を経て、東京学芸大学人文社会科学系助教授（国際人権教育担当）。

上野千鶴子さんを東京都教育庁がバッッシング

東京国分寺市が、上野千鶴子さんを「人権に関する講座」に招こうとしたところ、都教育庁から、「上野さんは女性学の権威。ジェンダーフリーに触れる可能性があり、都の委託事業の講師には認められない」と横槍が入った。

上野さんは、「『ジェンダーフリー』という言葉は、学

問的見地から使っていない。『女性学の権威だから』が理由とすると、女性学を偏った学問と判定したことになる」と、一月一三日、都知事と都教委に中止の理由を問う公開質問状を提出。

また、一〇〇〇名以上の女性が、「上野バッッシングを問う」公開質問状を緊急提出した。

〈あごろ〉では、次号305号で、「ジェンダーバッッシング」特集を組む。

惜別

影山祐子さん 九月一三日、七三歳で。女性国家公務員の草分けとして局長、経済調査役などを歴任、女性の能力活用PRの先頭に立ち、国内外の（BPW）（有職婦人クラブ）でも活躍、その迫力のスピーチは「日本のベティ・フリーダン」とも言われた。

和田典子さん 〈家庭科の男女共修をすすめる会〉の世話人、また〈家庭科教育研究者連盟〉の会長として、二十数年運動の中心で活躍を続けられたが、〇五年九月三〇日、旅立たれた。

会と催し



日本軍はグアム原住民に何をしたか

日本オーラル・ヒストリー第三回大会

日本オーラル・ヒストリー学会の第三回大会が九月一七一八日、京都大学で開催された。その英語部会に今年一人の海外からの参加者があった。グアムで「アーリー・ライブ」という人気ラジオ番組を担当するジャーナリストのアーリーン・サントス・ステフィさん。数年前にグアム文化庁からの補助金を得て、「一九四一年二月の真珠湾攻撃と時を同じくした日本軍のグアム島襲撃・占領から、一九四四年七月の米軍による〈解放〉までの日本占領下での、グアムのチェモロ族の人びとの記憶の聞き取り」に情熱を傾けている人。

島の中央部に位置するヨナのマネンゴン強制収容所への日本軍による強制行進を強いられたチャモロの人びとの聞き取りで集められた五二人の証言の中から、京都では五人

の証言を編集した三〇分のビデオドキュメンタリーが発表されたが、ある女性性は、グアム陥落直前の一九四四年七月一二日から二一日にかけて実行された強制移動のことを、当時少女だった自分の記憶として、「私たちは即座に家を出るように命令され、祖母と母は宝石を持ち、私と弟には一番上等な洋服、靴、それにきれいな毛布を持たせました。どうしてこれを持っていくの、と聞くと、途中で死んだ時に美しいものを着せて、きれいな毛布にくるんで葬るためよ、と言われました」と語った。

ステフィさんは、「五十二人の証言の中には、その混乱の中での強姦や処刑の話もあったが、強姦に関しては戦後六〇年を経た今でも、女性たちは映像と音声として残すことを拒む」と語った。

証言は、収容所跡地に建設された記念館内に残されるが、「この記録をなんとしてでも未来に残したい、そして日本で紹介しなければ」という使命感が、今回の彼女の来日と発表になったという。彼女のライフワークとなるこの記録

を、より多くの日本人に知ってもらいたいと切望する。

(吉田かよ子)

改憲阻止の「怒りの大集会」に

一〇八〇人が参加

先の総選挙での「圧勝」におごり高ぶる小泉政権の暴走に危機感を抱く労働者・市民・学生ら一〇八〇名が参加して、十月十日に東京・九段会館で「憲法改悪阻止―イラク占領反対! 10・10怒りの大集会」が開かれた。

この集会は、元日弁連会長の土屋公献氏や崔善愛さん(ピアニスト)ら九名が発起人となり、斎藤千代さん(あごら事務局)ら一三〇人の呼びかけ人と、一八九の個人・団体の賛同のもとに開催された。

土屋氏の主催者あいさつのあと、小田中聰樹氏(専修大学教授)が「改憲に抗して」と題する基調講演で自民党新憲法草案の問題性を指摘し、「平和・人権・民主主義・福祉を一体のものとして憲法を守りましょう」と呼びかけ、つづいて憲法改悪に反対する労働組合の方が次々に登壇し「改憲反対」「平和を守ろう」と力強く発言した。

平田伊都子さん(ジャーナリスト)は、米軍が昨秋イラクのフールジャで強行した大虐殺の、なまなましい映像(火炎放射器を使って市民を焼き殺した)を紹介し、今日このときにも「テロリスト掃討作戦」の名目で無辜の市民がたくさん虐殺されていることを告発し、参加者に強い衝撃をあたえた。

リレー発言では、郵政職場や教育現場で、また大学で、小泉政権がこの四年間にもたらした暗黒と悲惨の現実がリアルにあばかれ、これに反対する地道なとりくみが紹介された。

アニメーション映画監督の高畑勲氏は、今は映画などで「愛と感動を売り物にする娯楽が流行している」が、昔は「現実を写し考えることができる」ものが多かった、もっぱら感動だけを与え、考えない人を育てるこうした風潮が、「集団主義で違う意見を排除する」日本人の、危険な民族性を呼び起こしていることを指摘して、憲法九条の改悪を止めようと訴えた。

最後に、森井 眞氏(元明治学院大学学長)が、みずからの戦争体験を涙ながらに紹介し、「歴史は繰り返すと言われるが、あの暗黒の歴史を絶対に繰り返さないよう力を

合わせて闘ってまいりましょう」と力強く呼びかけ、会場は割れるような拍手に包まれた。

集会では、学生たちの「小泉の暴走を止めるー」と題したサビのきいた寸劇が共感の怒りと笑いを誘い、また休憩時間のロビーでは、池田龍雄氏（画家〈九条の会〉呼びかけ人）の絵画（「場の位相―亀裂」）や、橋本勝氏（イラストレーター）のイラスト展示と絵本（「戦争のない世界をつくれるヨ」）の読み聞かせに、大勢の人が熱心に見入り聞き入った。

参加者からは、「大変な時期にこんなに充実した会をもつてくださって心から感謝します。どなたもわかりよいお話で、大変勉強になりました」（八十二歳、戦争中に小学校教師をされていた女性）、「ごあいさつも、講演も、メッセージも、すべて共感し、はげまされました。要点をメモさせていただき、小さなサークルですが、仲間に伝えたいと思います」（社会人、男性）、「戦前体制への逆行を許すな!! 憲法改悪絶対反対!!」（大学一年生、女性）といった感想や意見などがたくさん寄せられた。

集会は、発言者と参加者の熱意で、「小泉政権の暗黒政治を許さない意志」を表明すると同時に、「憲法改悪を阻

止する共同の輪を大きく広げること」を展望した、実り豊かなものとなった。
(西野健一)

均等法の抜本改正を求めて

二〇〇五年度連合中央女性集会

一〇月二七日、「間接差別の禁止などを盛りこんだ男女雇用平等法をつくろうー」をメインテーマに日比谷公会堂で開催。

女性労働の実績報告ののち、中島通子さん、奥山明良成城大学教授らによるパネル討論で、間接差別や妊娠・出産による不利益取扱いの禁止などをめぐって、活発な意見が続出、雇用機会均等法の抜本改正などをめぐるアピールで締めくくった。

均等法改正は、女性労働の根幹。各地でも集会が相次いでいる。
(佐藤英子)

全労連系も「第五〇回はたらく女性の中央集会」

連合の女性集会に続き、十一月一九日、二〇日両日にわ

たり、金労連系も「ひろげよう　くらしと平和を守る女性の力を　つくるう　人間らしくはたらくルールを」をテーマに、「第五〇回はたらく女性の中央集会」を東京・千代田区の日本教育会館ほかで開催、一、一〇〇人が参加した。

記録映画監督の海南友子さんは『にがい海の大地から』のダイジェスト版を使って日本が中国に遺棄した化学兵器の恐ろしさを、弁護士の中久保秀樹さんは、日本の労働環境を国際水準にすることをそれぞれ訴え、農業や福祉現場などで、地を這う思いで働き続けている女性たちも、それぞれの苦境を告白。底辺女性の人権が守られてこそ、平和日本が守られる」ことを確認した。

(小沢道子)

災害と女性を考える集い

阪神大震災から一〇年の二〇〇五年は、「災害」が改めて問われた年だったが、〇五年も暮れようとする一二月三日、ヘイメンスネットこうべの主催で、神戸市のへあすてつぷKOBÉに全国から約百人が参加、「災害と女性」を改めてただした。

〇四年のスマトラ沖地震を取材したスリランカのスペッ

ドリニ・カクチさんは、「女性は泳ぎ方を教わっていないかったので溺死者を多く出した」と発表、〈性を語る会〉の北沢杏子さんは、阪神大地震の際の被災女性やボランティアへのレイプ、避難所での幼児への性的虐待を報告。主催側の、「防災や防犯対策に、女性の人権という視点を」という、一〇年前の体験に立つ提言で締めくくった。

(長野　操)

北京十10　女性の人権の確立と脱軍事化・脱暴力

北京JAC二〇周年シンポジウム

北京会議を契機に結成された〈北京JAC〉の結成には〈あごら〉のメンバーも多数関わったが、はや十年。一月一二日―一三日、嵐山の〈ヌエック〉で、一〇周年記念全国シンポジウムがひらかれた。

一日目。内閣府男女共同参画局推進課長、定塚由美子さんのあいさつに続き、JAC事務局長、永井よし子さんが、「政府と緊張ある協調関係を保ちながら提案型の対等なNGOを目指してきた」ことを評価。

続いて特別講演で、韓国女性団体連合共同代表の鄭絃柏

と思った。

(山口治子)

さんが、「韓国には女性省も出来、女性発展基本法により、女性政策調整会議が新設され、家庭内暴力禁止法、性暴力禁止法、性売買禁止法の三大女性関係法が制定され、国会議員の女性比率も一三％に達した」と発表。大きな拍手を受けたが、「一方、貧困の女性化、パートタイマーの増大が進み、女性たちが妊娠ストライキ。その結果、出生率は日本より低い1.16」と現状を報告した。

七〇年代以来、日本の女性たちは、日本男性の買春ツアーや、戦時下「慰安婦」問題等で、韓国の女性たちと長年共闘してきたが、韓国の女性たちの強さと感性に、いつもいつも感動してきたことを、改めて想いだした。

二日目には、「(脱軍事化) (脱暴力)」を中心に、三三のワークショップが開かれ、「ジェンダーフリー攻撃に対抗して連帯する」決議を採択。盛会裡に閉会した。

一月二五日の国際婦人年連絡会結成三〇周年、NGO日本女性大会も盛会だったが、以前は毎年全国会議を開いていた〈あごら〉は、近年は、二五周年、三〇周年など、五年ごとになっている。女性団体の中で〈しにせ〉になる一方、往年の活力はすこし沈滞している。二〇〇七年の三五周年には、何か〈あごら〉らしい趣向をこらしたい、

「にんげんをかえせ」

横井久美子 歌手三五周年コンサート

昨年、歌手生活三五周年を迎え、ベトナムを含む全国ツアー・コンサートを成功させたシンガー・ソング・ライター横井久美子さん〈あごらメイト〉が、一月二〇日に「人類は二度と戦争をするな」というメッセージ・ライブを「よみうりホール」で開きました。副題は、「映像と証言と歌による告発、今——ヒロシマ、ナガサキ、ベトナム」。

当日新聞で知った、と駆けつけた方もあり、全席満員。知り合いの弁護士さんが、「この内容で五百人も集まればいいほう」とおっしゃっていました。私が着いた時には開場を待つ人、人、人で、長い列が続いていました。

横井さんの歌を軸にして、プログラムは進みました。

先ず一六歳で被爆した長崎原爆被災者協議会副会長の谷口稜(はらみ)さんの訴え「私は忘却を恐れます」を、横井さんによるインタビュ形式で聴きました。

谷口さんは被爆後六〇年たった今もなお、背中から赤い

液体が出ているという、信じられないような体をいたわりながら全国で講演もこなされている方。八月に『赤い背中』というNHKの特別番組に出演され、視聴者の反響があまりに大きくて再放送を二度もしたそうです。その谷口さん本人のお話が聞けるとのこと、当日のチケットの申込みが殺到したと聞きました。

続いて今なお原爆やベトナム戦争の枯れ葉剤等の被害が続く実態を写真報道家の中村悟郎さんが写真をスクリーンに映しながら報告、講演されました。化学兵器問題という、やや重い実態が中村さんの話術でユーモアも交えて明るく報告されましたが、戦争の恐ろしさを改めて実感させられました。私の周囲には涙を拭い、ため息をつき、熱心に聴きいつている方がたの表情が印象的でした。映像とお二人の貴重な報告により、多くの問題を勉強させて頂きました。

また横井久美子さんの、心に沁み入る数かずの歌と独特のトークに元氣と希望をもらいました。常に平和を訴え続けている横井さんの姿勢は皆さんご存じですが、原爆症の認定を求める被爆者の方たちの支援にも、ずっと力を入れてこられ、それらの目立たない活動が評価され、スイスの「ノーベル平和賞を女性に贈る委員会」から候補者の一人

として推薦されたそうです。この被爆六〇周年の意義を深く心に留めた横井さんは、原爆詩人、峠 三吉の「にんげんをかえせ」の詩にメロディをアレンジして歌を創り、そのCDがすでに初版の五千枚を突破、第二弾が先日完成した、と伺いました。

にんげんをかえせ（序より）の歌詞をご紹介します。まず。

ちちをかえせ ははをかえせ

としよりをかえせ

こどもをかえせ

わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ

にんげんの にんげんのよあるかぎり

くずれぬへいわを

へいわをかえせ

（藤沢貞子）

日本中近東アフリカ婦人会 第一三回チャリティバザー

一月二一日（月）、東京・水天宮のロイヤルパークホ

テルで、日本中近東アフリカ婦人会主催の第一三回チャリテイバザーが開催された。これはアラブアフリカの婦人や子どもたちへの支援のためのバザーで、隔年の開催である。会員による手作りコーナーや企業の寄付、各国の民芸品、手作りケーキコーナー、掘り出し物、くじ引きなどのほか、毎回、在日の大使館がクラフトや料理のブースを担当する。今回は三三か国と、今までで最多の参加国を数え、当日は大盛況。来場者は約二二〇〇人強となり、午前十一時の開場までに長い列ができ、午後三時の終了時にもまだ、かなりの人数が会場に残っていたほどだった。

入場券は二〇〇〇円。チャリテイバザーにしては高いという声もきくが、「チャリテイバザーはセールではない」というのが重光綾子名誉会長の考え方である。チケットを買うことが、そのままアラブアフリカの支援につながるということを説明して会員は切符を売っている。リピーターが多いが、もの珍しさから来る人も多く、売れ行きはなかなか好調。この切符の売り上げと当日の売り上げから、ホテルの室料、準備のための実費、運営費を引いたものが、アラブアフリカ諸国に贈られる。

参加国には、事前に寄付を受けたい自国の機関をリスト

アップしてもらう。地域の衛生環境の改善や女性と子どもの生活上、学校教育、職業教育のために活動している機関などが寄付の対象になる。今までの例ではだいたい二〇万円から二五万円ずつを各国に寄付している。

それ以外に日本赤十字やユニセフなどに一定額を寄付するほか、天災に見舞われた国や、国境なき医師団にも毎回寄付をしている。日本人が独力で経営しているケニアの孤児院にも定期的に寄付をし、フォスターチルドレンと、パレスチナの子どもに支援し続けている。

この会は二四年前、昭和五六年に重光名誉会長が、中近東アフリカの国々に在住経験のある、またこれらの国々に関心のある女性に声をかけ、日本で暮らしている中近東アフリカの女性たちとの友好親善を目的として、立ち上げた。会員は現在約一〇〇名。

バザー以外の日常活動も活発で、特技のある会員が講師となつて、日本語、生け花、コーラス、編物、折紙などの教室を主催するほか、日本料理の講習の場も設けている。また年に二度のアウトینگではバス旅行で日光や箱根に行くほか、国会議事堂や工場見学にも出かける。これらの機会を通して日本の良さを理解し、多くのよい思い出をも

っていただきたいというのが会員の願い。

アラブアフリカの文化紹介にも力を入れ、年に一度、日比谷公園で開かれる「アフリカンフェスタ」には毎回協力。各国の大使夫人から提供してもらったレシピをもとにして『アラブアフリカクッキング』新旧二冊も上梓した。これは料理や文化に興味のある人たちが活用しているほか、ワールドカップやスペシャルオリンピックなどでも来日したアラブアフリカ選手団の食事にもずいぶん役に立ったそうだ。

今年は念願の拠点が半蔵門にできた。澤井敏子新会長のもと、従来の活動に加え、新しい路線も加わりそうな期待。これからの会の動向が注目される。

(谷口淑子)

緊迫感の中に強まった女性の連帯

2005年NGO日本女性大会

「ジェンダー平等と平和な社会を目指す」

——国際婦人年連絡会結成三〇周年

一九七五年、初の世界女性会議がメキシコでひらかれた。この年を国連は「国際婦人年」とし、翌七六年から八五

年を「国連女性の十年」とした。日本でも、市川房枝さんたちの呼びかけで、全国組織の女性団体が集会を開き、デモ行進。〈国際婦人年連絡会〉が生まれた。

二〇〇五年はその三〇周年。一月二六日、東京・千代田公会堂に、全国組織四一女性団体を中心にNGOの活動家が集まり、朝一〇時から午後四時まで、お弁当を共にしながら、熱気あふれる六時間を過ごした。

午前の部は、連絡会世話人、杉森長子さんの挨拶に続き、来賓の猪口邦子少子化・男女共同参画担当大臣の挨拶。続いて、今春のニューヨークのCSW議長をつとめた韓国外務省国際団体局長康京和博士が、「国際社会における女性たちの責務——平和と平等社会に向けて」と題する記念講演。美しい英語で「第四回世界女性会議（北京会議）で決定した二二の重大領域（女性と貧困、教育と訓練、健康、武力紛争、経済、人権、メディア、環境、権力および意志決定における女性、女性の地位向上に、女性に対する暴力、少女の権利に対する持続的な差別および侵害）で、すべての利害関係者が、完全かつ迅速に改革改善を実施するよう、新たな政治的意思が必要である」と訴え、国際舞台での韓国女性の活躍ぶりも示唆した。

終わって、「メキシコ会議以来三〇年の女性の歩み」を映像で訴え、コーラスで締めくくった。

午後は、フォーラム「男女共同参画社会を創る」。国際婦人年連絡会世話人、平松昌子さんのコーディネートで、早稲田大学社会学部教授の大森真紀さんが、労働・両立・多様化を、東京女子大名誉教授の松村安子さんが、経済—ジェンダー予算について、それぞれ豊富な資料に基づいた説得力のある報告をしたのち、樋口恵子さんが、専門の福祉—少子・高齢社会を、ユーマアたっぷりに解説。「いま政府や自治体の予算が、ジェンダーの視点からみて、社会にとって有効に使われているのか。女性高齢者の年金は、女性の賃金が男性の半分だった状況時を反映して男の半分。女性の六割以上が年収一〇〇万円以下。このまま男女平等のシステムが実現されず、少子高齢化が進行すれば、数十年先には大量の〈貧しいおばあさん〉が出現する」と鋭い指摘。すべての女性がジェンダーを我が身のこととして受けとめる必要性を、改めて痛感した。

最後に、〈連絡会〉傘下四一団体が、それぞれの団体名のプラカードを高く掲げて壇上いっばいに並び、甲斐和子地婦連常任理事が未来へ向けての宣言を読み上げた。

会場には、〈連絡会〉加盟団体以外の団体に所属している人や、団体とは無縁の、志ある女性たちもつめかけ、熱気あふれる集会になった。何か月もかけて衆知を集めて実現した大会だけに、ひととき嬉しかった。(佐藤英子)

反公害から「慰安婦」まで

——松井やよりさん全仕事展

東京西早稲田の「アクティブ・ミュージアム 女たちの戦争と平和資料館」で、この会館の建設を遺言とした、松井やよりさんの「全仕事展」を十二月から開催している。小学校時代の冬休みの絵日記に始まり、両親の学生結婚、中国に出征したお父さんから聞いた、日本軍の残虐行為の話、そして朝日新聞時代の取材記事が、壁いっばいに貼られている。

「未婚の母働く母差別」K子さん事件、売春観光反対運動、燃えるウーマンリブ活動、そして、やよりさんが最も心血を注いだ「慰安婦」問題まで、取材記事の切り抜きの一つ一つに、当時の女性たちの運動や、松井さんの奮闘ぶりを思い出す人も多いだろう。

女性記者差別の中で、せっかく朝日に入りながら中途退社する人が多かった時代。やよりさんは「朝日で定年まで勤めた女性記者第一号」という。当時のほかの女性の職場に比べれば、女性が優遇されていた朝日新聞ではあるが、松井さんが第一号だったとは。もともとと生きて、大先輩としても活躍し続けてほしかったと、改めて思った。

この「全仕事展」は、四月二十三日まで。毎週水曜日、一三時～一八時（金曜日は二〇時まで）開館。休館は月・火・祝日。入館料は五〇〇円（十八歳以上）地下鉄東西線早稲田駅から徒歩五分。問合わせは〇三―三二〇二―四六三三八。（佐伯良子）

教育基本法・憲法の改悪をとめよう！

12・3全国集会

寒風のなかの野外集会というのに、日比谷野外音楽堂は時間前から満席。教育基本法と憲法という、日本の民主主義の根幹を揺るがそうとする改悪の動きに、居ても立ってもおられない三五〇〇名が、全国から駆けつけた。

冒頭、「いまソウルから駆けつけた」という（教育基本

法の改悪をとめよう！ 全国連絡会）の呼びかけ人、小森陽

一東大教授が、「私の話を聞いたことのある方、手を挙げて」とたずねると、三分の二以上の手が上がった。「いま手を挙げた方、次の集会には、こういう集会に出たことのない方を連れてきて下さい」と、きっぱり伝えて本題に入る。

「ソウルでは昨日、〈韓国連帯21〉の集会が行われ、日本からは従軍慰安婦女性基金の呼びかけ人、和田春樹さんのほか上野千鶴子さんも出席。韓国側の挺隊協の方や、元「慰安婦」のハルモニと徹底的に討論できた。「市民レベルの運動は、お互いに状況をどう変えればよいか。そのためにどう力を合わせればよいか」を、違いや対立を乗り越え、時には声を荒げながらの徹底した対話を通じて、国境を越えて市民運動が鍛えられていくことを実感した。

私が属している種々ホモ・サビエンスを、私は「言葉操る生物としての人間」と呼んでいる。フッシュやブレアや小泉首相は、「言葉を操る生物としての人間」から、「言葉で考える力」を徹底してつぶし、奪おうとしている。それがくつきり表れたのが、9・11小泉劇場選挙だ。そのPRを担当した参議院議員が「人間の意識をマスメディアでマインドコントロールした」と、『論座』で自慢げに語り、

しかも、「今回の選挙は学歴の低い人たちをターゲットにした」と、小泉政権の愚民政策を評価している。

言葉の中身を全部切り捨てて、「改革を止めるな」というイメージだけをテレビで垂れ流し、投票行動に結びつけることに成功したのが、9・11選挙だった。

しかし、「改革」とは何か。小泉構造改革は、「社会構造、社会保障、医療、教育、保育の切り捨て、アメリカの言うなりに軍事協力を惜しまないこと」なのに「郵政民営化、イエスカノーカ」という単純な二者択一にすりかえた。

「改革」という言葉には、一二年前、一九九三年の記憶が多くの人に意識しないまま貼りついている。「政治改革をやる」と言いながらやらなかった宮沢政権を倒し、初めて自民党の単独政権ではない細川内閣が誕生したが、そのとき問題になっていたのが「従軍慰安婦問題」だったというのを、改めてしっかり思い起こしたい。

宮沢政権は、「従軍慰安婦の強制連行」を事実として認め、細川内閣は、日本の首相として初めて侵略戦争を認め、「従軍慰安婦」や労働者の強制連行を謝罪した。これ以降、歴史認識は政治の問題になり、「言葉を操る生物」としての人間の新しい方向性も示すことになった。

社会の中で、最も抑圧され、言葉を奪われ、差別されてきた女性たちが、生涯の心の傷となった屈辱的な記憶を思い起こし、それを証言することによって、それまで国家が占有していた歴史叙述、教科書の中に、自分たちの存在を書き込ませた。それに恐れおののいたのが、野党に転落した自民党、とくにタカ派だった。以来「従軍慰安婦」を語る先生に「偏向教育」のレッテルを貼り、あらゆる攻撃をかけて徹底的に排除する大逆襲が始まった。

拉致家族問題を通して多くの人たちに、自分たちの加害を忘れさせ、「日本人は被害者」だとの大宣伝を行い、内側の社会矛盾に目を向けさせないようにしてきた。

《改革》という言葉には、自民党を引きずり降ろした細川政権の記憶がある。それを惹起させて、《心のノート》で使った意識と無意識の間の洗脳を、今テレビを使ってやり続けている。私たちは《言葉を操る人間としての尊厳を、今こそ守っていききたい。起こっている出来事の結果だけを見るのではなく、言葉で「なぜ」と考えて、ひとつひとつその理由と責任を問いただしたい。

いま「教育基本法と憲法は一体のもの」として改悪されようとしている。変えてトクするのは誰か。「私たちの税

金と国民の命を使って世界戦略としての戦争をやるうとしている国」にとつて好都合なだけだ。

「人を殺す」ことは、人間として最もやつてはいけないこと。自衛、軍を持つのは、国家の名で殺人を正当化すること。そのような国になった瞬間、教育の現場は、〈国家のための殺人は正しい〉と教え込み、洗脳する場に、変えられてしまう。そんなことは、〈言葉を操る生き物としての人間〉の名で絶対に許せないという決意を固めよう。そして今日の集会を皆さんの手で成功させよう」と、力強く問いかけ、万雷の拍手を受けた。

続いて、〈公務員は悪くない！全国連絡会〉の呼びかけ人、松山大学の大内裕和氏は、「再日米軍の再編・強化と憲法九条改革は、日本を〈戦争する国〉へ変えようとする企て。教育基本法の改革は、これと一体。愛国心の強制で国家への犠牲を正当化し、自衛〈軍〉に進んで参加する「国民」を育成しようとしている」と、まず、今の状況を指摘。

「教育基本法の改悪は、〈国家中心〉の新秩序をつくりあげる事が目的。自民党の新憲法草案の前文に〈帰属する国〉への愛情を明記し、第二二条で〈国民の責務〉が定められていることは、両方の関係を明らかにしている。この

中で、小泉構造改革Ⅱ（新自由主義）による労働者への攻撃が激化、中でも公務員がターゲットになっている。その真の目的は、反戦平和運動を展開してきた官公労、日教組・自治労解体が狙いだ。

〈新自由主義〉は、社会のすべての領域に市場原理を導入する。そのキーワードは民営化（Privatization）Ⅱより正確に言えば〈私有化〉。これにより、私企業の自由が拡大、資本による搾取の拡大で、社会の二極化は急速に進む。

これを阻止するためには教育基本法改悪阻止の先頭に立つ。公務員の公は、英語で言えばpublicだが、教育基本法が改悪されれば、publicはpeopleとのつながりを失い、公務員は国家の手先となる。教育基本法・憲法改悪の闘いは公務員の権利の闘いであると同時に、市民の権利を守る闘いである。自らその先頭に立つことによって、住民・市民との連帯が生まれ、政府ブルカスコミの激しい公務員バッシング、分断支配を乗り越えられる。この闘いで重要なのは、二〇年前からの国鉄労働者の闘いである。九月一日、東京地裁は不当労働行為を明らかにする一方、「解雇は有効」とした。一〇月二四日から原

告団は鉄建公団前で座り込みを続けているが、労働者・市民、学生との新たな連帯を築き、教育基本法と憲法の改悪を阻止し、日本の《戦争国家化》を何としても阻止しよう」と、これも心に深く響くお話。

さらに、このお二人に続く全国からのアピールは、寒風のなか、身じろぎもなかった大衆の熱気を津波のように伝えた。攻撃に立ち向かう勇気を与えたすばらしい集会だった。

(横川京子)

第十一回平和・協同ジャーナリスト基金賞を 沖縄タイムスなど七団体と二個人に贈呈

平和・協同ジャーナリスト基金は、二〇〇五年十二月九日、東京・新宿区の日本青年館で第十一回平和・協同ジャーナリスト基金賞の贈呈式を行なった。

平和・協同ジャーナリスト基金は、反核、反戦、平和、人間の協同・連帯、人権擁護などに関する報道に寄与したジャーナリストらを顕彰することを目的として、一九九五年に、報道、文化活動、市民運動などの関係者やサラリーマンら有志によって設立された。代表委員は慶應義塾大学

名誉教授・白井厚、元日本生活協同組合連合会会長・竹本成徳、東京地婦連常任参与・田中里子、元日本弁護士連合会会長・中坊公平氏ら七人。基金運営にかかる費用は、一般市民からの寄金でまかなわれている。

年に一回、「平和」に関する優れた作品を発表したジャーナリストらに基金賞を贈呈しており、今年度は二回目。六一点の応募、推薦があったが、選考の結果、次の七団体と二個人が選ばれた。

★基金賞(二点)

◇沖縄タイムス社と神奈川新聞社の共同企画「米軍再編を追う 安保の現場から」

◇毎日新聞社の「特集『戦後六十年の原点』シリーズ」

★奨励賞(六点)

◇女優・斉藤とも子さん(神奈川県)の「きのこ雲の下から明日へ」(ゆいぽおと)

◇信濃毎日新聞社報道部取材班の連載「日中を生きる」

◇フォトジャーナリスト・鈴木賢士氏(東京都)の「父母の国よ——中国残留孤児たちはいま」(大月書店)

◇NPO法人太平洋戦史館(岩手県衣川村)の「太平洋戦史館——LEST WE FORGET」

◇長崎放送制作の「銃後の村」

◇福井テレビジョン放送制作の「有沙と私 それぞれの壁
〜日本に嫁いだ中国人妻を追って〜」

基金賞（大賞）の沖縄タイムス社と神奈川新聞社の共同
企画「米軍再編を追う 安保の現場から」は、在日米軍の
再編問題を追った連載で、沖縄と神奈川の米軍基地の現状
を記者によるルポルタージュで紹介しながら、米軍の再編
が何を意図したものなのか、再編によって基地機能がどう
変わるのか、それにもなつて自衛隊の役割がどう変わる
のかを明らかにしたものの。「米軍再編の本質に迫ろうとい
うなみなみならぬジャーナリズム精神を感じる」と、高く
評価された。

同じく基金賞の毎日新聞社の「特集『戦後六十年の原点』
シリーズ」は、全社あげての取り組みを感じさせる大型企
画で、東京大空襲、沖縄戦、広島・長崎の原爆、敗戦、連
合軍による占領など、六〇年前の節目の出来事を再検証し
たもの。GHQの検閲によって目の目をみなかった、長崎
原爆についての米記者による被爆直後のルポも発掘、掲載
されている。「各新聞社の戦後六〇年ものでは質量ともに
群を抜く」「日本人が忘れていている六〇年前の事実を改

めて日本人に知らしめた。日本人が将来を展望するために
は、日本の過去を知ることが不可欠。そうした機会を与え
たこの特集はジャーナリズムの本道を行くもの」とされた。

奨励賞に選ばれた、斉藤とも子さんの「きのこ雲の下か
ら、明日へ」は、母親の胎内で被爆した原爆小頭症患者と
その親たちの苦難の生活史を紹介した著作だ。斉藤さんは
女優だが、多忙な仕事のかたわら、足しげく広島に通い、
親子からの聞き書きを重ねてこの記録をまとめた。

信濃毎日新聞社の「日中に生きる」は、中国残留孤児の
一世、その子、孫、ひ孫の四代にわたる中国からの帰国者
社会の実情を紹介した連載。広範囲にわたる丹念な取材に
より、いままでもあまり報道されることのなかったこの人た
ちの環境や生き方が明らかにされており、「満蒙開拓が生
み出した残留孤児問題が、今なお未解決であることを改め
て認識させる」とされた。

鈴木賢士氏の「父母の国よ——中国残留孤児たちはい
ま」も、写真と文で中国残留孤児の厳しい現実を紹介した
もの。鈴木氏はこれまでも韓国の被爆者、中国人強制連
行の生き証人などに焦点を当てた写真を発表しており、長
年にわたる、反戦平和のための報道活動が評価された。

NPO 法人太平洋戦史館は岩手県衣川村を拠点に、ニユーギニアで太平洋戦争中に戦没した日本兵のことを忘れず、いまだに放置されているその遺骨を収集する、といった活動を続けている民間団体。この団体が発行し続けてきた会報『戦史館だより』（編集長・花岡千賀子さん）をまとめたのが『太平洋戦史館——LEST WE FORGET』で、「日本の戦争処理のありかた、そして日本の将来の平和を考えるうえで貴重な問題提起となっている」と評価された。

長崎放送制作の『銃後の村』は、第二次大戦中、長崎県の農村の町医者が撮り続けた一六ミリフィルムの一部を紹介したもの。村を挙げて出征兵士を戦地に送り出すシーンもあり、当時の農村の風景や人びとの生活が、実にリアルに映像化されている。「アマチュアゆえの素朴な画面が、観る者を圧倒する」「よくこんな素材を見つけたものだ。そのことが、優れたドキュメンタリーを生んだ」とされた。

福井テレビジョン放送制作の『有沙と私 それぞれの壁〜日本に嫁いだ中国人妻を追って〜』は、日本の地方テレビ局で働く中国人女性の目を通して、日本人男性と中国人

女性の二組の結婚生活を追跡したドキュメンタリーで、「日本人、中国人という個人がそれぞれ抱える問題から、日中両国が抱える問題までを考えさせる作品」と、注目を集めた。

これまでの受賞作品について知りたい方は、基金のホームページ (<http://www.pcjinet/>) をご覧いただきたい。

(岩垂 弘)

バックラッシュの黒幕は—— 三井マリ子裁判提訴一周年記念集会

十二月一七日に大阪ドーンセンターで開かれた豊中市女性センター元館長、三井マリ子さんの提訴一周年記念集会は、折からの大吹雪にもかかわらず、国外からの参加も含め一三〇人以上もが詰めかけ、ジェンダーバックラッシュへの怒りを爆発させた。

第一部は五時間近い講演。まず、三井裁判弁護団のリーダー寺沢勝子さんが「この裁判が問いかけるもの」を、力強く訴えた。

「一年間の準備書面作成で、豊中市と財団がバックラッ

シユ勢力に屈したという確証を得たこと、裁判の第一の意義は、全国各地で吹き荒れるジェンダーバックラッシュ旋風に屈しないで、男女平等を進めようということだ」と強調。

「三井さんの雇止めは、非正規職員であるために簡単に行われたが、現在の厳しい経済状況下、非正規雇用は全労働者の三二・九%に達し、その労働条件は、ますます悪化している。三井さんも非常勤だったために雇止めにあったが、豊中市の行為は違法であり、今後の裁判で釈明される」と深刻な話をユーモアたっぷりに解説。聴衆を納得させた。続いて常任弁護士紀藤正樹さんが「バックラッシュシユ勢

力の黒幕」と題して、新興宗教や市場経済との関係を明らかに。「靈感商法で年間三〇億も儲けている大組織が黒幕にある」という話に、一同背筋がゾクツとしたが、「インターネットによる情報発信や同志との連帯で対抗しよう」という案に、大きな拍手で決意を示した。

原告の三井マリ子さんは、「この十二月一七日を〈女性労働の搾取を告発する日〉としてイベントを」と提案。聴衆は大きな拍手で賛同と共感を明らかにした。

第二部は軽く飲食しながら、ジャズの生演奏と歌、そして踊り。ジェンダーバックラッシュを吹き飛ばす、すばらしい一日を過ごした。

(吉田真理子)

記者・ 執筆者 募集!!

ジェンダー、「障害」、身分、沖縄、その他あらゆる差別や、憲法改悪、軍事化などに反対する集会を取材する方。とくに地方の方を歓迎。

また、女性問題はじめあらゆる「差別」に関する論文や提案も、どしどしどうぞ。
できれば原稿を添えて下記へ。

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-9-4

TEL 03-3354・3941

FAX 03-3354・9014

E-mail

XLV05467@nifty.com

あづらのあづらのあづらのあづらのあづらのあづらのあづら

入会しました

縁あって、貴誌302号、拝見いたしました。尊敬する大田昌秀氏の講演録や、『フィデル・カストロ』の書評など、感銘深く読ませていただきました。

最後、一八四ページに「もつと読者がふえると、うれしいですね」というお言葉を讀んで、入会させていただくことにしました。どうぞよろしく。

(東京 桑田喜美子)

「302号を読んで」

お送りくださいました「あごろ」302号、昨日届きました。さっそく開けて拝見いたしましたら、今、最も大切なテーマが表紙になっていて「さす

が」と、嬉しく力強く思いました。

座視して何もしない者（私）にも、きちんと行動して、思想の指標をお与えくださる方がたが、友人の滝島典子様だけでなく、全国にいらっしゃるのだと、改めて尊敬の念を覚えました。

また、以前、心からそう思ったことをお礼として送りましたら（すっかり忘れておりました）きちんと取り上げて、載せてくださいましたことには、実にびっくりいたしました。

さまざまに、お心に留めていただき
ましたこと、厚くお礼申し上げます。

八王子市で戦災誌作成に参加したご縁で、こんな素敵なプレミアムがつくとは、夢にも考えておりませんでした。一五年ぶりに、今年はブックレットを出版しました。私は、ほんのほんの

すこし手伝っただけですが、もしよろしかったら、ご覧くださいませ。

（東京 桑田喜美子）
今後とも良い本を出してください

302号の憲法問題、大変よかったです。304号も急がずに、よい本を出してください。蔭ながら応援しております。

(東京 上之園幸子)

(東京 上之園幸子)

303号に投稿しました

思いきって書きました

一九九五年、中国遼寧省で開かれた国際服飾学会に参加した折、「中国は私の故郷です」と話したことを小俣さまが覚えていて下さって、このたびの原稿になりました。

去年の九月から、肺がんになり、や

つと「十一月はレントゲンも採血も休みにしましょう」と昨日言われ、ホッとしています。

七〇歳になり、いろいろな意味で、この節目の年を大切にしたいと思っています。多くの方たちの歴史を、303号で読ませていただくことを、楽しみにしています。この年になって、やっと素直に自分と向きあえるようになりました。

(福岡 平野俊子)

編集部へ感謝

最終校正、届きました。

読み返してみれば、締切り間際の際稿ゆえに、いささかまとめかたが稚拙である点が否めません。

しかし、あれは、あの時点での私の力量不足。それよりも、何とかまとめ上げてくださった編集部のご尽力に感謝申し上げるしかありません。

「小泉総選挙」以来、事態はますます悪化の一途を辿っているように思えてなりません。次は、憲法改悪への途が目に見えております。

だからこそ、〈あごろ〉のような市民のための良識の「声」が必要とされます。存続が必要とされます。校正紙とともに、心ばかりの賛助金を同封いたします。どうぞ、お納めください。

『私にとつての戦後六〇年』、多くの良識ある方がたが、どんな思いでこの時代を共有しておられるのか、興味の尽きないところで。

編集部の方がた、日頃のご尽力に敬意を表します。都を遠く離れた山村の僻地にも、熱い思いでエールを送り続けている者もいるということを、どうぞお忘れなく。私たちの目指す世界のために、さらに連帯してゆきたいものと念じております。(新潟県増村秀二)

303号を読んで

四〇冊広めます

「あごろ」303号を四〇冊送ってください。友人たちに一冊ずつ送ってみます。その時に、一冊ずつに〈あごろ〉の思いや経済的苦況を書いたものがあれば入れておいてください。私自身のメッセージをつけて、私から送付してみます。

「あごろ」誌代お送りします。もし残金があれば、カンパということに致します。(東京都 吉村典子)

掲載にただ感謝!

この度は「あごろ」303号をお送りいただき、ありがとうございます。滝島典子さんのお力添えで、このような立派な本に、私の原稿を載せていただき、光栄に思っております。友だ

ちにも読んでいただこうと思っております。

不戦・不差別・不暴力を掲げて、私も生きてゆきたいと思っております。

〈あごろ〉のみなさまに感謝・感謝です。
(東京都 堀尾陽子)

一気に読みました

「戦後六〇年」ご苦労さまでした。一気に読みました。(東京都 坂井桂子)

介護の毎日のなかで

ご無沙汰しております。303号は大変ご苦労されたようですね。

何もしないで、いつも「受け手」の立場にいる私ですが、「あごろ」を読むと、「時代の流れてゆく方向を、きちんと見据えて、自分のできる事を」と心して生活しています。

とはいえ、あと数日で百歳になる母

と、断わりきれない事情で週三日の非常勤勤務を引き受けて、めまぐるしく動いていると、つつい流されてしまいます。

職場でのDVケースや、あつけらんと風俗店で働いたことを話す、若い世代とかかわり合うとき、「この現象は何か」と、悩んでいます。

本を二冊送付してください。残りは少ないですが、カンパです。

(埼玉県 石崎雅子)

表紙が気に入りました

303号は、いつもと違う表紙でしたが、とても気に入りました。

これからのテーマを楽しみにしています。
(新潟 志苦純子)

熱い思いに打たれました

全国の方がたの思い、そして編集部

のみなさまの、熱い思いを受けとりました。ありがとうございます。

寒くなりますので、お身体をご自愛ください。
(愛媛 宮脇初恵)

一心に読みました

302号、303号ともに、たいへん関心をもって読ませていただきました。
(東京 宇佐川富子)

皆さんの原稿に感激

303号読ませていただきました。それぞれの「私」とつての戦後六〇年の素晴らしい内容に感動し、私のつたなさに恐縮しています。

忘年会を兼ねた「夕ごはんを食べる会」に誘われ、302号二冊をプレゼントしました。一冊は、この会の本棚に置いてもらつたらいいなと思います。吹田市の女性市議員をしている

かたの事務所です。(大阪 吉田悠子)

集会のときプレゼントします

府中市女性史編さん実行委員会、二〇〇五年最終のクリスマス会を兼ねた集会に、303号をプレゼントします。

(東京 滝島典子)

残念ですが

目を思い読めなくなりました

ここ数日、日本列島大雲の毎日です。

みなさまお元気でしょうか。

いつも『あごろ』をお送りいただきありがとうございます。

数年前より眼を思い、活字が読みづらくなりました。今日まで何十年と貴誌により育てられてまいりましたが、少々無理となりました。

七五歳の誕生日を機会に、いったん打ち切りたいと思います。本当にお世

話になりました。

最後の「私にとつての戦後六〇年」。終戦時一四歳の私には、新しい歩みと重なるものがありました。

(香川 豊田妙子)

305号に寄せて

ジェンダーバッシングの号に期待

「ジェンダーバッシング」は、ほかに様々な形で影響が出て広がることに懸念されます。

先日、新聞投稿をしました。「内閣府の男女共同参画局は、この件に関しどう対処したか、何も見えてこない、また、この宣言都市への推進はしたが、検証をするべきだ」ということなどです。

翌日偶然、猪口担当相の「ジェンダー」の定義を明確にするという新聞記事が出ました。

完璧なまでに仕組まれた「ジェンダーバッシング」に愕然とし、女性側もこれに対し、分野を越えてネットワークをつくり、剛柔多様な戦略を遂行しなくてはならないと思ひました。

身近な男性を理解者として増やす工夫も重要課題と思っています。(本当は一番むずかしい)

尽きるところ、教育がいかに大切か、今、それも危うい……

305号に期待しております。

(東京 青野まり)

私の近況

仲間にはげまされつつ

先日「風」の土井さんにお会いしました。「元気ですから、斎藤さんによろしく」とのこと、写真お送りします。

来年、土井さんは平和映画祭をする

ので、実行委員として忙しくなりそう。

私は、〈ウインあいち〉へ。あいち国際女性映画祭に出席して、おしゃべりできました。

ひどい選挙で、あつげにとられていた間に、国政の劣化。私のように、ちよつと歴史をかじっただけの者でも、おかしいとわかるのに、なぜ靖国神社へ行くのでしょうか？ 私は、かわいい

お嫁さんになるのだと、当然のように思っていて、三七歳頃、この世界のしくみを勉強しはじめて、まだ今も、からっぽのコップに一滴一滴と……。

事務局のみなさま、ご自分の健康第一に。お大切に。いつもありがとうございます。 (岐阜県 大橋倫子)

歌を通して きずなを深めつつ

〈あごろ〉と出会って、久しく時が

過ぎております。

女性に生まれた私は、いつも女性の生き方がテーマで、いろいろな社会の接点を探しております。

好きな歌を通して出会った方がたにメッセージを届けさせてもらってありましたところ、たまたま応募した作品に、賞をいただけました。気をよくして、伊勢新聞の切り抜きなどを同封いたしました。

歌の中に「人生」が、「心」があり、「歴史」があります。

折にふれ出会った中高年のみなさん一〇〇〇人ほどの方がたとの交流を持ち、私は本当に幸せ者です。小さな事を一つ一つわかっていただけるよう、お話しさせてもらっています。

日本の伝統文化である童謡唱歌、日本歌曲を通し、ゆるやかに奥深く、社会を見つめる何かを訴えていきたいと

思っております。平成の童謡運動の助となるよう努めていきたいと念じております。

平和を求め、本物は何かを求める大切なことが、先人の作られた歌の中に語り継がれております。

今後、私の課題として取り組んでいきたいことが、一つずつわかってきたような気がいたします。

せつかくの人生。大切に生ききってみたいと、この頃、特に思うようになりました。丈夫な身体、健康なハート念じています。 (愛知 戸田順子)

〔伊勢新聞の記事から〕
長野県池田町出身で童謡『てるてる坊主』の作詞者、浅原六郎（一八九五—一九七七）氏の生誕一一〇年を記念し、同町が全国から募集した『てるてる坊主の想い出メッセージ』に寄せた戸田順子さんの原稿が表彰された。

戸田さんは、約一〇年前から、四日市や桑名市、鈴鹿市の一〇か所で中高年を対象に「童謡を歌う会」の教室を主宰している。

「晴れたり曇ったりの日々は、人生と同じ。『てるてる坊主』はそれを実感する幸せを教えてくれる。いつも教室の人へ語り掛けている童謡の心を原稿に載せました」

音楽好きな父親のもとで育ち、子どもころから、身近に音楽があった。長く努めたしゅうとめの介護を終えた四五歳から、歌うことで多くの人に元氣になってもらえたらと、本格的にコンサートなどの音楽活動を始めた。

「歌う会」では、童謡文化を培った作詞者や作曲者の思いをトピックに挟みながら紹介したり、身近な日常の話題を語り掛けて同じ人生行路を歩む熟年世代の共感を呼ぶ。自らを「歌の宅急

便」と呼び、要望があればどこへでも出向く。

「てるてる坊主」は誰もが子どものころ口ずさんだ温かく懐かしい調べ。童謡や唱歌には、時代を反映した日本の風景があるという。子どもたちが童謡を歌うことが少なくなつて久しい現代に「歌い継いでいくことは大切な使命。私にとって歌は幸せに生きる源だから」と明るく語る。

(二〇〇五・一一・二六)

「私の本屋」にBOCCの本を並べます

変わらず頑張つてくださっていること、感謝です。会費を含めて、年末に二万円送ろう!と、昨年決心したにもかかわらず、遅くなつて申しわけありません。

絵本、お願いしたいです。カウンセリングのほうが忙しく、本屋は全くヒ

マで、売れる自信はないのですが、それでもいいですか?

(徳島 booksみるくうゆ 河野和代)

思ひつと

励ましあい 支えあつて

小泉「改革」を地でいく「虚業」ラ イブドア事件で大騒ぎといった昨今ですが、自民党ははっきり言つて「戦争をしたがつている!」と、非常に危機感を感じます。

九条を核心とした憲法の改革、国民投票法案、共謀罪の新設と、恐ろしいものが次つぎと私たちの身にふりかかつてきます。

今後もお互いに励ましあい、支えあつて、手をたずさえてまいりましょう。

(東京 高橋ゆき子)

語り継ぐべきことを考えつつ

時代の流れの中で、語りついでいかなくてはいけない出来事が、逆に消されていこうとしていることに、危機感をつのらせております。

語りつぐべきことは何か、〈あこら〉で学びたいと思っております。

(東京 常盤佳子)

「勝ち組」と「負け組」

雪が降りつづく日々で、家にこもっています。

小学生が犠牲になる事件が続発しています。「勝ち組」「負け組」社会が明確になってきて、「負け」に属していると思っている人たちが、小学生女児という弱者に当たる構図がみえるのですが……。

(新潟 南雲和子)

私の「おすすめサイト」

昨年は大変お世話になり、ありがと

うございました。今、『マガジン9条』ではネットによる国民投票を行なっておりますので覗いてみてください。

憲法9条を変えようという大きな動きの中で、より多くの人がもう一度「9条」と向き合うためにも、『マガジン9条』は、おすすめサイトです。

(新潟 鈴木勢子)

削除

削除

男性の声

親父のための育児休業！

昨年の年明けに妻の妊娠が分かりました。これが最後のチャンスと思い、何としても育児休業を取得しよう、と、ない知恵しばって仕事のスケジュールをやりくりしてきました。

そして、無事、次男が十一月一日という覚えやすい日に誕生して、男女共同参画局の仕事でも、「改正配偶者暴力防止法に基づく基本方針」を、十二月二日の改正法施行と同時に策定することができました。なんてありがたい

時代に生まれたんだろうと感謝の念を胸いっぱい抱きながら、育児に突入しました。なんでも内閣府では三人目、管理職では初めてだそうです。順位で言えばいずれもメダルものです。この貴重な経験を通じて思ったことを背かせていただきます。この文章を読んで、一人でも多くのお父さんが、育児に関心を持ってもらえれば本望です。

私が育児に入ったのは息子が生後一か月になったころからでした。それまでは、妻のお母さんが上京して、お世話をしてくれていました。お義母さんは私の育児突入を見届けて、郷里に戻られました。その日は、よく晴れた、十二月にしてはわりと暖かい日でした。今日から、私は、お義母さんの代わりです。さあ、大変です。

生後一か月とはいえど、もちろん首はすわっていません。昼夜かまわずふぎやふぎや泣きます。ウンチします。おしっこします。おっぱいのみです。それだけです。もちろんしゃべりませんし、笑ってもくれません。人間同士のコミュニケーションは成り立ちません。これが結構大変です。誰かのために苦労した時、その人からありがたいの一言があれば、それまでの苦労は吹っ飛ぶといいます。

でも、夜中に長い間次男を抱え上げて腰を痛めながらゲップを出させても（我が家ではこれを「ゲップリン」と呼んでいました）、ウンチとおしっこが飛び交う中（何度か被弾しました。）おむつを替えても、もちろん「ありがたい」はありません。笑顔もありません。これが何日も続くと、結構まいります。賽の河原に石を積んでいるような気分になります。

我が家では、特に約束していたわけではないのですが、どちらかが次男の世話をしている時は、お互いに赤ちゃんに代わって「ありがたい」と言っていました。今思えば、これが癒しになっていたような気がします。妻に聞いてみたことではないのですが、妻も私の「ありがたい」は、結構癒しになっていたのではないかと思います。

長男は六歳で来年から小学校です。

彼が赤ちゃん返りしないように、次男が生まれる前から「パパとママと一緒に赤ちゃんのお世話をしようね」と洗脳してきました。何事も根回しが大事です。そのかいあって、やや甘えん坊ではありましたが、長男は赤ちゃん返りもせず、よくお世話を手伝ってくれました。「ガーゼ取って」とか言うのと、ぴゅつと走って行って取ってきてくれました。ただ、長男は、「赤ちゃん可愛い」と言うものの、可愛がり方がわかっていなくて、ほつべたをつついたり、鼻をつまんだりして、いやがられています。一度などは、やっと寝かしつけたと思つて、ほつとしていたら、横から出てきて、「赤ちゃんの足、可愛い——い」とか言つて、足をこちょこちょして、起こしてしまいました。これにはまいりました。苦勞して寝かしつけたこともあり、思わずかつ

となつて叱りつけてしまいました。長男はべそをかいていました。でも、自分の行為の結果を予測してやったわけではないので可哀相なことをしたなと後で反省しました。自己嫌悪です。次男は、まだ首が据わっていないので、寝かしつける時もおんぶ紐が使えません。しょうがないので抱っこして、お尻を支えている手の人指し指から薬指の三本の指でとんととおなかの当たりを軽く叩いて、部屋の中を十五分くらい歩き回っていると、大体眠りました。指のとんとんが止まると起きるので、眠るまでずっと続けましたが、普段使わない筋肉がこわばつてきて大変でした。指三本で腕相撲をやつたら、ひよつとしたら、今なら私は局内で横綱かもしれません。

ところで、動物園のアライグマのように部屋の中をぐるぐる歩くだけとい

うのも退屈だったので、時計をみながら、一分間に何回指でリズムを刻んでいるんだろうと数えてみたら、なんと二〇八！にもなりました。ちよつとびっくりしました。この子のペースにはプレストのリズムが流れるかも知れないけど、人生は生き急がないで欲しいなと漠然と考えました。

十二月も終わりに近づいた頃、朝、歯を磨いていたら、私を呼ぶ妻の声が聞こえてきました。ちよつと来てと言われるままにちよつと行ってみますと、妻が次男のほつべたを触っていて、それに反応して次男がにつこり笑っていました。まだ筋肉の体操にすぎないことはわかっていますが、それにしても、もうそんなことができるようになるとは！感無量でした。赤ちゃんには笑顔がよく似合う。笑顔は、赤ちゃんの最終兵器ですよ。この笑顔があ

るから、人間は子育てに励むんだと体の芯から理解できました。その後、妻と私と長男の三人で取り囲み、鍋をつつくように、ほつべたをつつき続けました。次男はさぞ迷惑だったと思います。そして、本年の一月十一日、妻に惜しまれつつ、特大のサザエさんシンドロームに浸りながら、職場に復帰しました。

一か月ではありましたが、弱々しい力ではがみついていた次男の手の感触、腕の中で眠った次男の重み、ゲップを出していたら肩口でミルクを吐かれたこと、平日に長男の自転車の特訓をしたこと（補助輪が取れた）、長男に手伝わせながら料理をしたこと、妻の入院・長男の喘息の発作・次男の原因不明の咳が同時に発生してパニックに陥ったこと、そして初めての笑顔などなど、決して生涯忘れることのない思い出が、数えきれないほどできました。

確かに育児は妻一人でもできないわけではありません。事実、私の上の世代は、ほとんどの人がそうしてきたのでしょうか。しかし、育児の間に得た思い出は何ものにも代えられないものだと思います。それは、家族が家族であることの意味であり、自分が家族の一員であることを再確認するという、とてもかけがえのない時間です。敢えて言えば、育児は妻のためではなく「お父さんが自分のために取れる」休暇です。仕事は待つてくれませんし、それぞれ職場での立場も難しいものがあるかもしれませんが。しかし、取れるのであればぜひ、お父さんには育児を取ってほしいと思います。

仕事はせいぜい三〇年〜四〇年ですが、家族は死ぬまで家族です。育児は

生涯にわたつての財産をもたらし続けるものと思います。

最後に、今回の育休は、天の利（時代の趨勢）、地の利（仕事の状況）に加え、人の利が合わさって、初めて取得できたものと思っています。この場を借りて、温かくサポートしていただいた上司と優秀なスタッフの皆さんに御礼を申し上げたいと思います。

（なお、この小文は、筆者の個人的意見であつて、男女共同参画局の見解を表明したものではないです。）

（埼玉 井上卓——元男女共同参画局推進課）

大みそかのへんな電話

「へんがら」か。上海の日本大使館の館員が自殺した。お前たちのせいだぞ」

ガシャッ！

忙しくて、新聞もテレビも見えてな

ったので、ただ不愉快な気分だけ残りました。それにしても、「へんがら」は、「どんな団体」に「なぜ」電話番号を登録されたのか……。

（東京 事務局）

「へんがら」が紹介されました

※「平和・協同ジャーナリスト基金ニュース 56号」が、「へんがら」を紹介してくださいました。内容は以下のとおりです。

「女性誌『へんがら』が、303号で〈私にとつての戦後六〇年〉を特集。國弘正雄、大石又七、岡崎トミ子、福島みずほの各氏ら四七人が寄稿しています。」

「へんがら」は、一九九九年に第五回平和・協同ジャーナリスト基金賞運営委員会賞を受賞されています。

※「中日新聞」は、〇五年七月二四日号にカラーページ一面を使って「へんがら」と斎藤千代さんを紹介。事務局の

四人の写真も掲載されました。

（記者は平岩勇司さん）

※「中日新聞」は、〇六年一月五日号にも、特集「ふるきをたずねてあたらしきをしる新聞温故知新」の〈性差別「オンナの書かれ方」〉で、斎藤さんのコメントを、写真入りで紹介。読者の何人かの方から「よい記事だった」と事務局にお電話がありました。

（記者は野村由美子さん）

※名古屋から二度も取材に見えたのは、毎日新聞のコラムを書いておられる元村有希子さん（以前「へんがら九州」に参加しておられた方）が、ご自分のコラムに斎藤さんのことを書いてくださったから。次から次へ「わらしべ長者」のよう……。これで「へんがら」も、財政難から抜け出せるといいですね。岩垂様、元村様、平岩様、野村様、掲載、ほんとうにありがとうございます！！

〔編集後記〕



◆犬、いぬ、イヌ……今年のお年賀状には、ステキなイヌがぞくぞく登場。この犬たちの働きで、きつと、悪人の「イヌ」世になりますネッ！ (千)

◆あごろにきて一年が経ち、いろいろな勉強をしました。今年はより一層頑張ります。ダイエットも……。 (い)

◆校正のチェックは十二分に行っていたつもりですが：無意識の内に読んでいたのでしょうか。次号こそ……。 (Y)

◆「遅い！」とお思いでしょうが、編集するほうは、年賀状を読むヒマもないくらい大忙しなのです。

それにしても、全国からのたくさんの声・声……とてもありがたいことです。これから、ゆつくりと読ませていただ

き、元氣をもらいます。

(と)

◆以前のように各拠点で持ち回りを！今年こそゼヒ！ (M)

◆「会と催し」にご寄稿頂いた吉田かよ子さん（オーラル・ヒストリー学会

も言える（あごろ）Ⅱ「柵のない広場」の中の（あごろ）です。
ハガキに二、三行でも、四百字原稿何枚でも、お考えのこと、どしどしご投稿ください。

あごろ「303号」お詫びと訂正 (R)

長・北星学園大学教授、当日同時通訳担当)、「窓」のご執筆を超ご多用のなかご快諾下さった俵義文さん、など、貴重な御原稿を早ばやと頂いていましたのに、三〇三号は特集記事で満杯になり、今号に掲載させていただきましたことを深くお詫びします。 (光)

◆表紙の筆者名「山本清子」さんは「山下清子」さん、八二頁の肩書き、東京「Y MCA」は「YWCA」の誤植でした。また八頁の詩九行目「殺されなかったか」は「殺さなかったか」の誤りです。どれも超重大なことばかり。心からお詫びして、訂正させていただきます。※連載「母を語る」は記事が満杯で、次号回しになりました。

◆「男の子育て」がやっと誌面化してホッとなりました。長い間、夢でうなされていました。こんないい記事を眠らせて、すみません。 (さ)

三〇四号の編集協力者

◆新聞や雑誌に投稿しても、社会批判などは、なかなか載らなくなった今、ご投稿は「あごろ」へ。
「あごろのあごろ」は、誰でも何で

天野尚美／井坂紀子／伊藤登美子／内田大介／荻原有希／小野良子／小俣光子／桑原ちえ子／古賀節子／斎藤千代／斎藤 涼／橋本 勝

へあごろは、人と人が出会うひろば――

思い悩んだとき、もっと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……
心おきなく話し合える仲間がいる。――そんなひろばが、北海道から沖縄
まで、いつのまにか広がりました。

雑誌「あごろ」を軸に、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯。
どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――
「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

会費は月刊『あごろ』の誌代込みで月額七〇〇円（在学中の方は三五〇円）。
一年分（八、四〇〇円、学生の方は四、二〇〇円）前払いが原則ですが、半年
分でも二か月分でもご相談に応じます。入会金は二、〇〇〇円（学生の方
は無料）。ハガキ・FAX・メール・電話でお申し込みください。

へBOCへの登録もどうぞ……

一九六〇年に生まれたへBOCバンク・オブ・クリエイティビティは、
へ創造力の銀行。あなたの創造力や特技、希望の報酬をご登録ください。
各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな
へ創造力でも歓迎！ ただし、半年以上へあごろ会員の方に限ります。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル

電話 03・3354・3941 代表 FAX 03・3354・9014

連絡先

Eメール XLV05467@nifty.com またはboc@mb.infoweb.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/agora1/>

あごろ 304号（12・1月合併号） 希望の灯をともしよう

- 編集 あごろ新宿 ●発行 2006年1月20日 ●印刷 藤田印刷(株)
 - 発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル3F
 - TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com
 - 定価 本体1,200円+税 ●振替 00100-0-5264 BOCあごろ編集部
-



9784893061577



1920036012008

ISBN4-89306-157-7

C0036 ¥1200E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体1,200円+税

企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —
女性専門職集団

BOC

各種プランニング

各種調査

取材・撮影・編集

校正・デザイン・レイアウト

各国語翻訳その他

男女共同参画の

BOCシニアも

スタートしました。

ベテランの知恵と経験を

お役立てください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03-3354・3941 FAX3354・9014

E-mail XLV05467@nifty.com

近刊シリーズ イスラム世界との対話

久山 宗彦
ギデル・ディア

久山 宗彦
ギデル・ディア

重光 綾子
沢井 敏子 編

片倉 邦雄

「日本人のイラク人救援とイラク人の日本人救出」

国連の長期にわたるイラク経済制裁と米軍の武力進出によって、イラクはいかに傷ついたか。三人の日本人の拘束と釈放の真実は、日本人釈放に奔走したイラク人、ディア氏が、今こそ真実を激白。

「西欧に対するイスラム教徒の対立感の

焦点としてのイスラエルとイラクの将来」

「アラブ女性の生活スタイル」

「イスラム世界と日本はどうつきあうか」

サイレントマイノリティのBOC出版部